

2023 年度 須坂市市民総合意識調査報告書

2023 年 9 月

須坂市

目次

1. 市民意識調査の概要	1
2. 市民総合意識調査結果	2
(1) 回答者とその家族の属性	2
(2) 須坂市の施策に対する評価	8
(3) 自身の活動の状況や今後の意向	36
(4) 須坂市のまちづくりに対する評価	46
(5) 須坂市の将来都市像	55
(6) これからのまちづくりの考え方	56
(7) 公共施設・公共交通の利用について	61
(8) 選挙に対する意識	64
<付属資料> 市民総合意識調査の調査票	67

1. 市民意識調査の概要

(1) 調査の目的

第六次須坂市総合計画前期基本計画が策定され2年が経過することから、施策に対する満足度や重要度などについて市民の皆様にご意見をお伺いし、今後の市政運営に役立てることを目的とし、実施しました。

(2) 実施概要

調査は以下の通り実施しました。

・調査対象者	：須坂市内に住む 18 歳以上の男女 1,000 人
・抽出方法	：住民基本台帳からの無作為抽出
・調査方法	：郵送調査・インターネット回答
・調査期間	：令和 5 年 6 月 16 日～7 月 10 日
・有効回答数	：485 人 内訳 郵送回答：403 人、インターネット回答：82 人（回答率 48.5%）

(3) 調査結果の留意点

- 報告書のパーセント数字は小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合があります。
- 複数回答の設問は、回答数を有効回答者数で除した割合を示しているため、割合の合計が 100%を超えています。

2. 市民総合意識調査結果

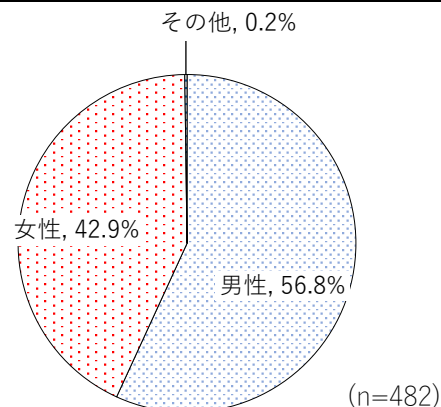
(1) 回答者とその家族の属性

- 性別を見ると、男性（56.8%）、女性（42.9%）となっています。
- 年齢を見ると、70代（26.8%）が最も多く、次いで50代、60代（15.8%）、40代（15.4%）の順となっています。60代以上の回答者が全体の半数以上となっています。
- 居住地区を見ると、須坂（19.2%）が最も多く、次いで日野（12.1%）、小山、井上（10.2%）の順となっています。

① 回答者の性別

図表 1 回答者の性別

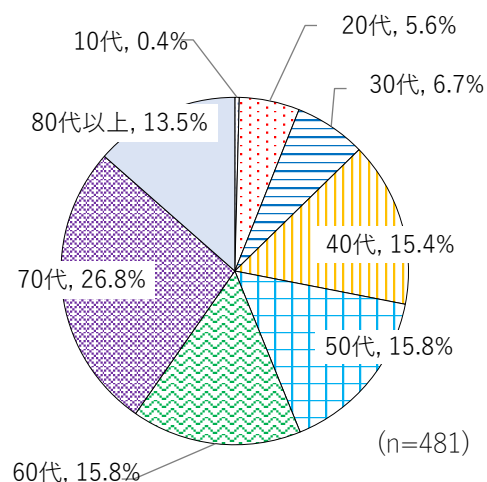
	度数	割合
男性	274	56.8
女性	207	42.9
その他	1	0.2
合計	482	100.0



② 回答者の年齢

図表 2 回答者の年齢

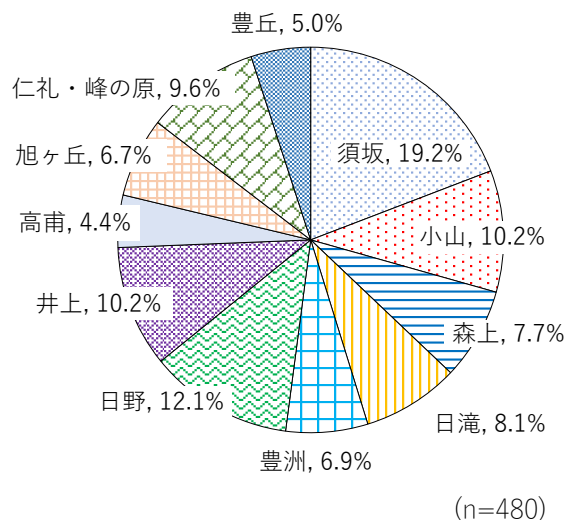
	度数	割合
10代	2	0.4
20代	27	5.6
30代	32	6.7
40代	74	15.4
50代	76	15.8
60代	76	15.8
70代	129	26.8
80代以上	65	13.5
合計	481	100.0



③ 回答者の居住地区

図表 3 回答者の居住地区

	度数	割合
須坂	92	19.2
小山	49	10.2
森上	37	7.7
日滝	39	8.1
豊洲	33	6.9
日野	58	12.1
井上	49	10.2
高甫	21	4.4
旭ヶ丘	32	6.7
仁礼・峰の原	46	9.6
豊丘	24	5.0
合計	480	100.0

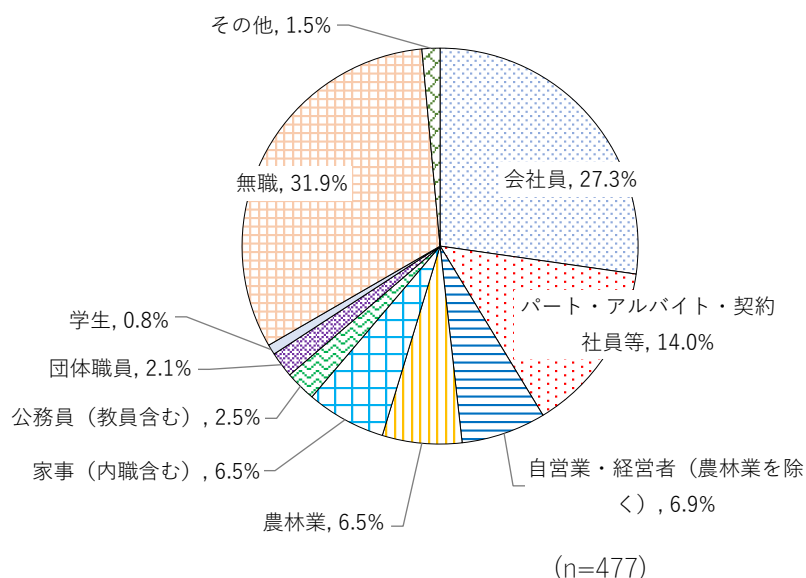


- 主な職業を見ると、無職（31.9%）が最も多く、次いで会社員（27.3%）、パート・アルバイト・契約社員等（14.0%）の順となっています。
- 回答者の主な職業で、会社員、パート・アルバイト・契約社員等、自営業・経営者（農林業を除く）、農林業、公務員（教員含む）、団体職員、その他と回答した方に、勤務地をお聞きしたところ、須坂市内（55.8%）が最も多く、次いで長野市（27.3%）、その他県内市町村（16.1%）の順となっています。須坂市外への通勤が4割以上となっています。
- 農地の所有状況を見ると、所有しているが全体の24.0%となっています。

④ 回答者の主な職業

図表 4 回答者の主な職業

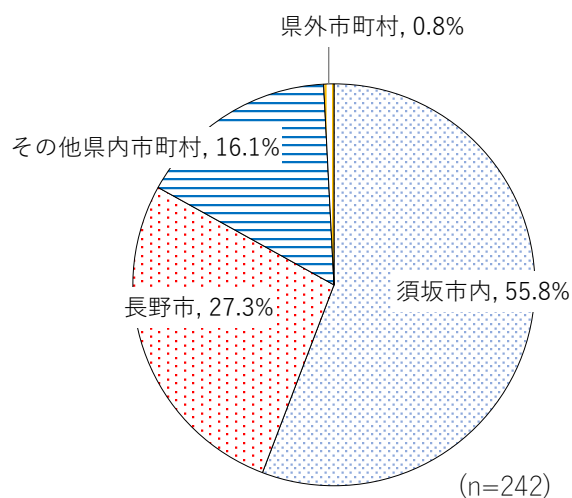
	度数	割合
会社員	130	27.3
パート・アルバイト・契約社員等	67	14.0
自営業・経営者（農林業を除く）	33	6.9
農林業	31	6.5
家事（内職含む）	31	6.5
公務員（教員含む）	12	2.5
団体職員	10	2.1
学生	4	0.8
無職	152	31.9
その他	7	1.5
合計	477	100.0



⑤ 回答者の勤務地

図表 5 回答者の勤務地

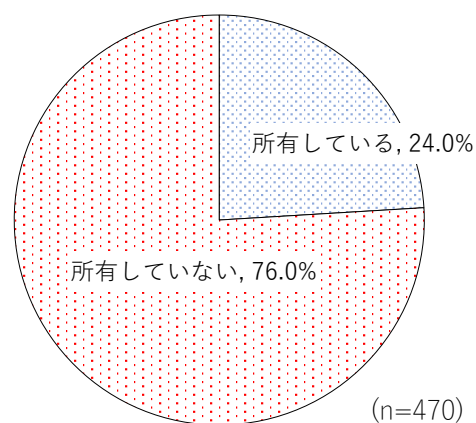
	度数	割合
須坂市内	135	55.8
長野市	66	27.3
その他県内市町村	39	16.1
県外市町村	2	0.8
合計	242	100.0



⑥ 回答者の農地の所有状況

図表 6 回答者の農地の所有状況

	度数	割合
所有している	113	24.0
所有していない	357	76.0
合計	470	100.0

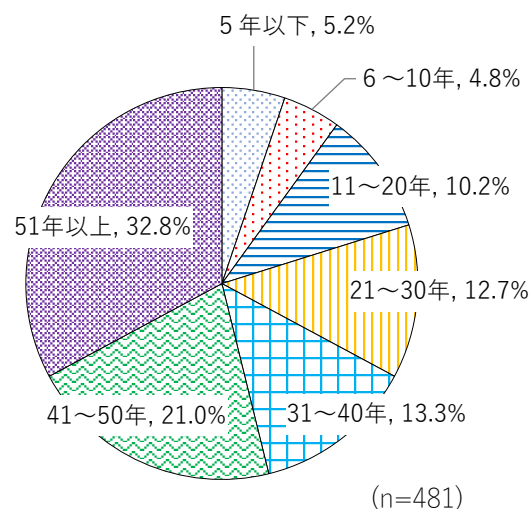


- 居住年数を見ると、51年以上（32.8%）が最も多く、次いで41～50年（21.0%）、31～40年（13.3%）の順となっています。
- 住まいの所有状況を見ると、持ち家（家族所有を含む）が9割近くを占める結果となっています。
- 配偶者の有無を見ると、結婚しているが約7割となっています。

⑦ 回答者の居住年数

図表 7 回答者の居住年数

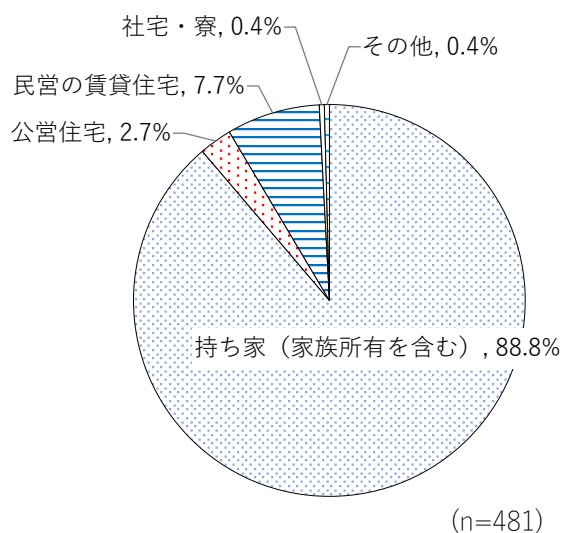
	度数	割合
5年以下	25	5.2
6～10年	23	4.8
11～20年	49	10.2
21～30年	61	12.7
31～40年	64	13.3
41～50年	101	21.0
51年以上	158	32.8
合計	481	100.0



⑧ 回答者の住まいの所有状況

図表 8 回答者の住まいの所有状況

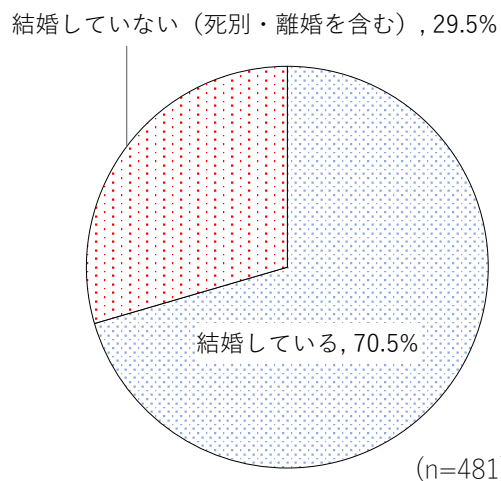
	度数	割合
持ち家（家族所有を含む）	427	88.8
公営住宅	13	2.7
民営の賃貸住宅	37	7.7
社宅・寮	2	0.4
その他	2	0.4
合計	481	100.0



⑨ 配偶者の有無

図表 9 回答者の配偶者の有無

	度数	割合
結婚している	339	70.5
結婚していない（死別・離婚を含む）	142	29.5
合計	481	100.0

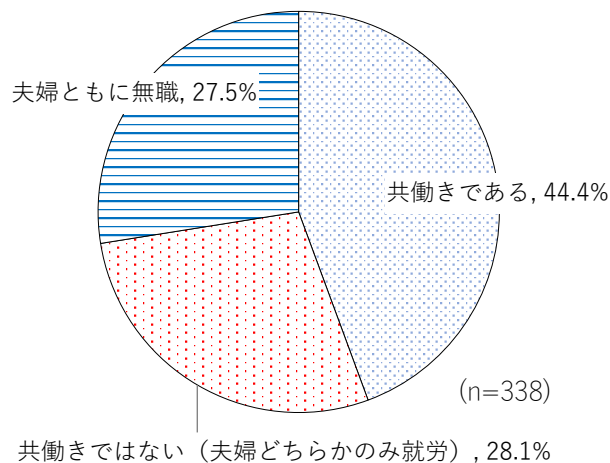


- 配偶者の有無で、結婚していると回答した方に、共働きの状況をお聞きしたところ、共働きであるが4割以上となっています。
- 同居している家族の構成を見ると、親子（2世帯）（44.6%）が最も多く、次いで夫婦だけ（27.1%）の順となっています。
- 同居中の18歳未満の家族の有無を見ると、子どもがいる世帯は3割弱にとどまっています。

⑩ 共働きの状況

図表 10 回答者の共働きの状況

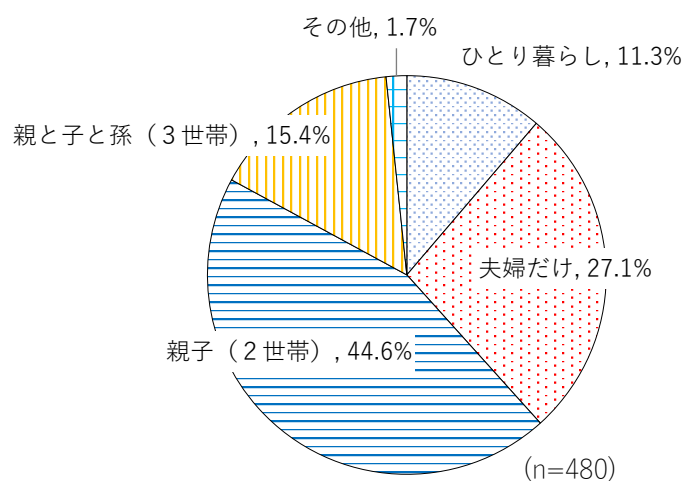
	度数	割合
共働きである	150	44.4
共働きではない（夫婦どちらかのみ就労）	95	28.1
夫婦ともに無職	93	27.5
合計	338	100.0



⑪ 同居している家族の構成

図表 11 回答者の同居している家族の構成

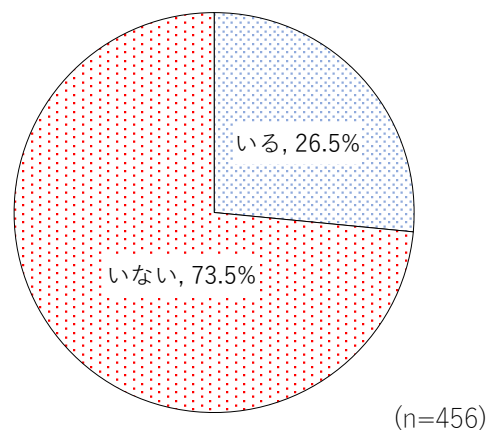
	度数	割合
ひとり暮らし	54	11.3
夫婦だけ	130	27.1
親子（2世帯）	214	44.6
親と子と孫（3世帯）	74	15.4
その他	8	1.7
合計	480	100.0



⑫ 同居中の18歳未満の家族の有無

図表 12 回答者の同居中の18歳未満の家族の有無

	度数	割合
いる	121	26.5
いない	335	73.5
合計	456	100.0

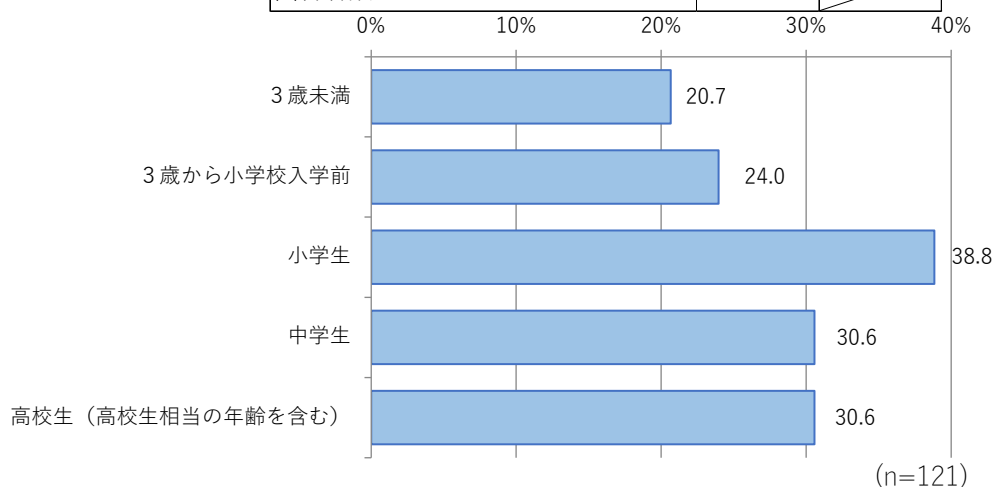


- 同居中の 18 歳未満の家族の有無で、いると回答した方に、同居中の 18 歳未満の家族の年齢をお聞きしたところ、小学生(38.8%)が最も多く、次いで中学生、高校生(高校生相当の年齢を含む)(30.6%)の順となっています。
- 同居している家族のうち、生活課題を抱えている人の有無を見ると、75 歳以上の方(82.5%)が最も多く、次いで障がい者手帳をもっている方(26.2%)の順となっています。

⑬ 同居中の 18 歳未満の家族の年齢【複数回答】

図表 13 同居中の 18 歳未満の家族の年齢

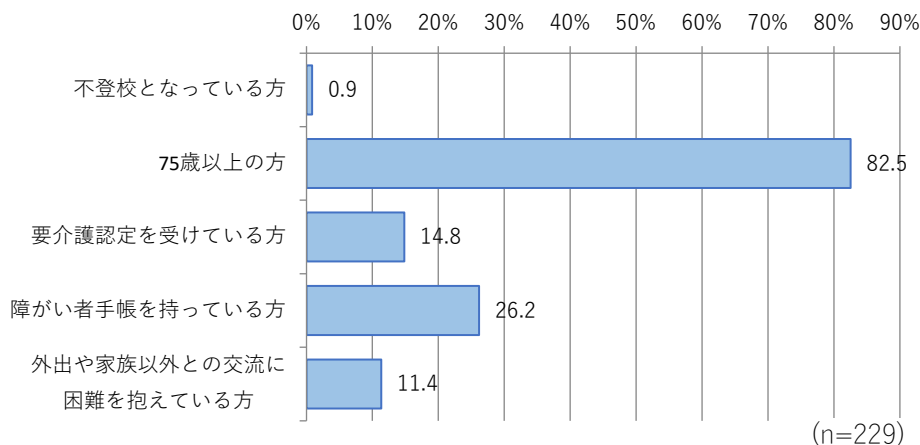
	度数	割合
3 歳未満	25	20.7
3 歳から小学校入学前	29	24.0
小学生	47	38.8
中学生	37	30.6
高校生（高校生相当の年齢を含む）	37	30.6
回答者数	121	



⑭ 同居している家族のうち、生活課題を抱えている人の有無【複数回答】

図表 14 同居している家族のうち、生活課題を抱えている人の有無

	度数	割合
不登校となっている方	2	0.9
75歳以上の方	189	82.5
要介護認定を受けている方	34	14.8
障がい者手帳を持っている方	60	26.2
外出や家族以外との交流に困難を抱えている方	26	11.4
回答者数	229	

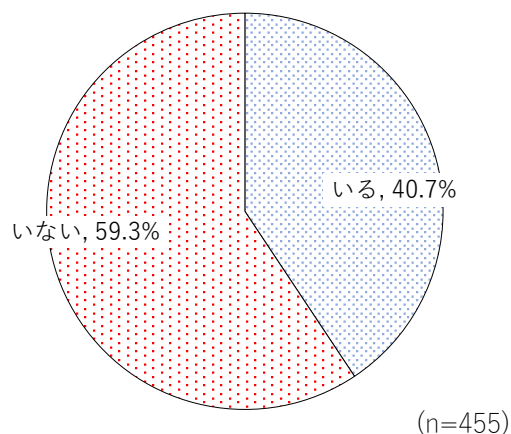


- 大学生以上の未婚の家族の有無を見ると、約6割の家庭が大学生以上の未婚の家族がいないと回答しています。
- 大学生以上の未婚の家族の有無で、いると回答した方に、大学生以上の未婚の家族の居住地をお聞きしたところ、同居（56.6%）が最も多く、次いで市外（県外）（33.0%）の順となっています。

⑮ 大学生以上の未婚の家族の有無

図表 15 大学生以上の未婚の家族の有無

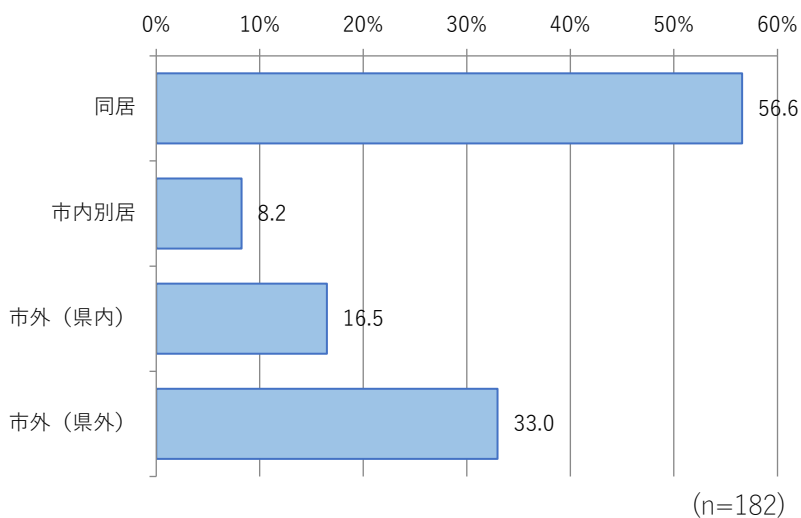
	度数	割合
いる	185	40.7
いない	270	59.3
合計	455	100.0



⑯ 大学生以上の未婚の家族の居住地

図表 16 大学生以上の未婚の家族の居住地【複数回答】

	度数	割合
同居	103	56.6
市内別居	15	8.2
市外（県内）	30	16.5
市外（県外）	60	33.0
回答者数	182	

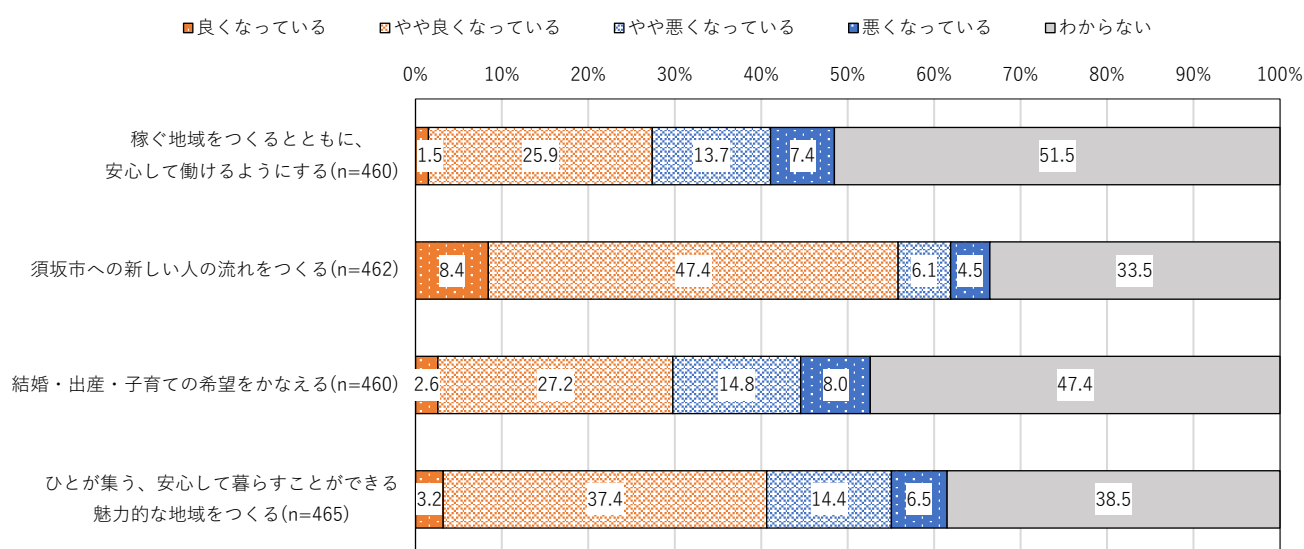


(2) 須坂市の施策に対する評価

- 重点プロジェクトの評価を見ると、「良くなっている」「やや良くなっている」と回答した人の割合は、「須坂市への新しい人の流れをつくる」が最も多く5割以上を占める結果になっています。一方で、「稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする」は3割弱にとどまっていることから、重点プロジェクトによって市民評価に差が生じています。
- 回答者の年代別に重点プロジェクト「稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする」の評価を見ると、「良くなっている」「やや良くなっている」と回答した人の割合は、80代以上（37.5%）が最も多くなっています。一方で、30代～70代で「悪くなっている」「やや悪くなっている」と回答した人の割合が2割以上を占める結果になっています。

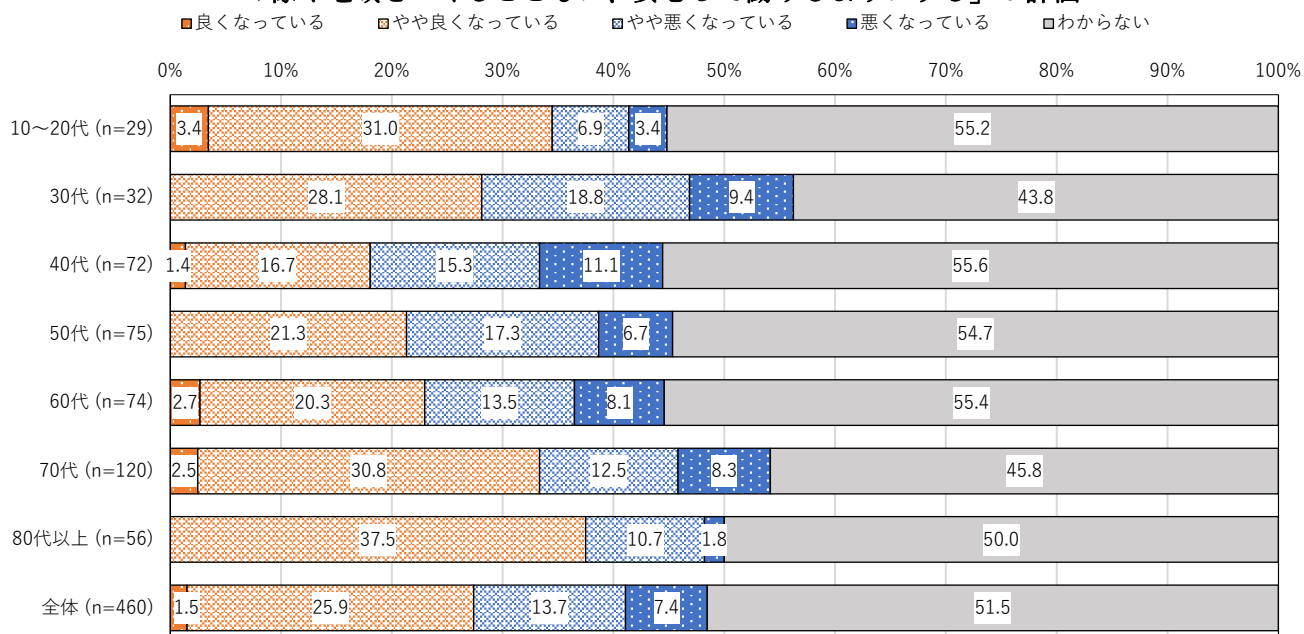
① 重点プロジェクトの評価

図表 17 重点プロジェクトの評価



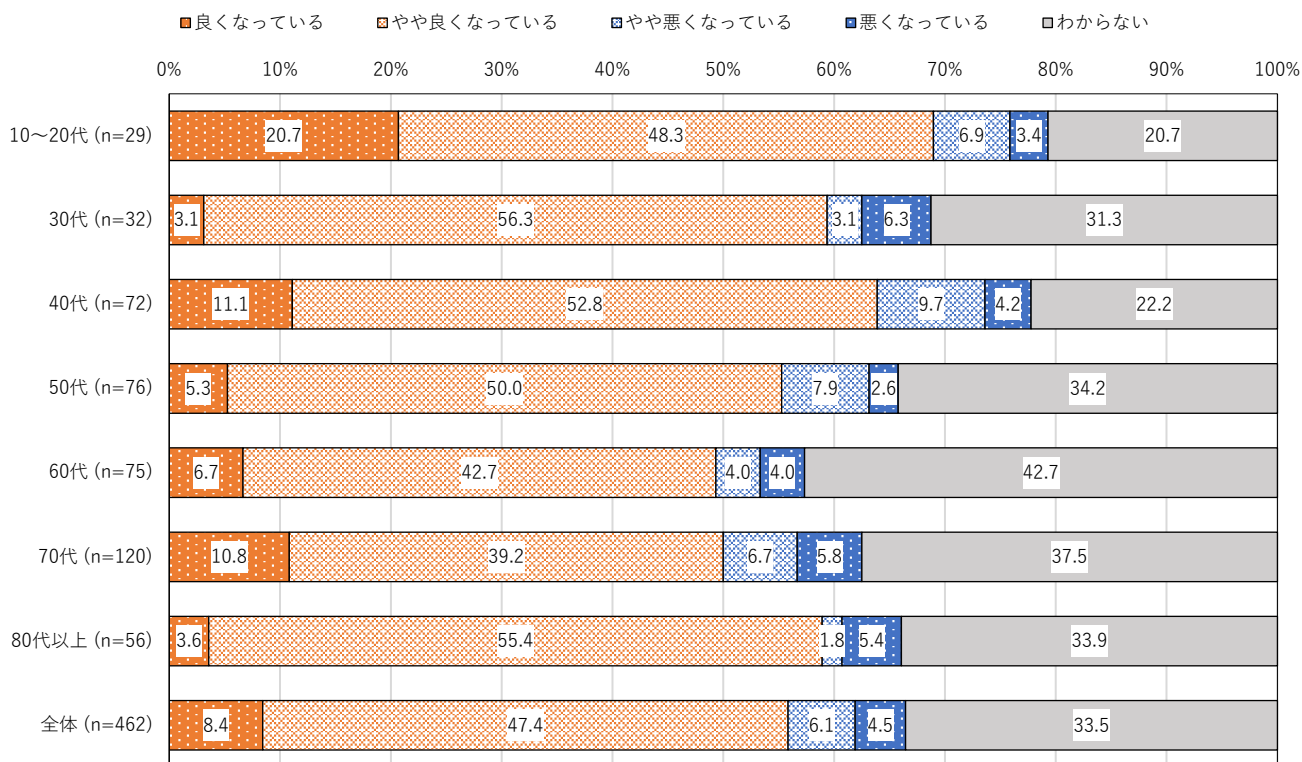
図表 18 回答者の年齢×重点プロジェクト

「稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする」の評価

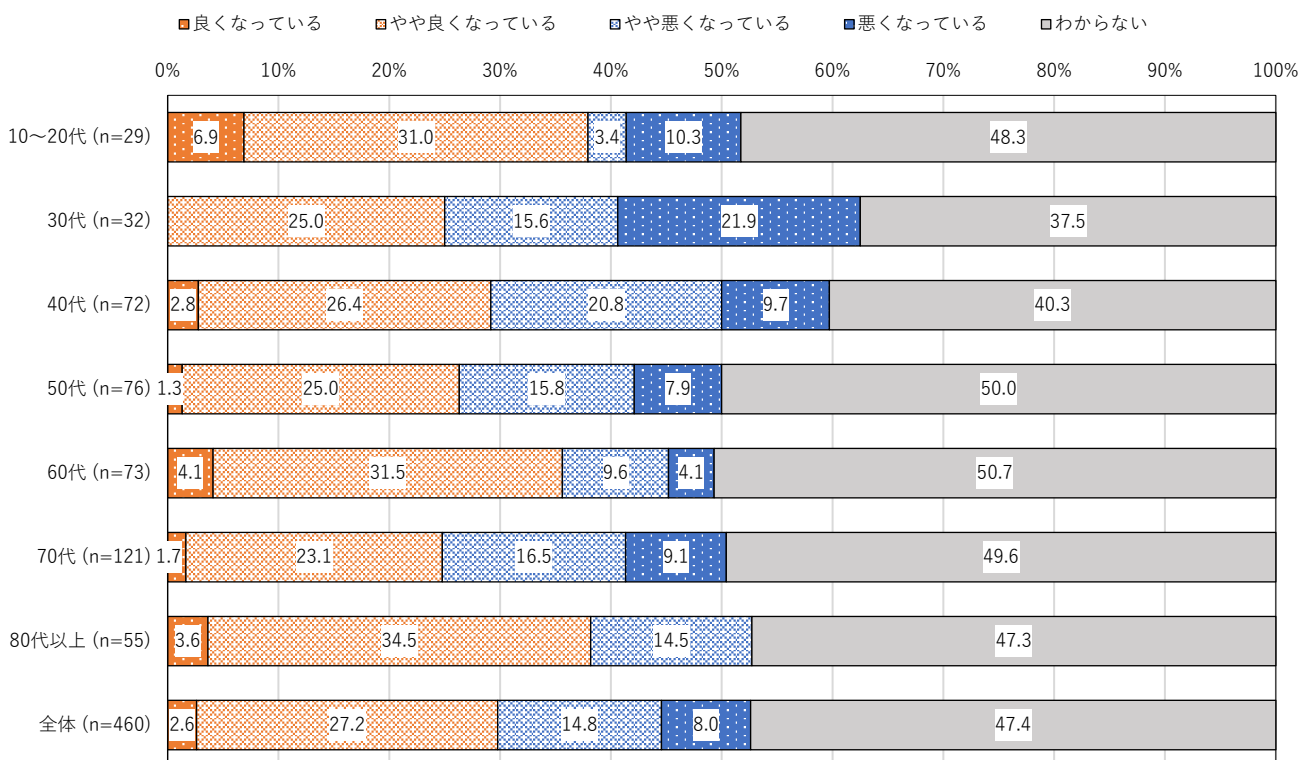


- 回答者の年代別に重点プロジェクト「須坂市への新しい人の流れをつくる」の評価を見ると、「良くなっている」「やや良くなっている」と回答した人の割合は、10～20代（69.0%）が最も多く、次いで40代（63.9%）、30代（59.4%）の順で、60代を除き半数以上が高い評価となっています。
- 回答者の年代別に重点プロジェクト「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」の評価を見ると、「悪くなっている」「やや悪くなっている」と回答した人の割合は、30代（37.5%）が最も多く、次いで40代（30.5%）の順となっており、子育て世代の評価が厳しくなっています。

図表 19 回答者の年齢×重点プロジェクト「須坂市への新しい人の流れをつくる」の評価

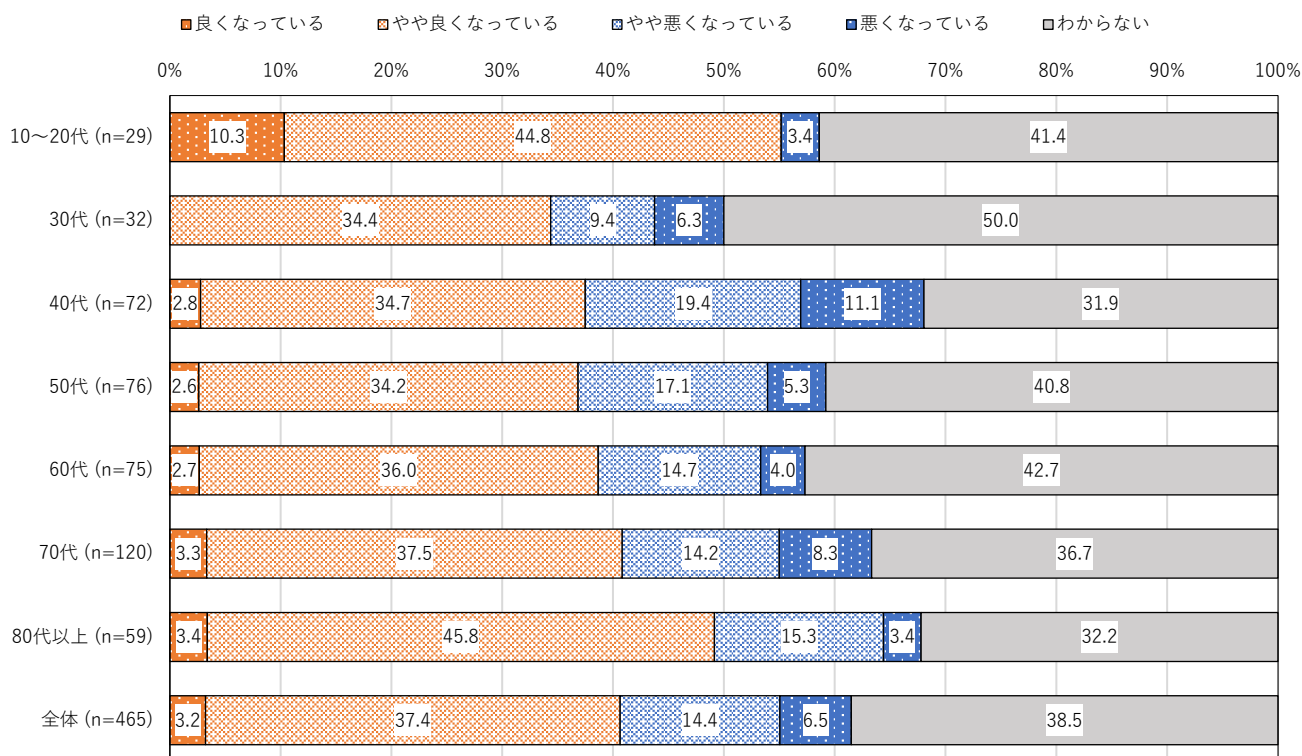


図表 20 回答者の年齢×重点プロジェクト「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」の評価



- 回答者の年代別に重点プロジェクト「ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる」の評価を見ると、「良くなっている」「やや良くなっている」と回答した人の割合は、10～20代（55.1%）が最も多く、次いで80代以上（49.2%）の順となっています。一方で「悪くなっている」「やや悪くなっている」と回答した人の割合は、40代が最も多く約3割となっています。

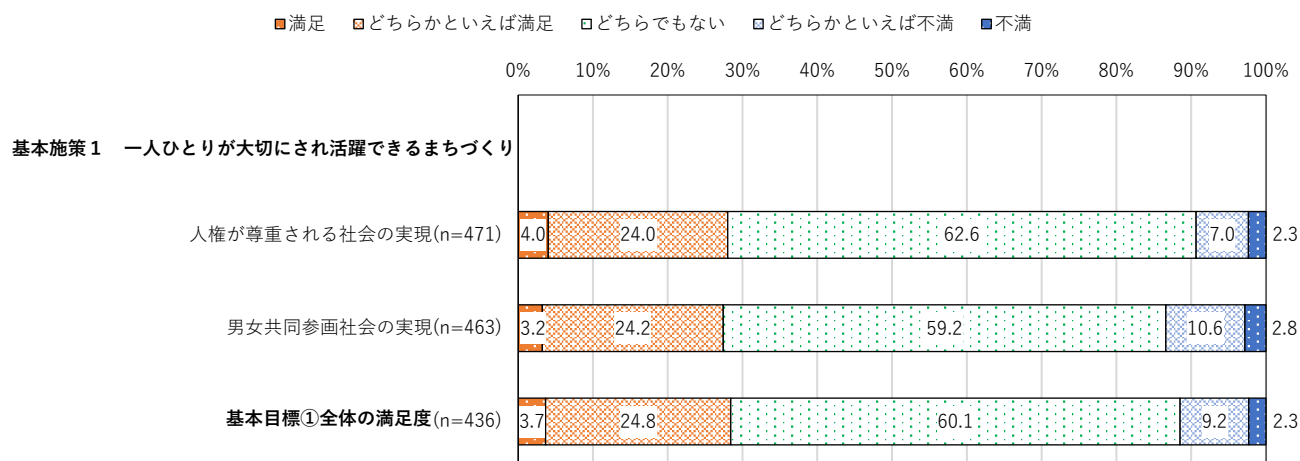
図表 21 回答者の年齢×重点プロジェクト
「ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる」の評価



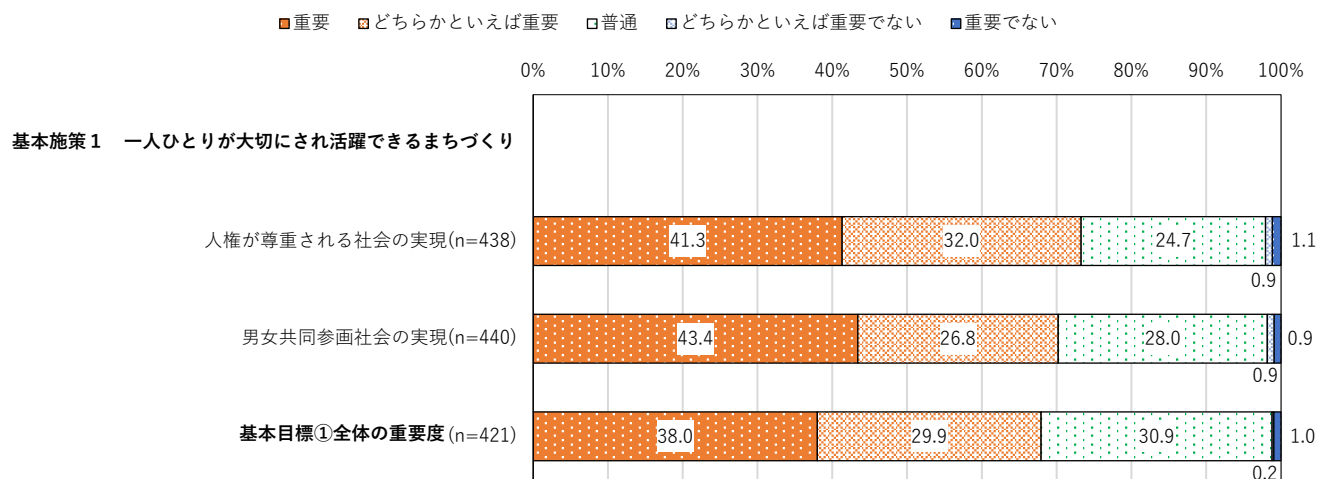
- 基本目標 1 の満足度を見ると、全体では「どちらでもない」が最も多く約 6 割となっています。「満足」「どちらかといえば満足」は 3 割弱にとどまっています。各取組みの満足度は全体と同じ傾向となっています。
- 基本目標 1 の重要度を見ると、全体では「重要」「どちらかといえば重要」が最も多く、7 割近くを占めています。

② 基本目標 1 「多様性を認め合い、誰もが活躍できるまち」の評価

図表 22 基本目標 1 の満足度



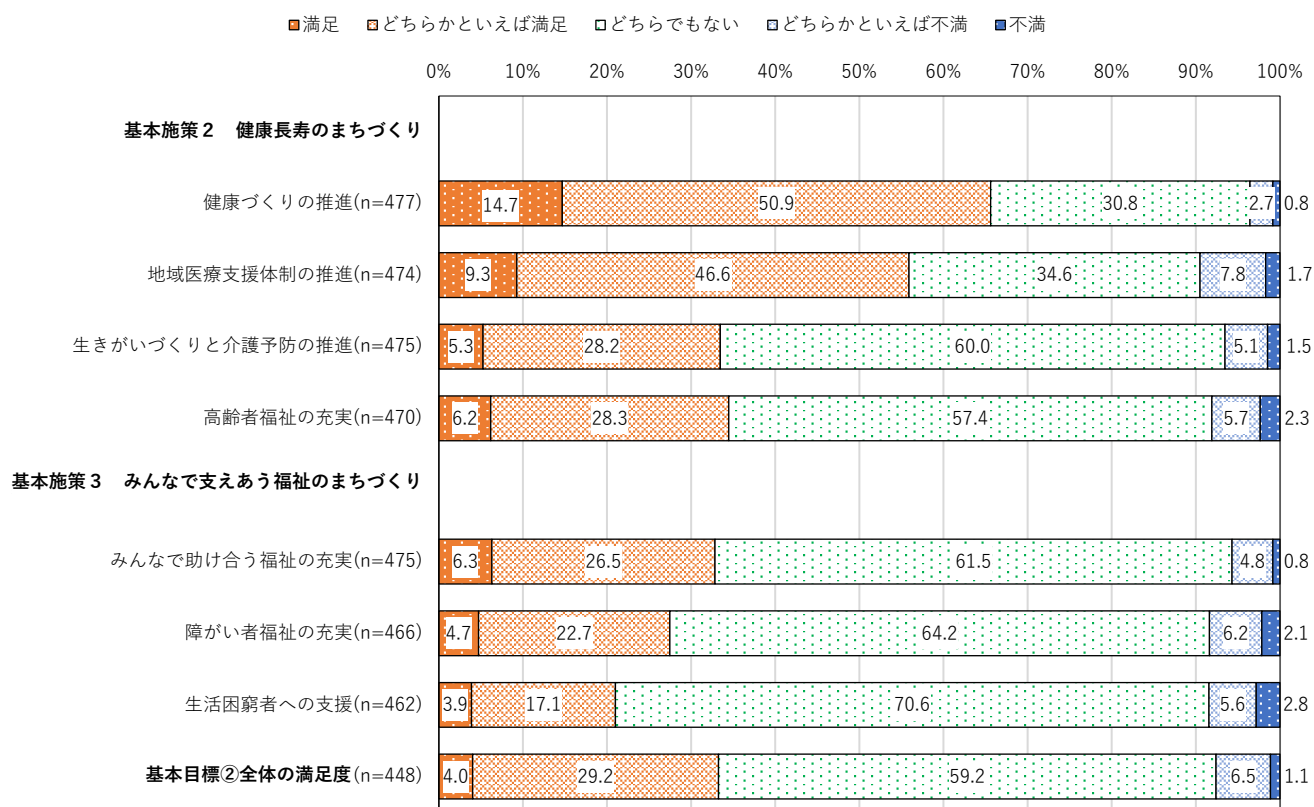
図表 23 基本目標 1 の重要度



- 基本目標 2 の満足度を見ると、全体では「どちらでもない」が最も多く約 6 割を占めています。
- 基本目標 2 の各取組みの満足度を見ると、「満足」「どちらかといえば満足」は健康づくりの推進（65.6%）が最も多く、次いで地域医療支援体制の推進（55.9%）の順となっています。一方で、生きがいづくりと介護予防の推進（33.5%）、高齢者福祉の充実（34.5%）、みんなで助け合う福祉の充実（32.8%）、障がい者福祉の充実（27.4%）、生活困窮者への支援（21.0%）はいずれも満足度が 4 割以下にとどまっています。

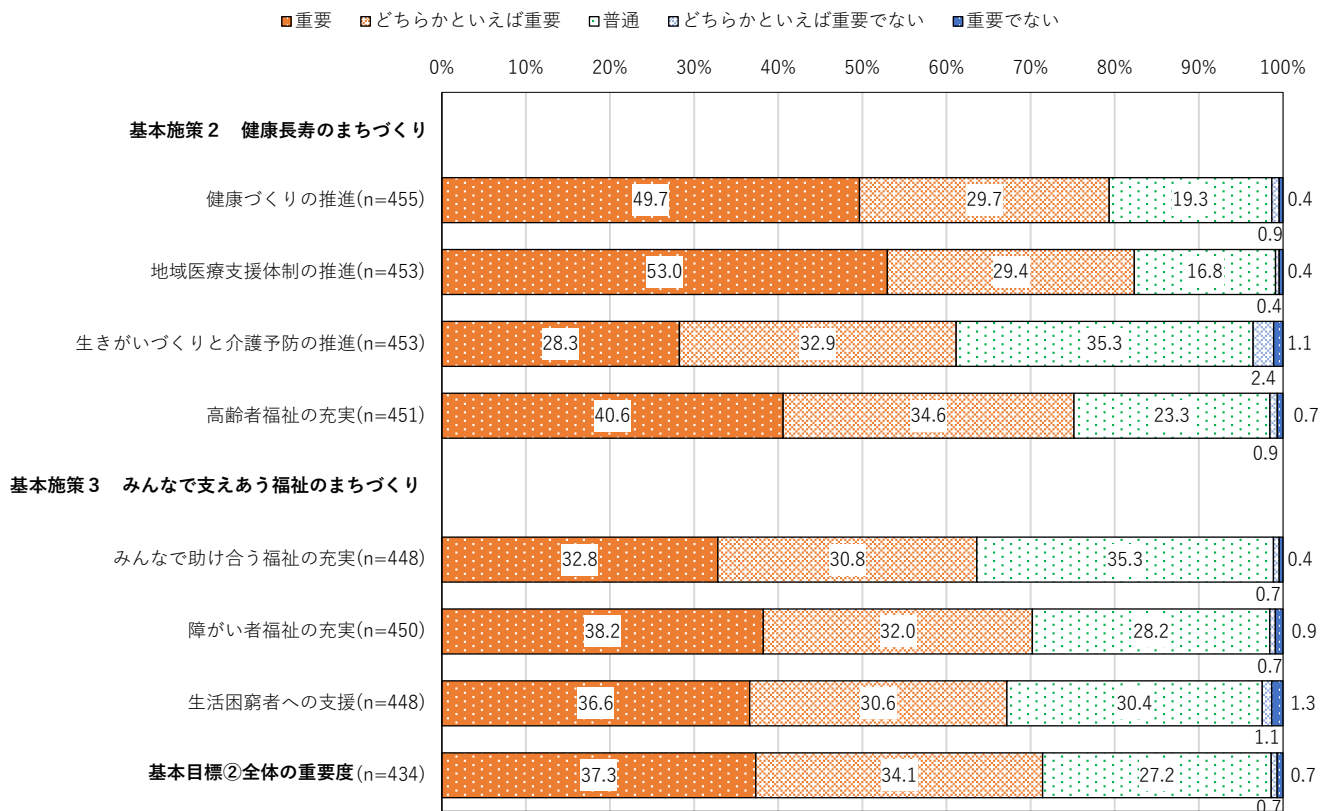
③ 基本目標 2 「みんなで支えあい健やかに暮らせるまち」の評価

図表 24 基本目標 2 の満足度



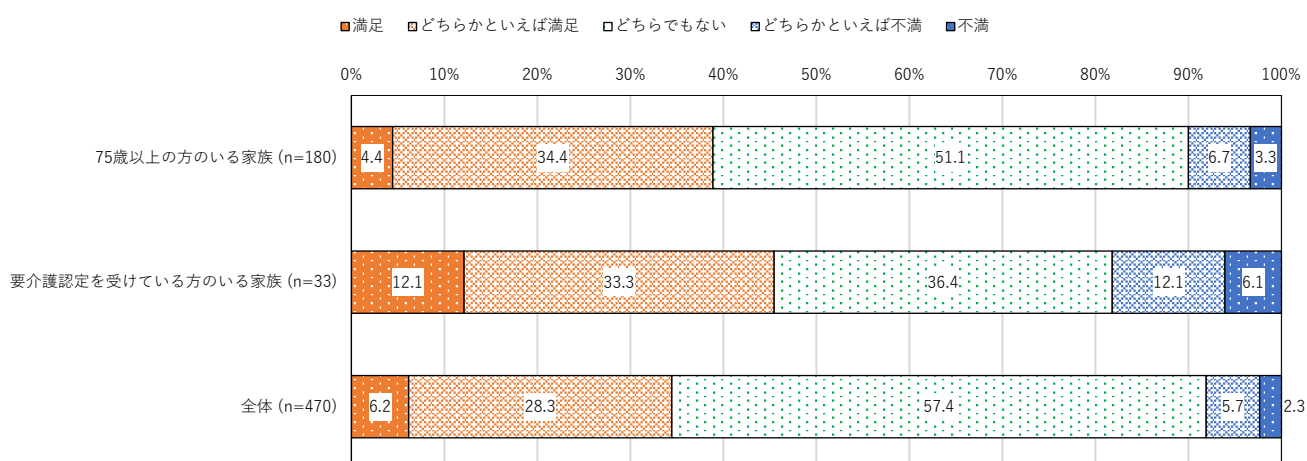
- 基本目標 2 の重要度を見ると、全体では「重要」「どちらかといえば重要」と回答した人の割合が、7 割以上を占める結果となっています。
- 基本目標 2 の各取組みの重要度を見ると、「重要」「どちらかといえば重要」と回答した人の割合は、地域医療支援体制の推進（82.4%）が最も多く、次いで健康づくりの推進（79.4%）の順となっています。
- 基本目標 2 「みんなで支えあい健やかに暮らせるまち」の全ての取組みにおいて 6 割以上の人が「重要」「どちらかといえば重要」と回答していることから、重要度の高さが伺えます。

図表 25 基本目標 2 の重要度

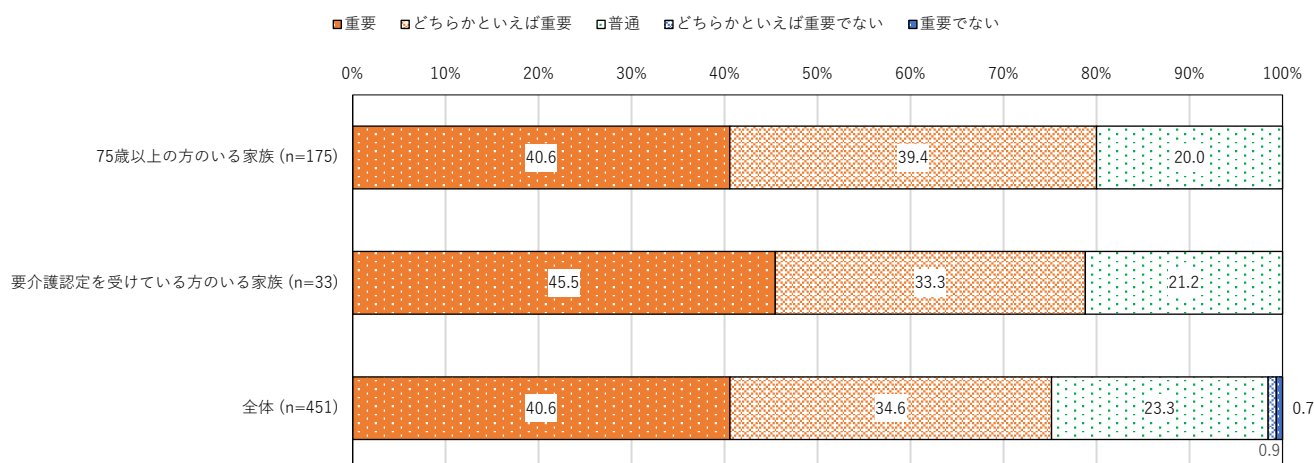


- 「高齢者福祉の充実」の受益者による満足度の分析を見ると、「満足」「どちらかといえば満足」と回答した人の割合は、要介護認定を受けている方のいる家族（45.4%）が最も多く、次いで75歳以上の方のいる家族（38.8%）の順となっています。要介護認定を受けている方のいる家族で「不満」「どちらかといえば不満」と回答した人の割合が2割近くとなっています。
- 「高齢者福祉の充実」の受益者による重要度の分析を見ると、75歳以上の方のいる家族、要介護認定を受けている方のいる家族の8割近くが「高齢者福祉の充実」は重要としています。

図表 26 「高齢者福祉の充実」の受益者による満足度の分析

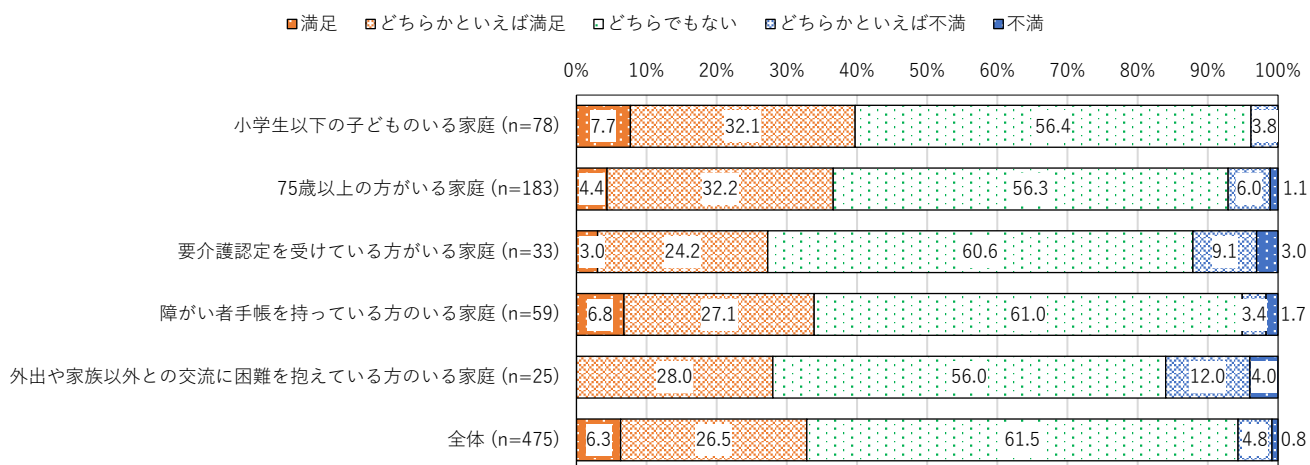


図表 27 「高齢者福祉の充実」の受益者による重要度の分析

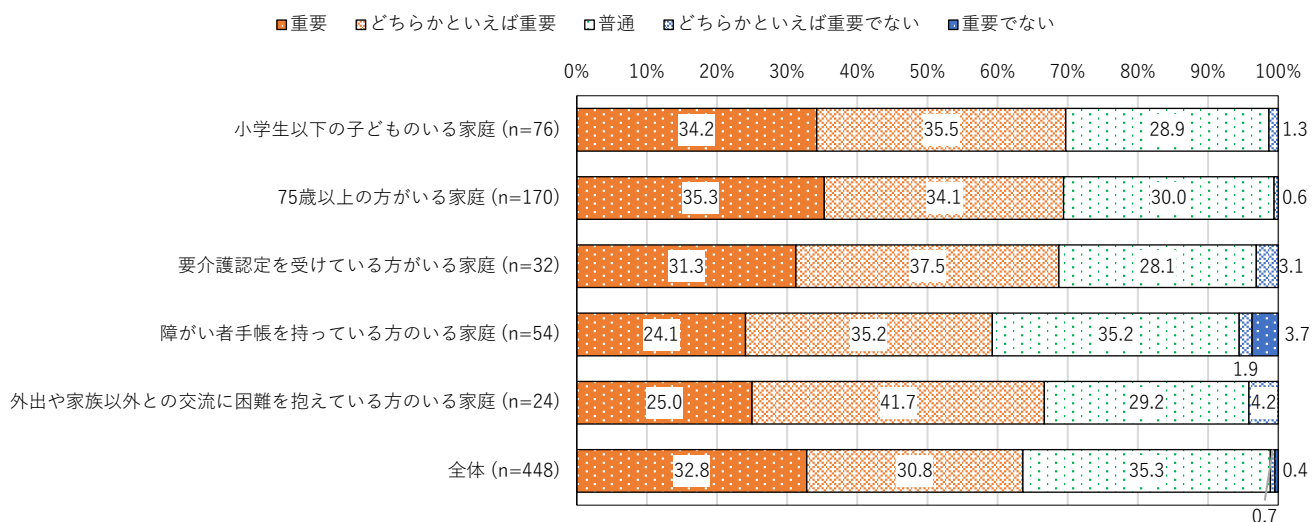


- 「みんなで助け合う福祉の充実」の受益者による満足度の分析を見ると、「満足」「どちらかといえば満足」と回答した人の割合は、小学生以下の子どものいる家庭（39.8%）で最も多い結果となっています。「不満」「どちらかといえば不満」と回答した人の割合は、外出や家族以外との交流に困難を抱えている方のいる家庭（16.0%）が最も多い結果となっています。
- 「みんなで助け合う福祉の充実」の受益者による重要度の分析を見ると、障がい者手帳を持っている方のいる家庭を除く全ての受益者のいる家庭で「重要」「どちらかといえば重要」と回答した人は、全体と比較して高い割合となっています。

図表 28 「みんなで助け合う福祉の充実」の受益者による満足度の分析

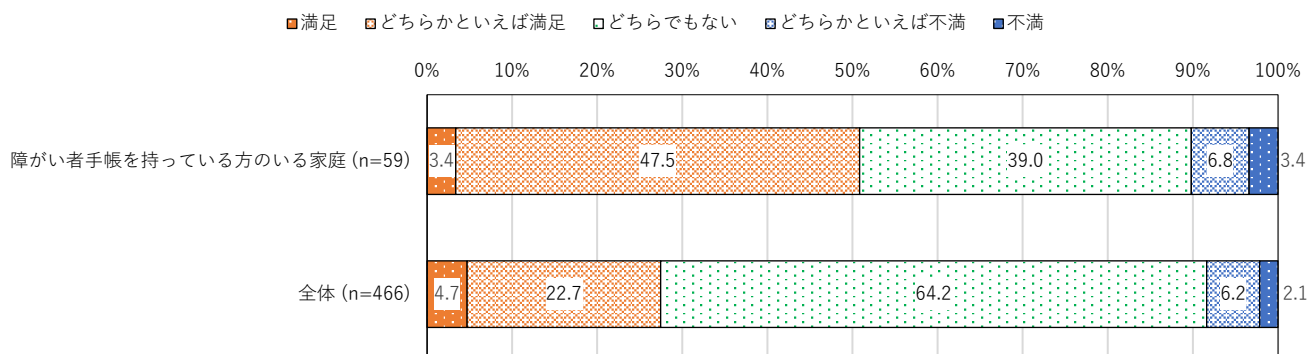


図表 29 「みんなで助け合う福祉の充実」の受益者による重要度の分析

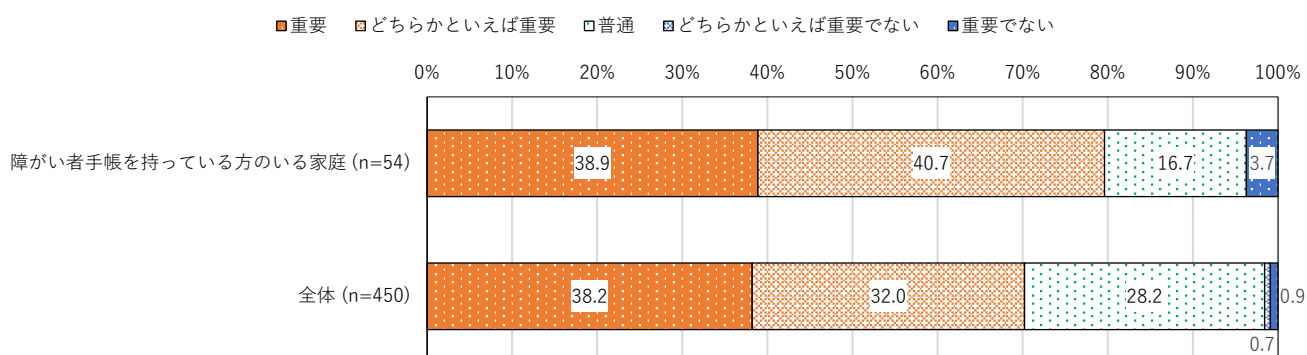


- 「障がい者福祉の充実」の受益者による満足度の分析を見ると、障がい者手帳を持っている方のいる家庭で「満足」「どちらかといえば満足」と回答した人の割合が半数以上を占める結果となっていることから、一定程度の評価がされています。
- 「障がい者福祉の充実」の受益者による重要度の分析を見ると、障がい者手帳を持っている方のいる家庭の約8割が「障がい者福祉の充実」の重要性を感じています。

図表 30 「障がい者福祉の充実」の受益者による満足度の分析



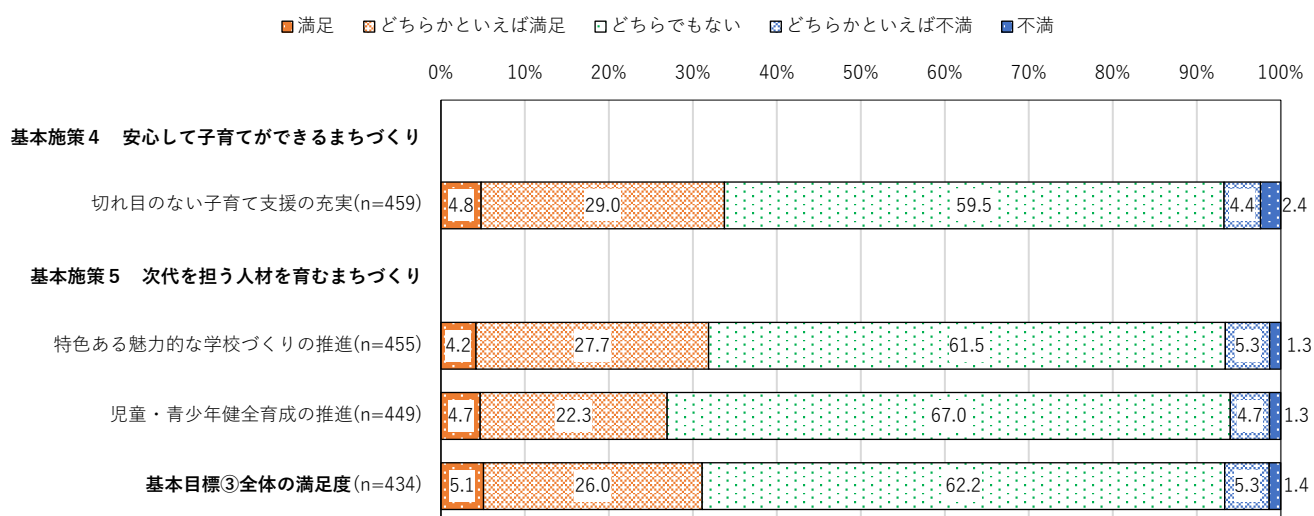
図表 31 「障がい者福祉の充実」の受益者による重要度の分析



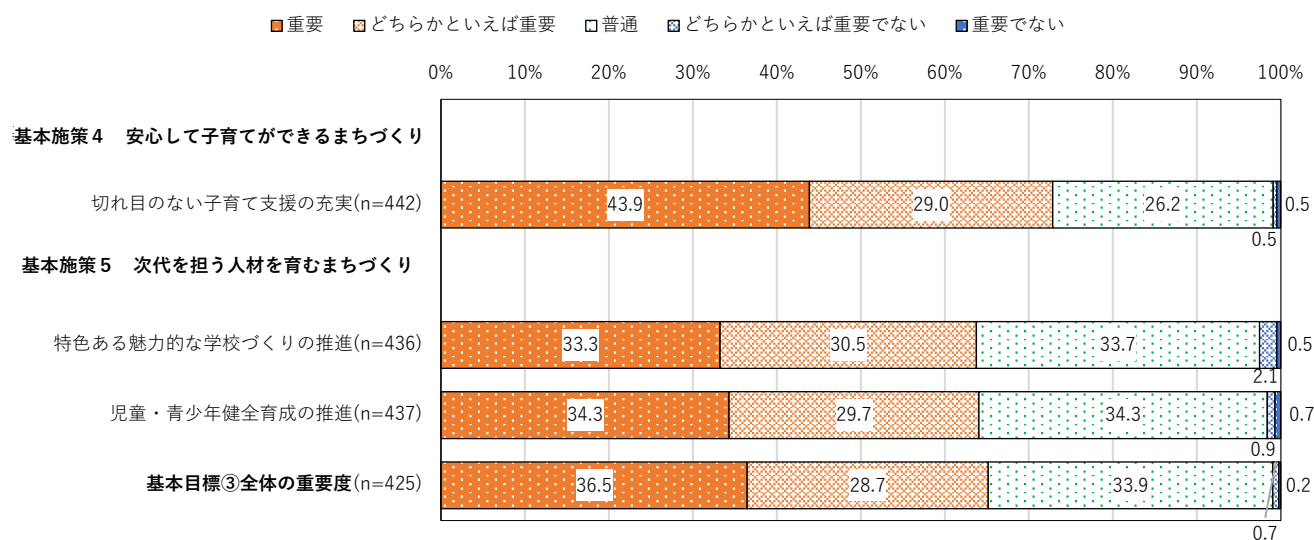
- 基本目標3の満足度を見ると、全体では「どちらでもない」が最も多く6割以上を占め、「満足」「どちらかといえば満足」は約3割にとどまっています。
- 基本目標3の満足度の各取組と全体では同じ傾向であり、「満足」「どちらかといえば満足」は3割程度にとどまっています。
- 基本目標3の重要度を見ると、切れ目のない子育て支援の充実で「重要」「どちらかといえば重要」と回答した人の割合が7割以上を占めています。

④ 基本目標3「子どもの個性と力がのびのび育つ教育のまち」の評価

図表 32 基本目標3の満足度

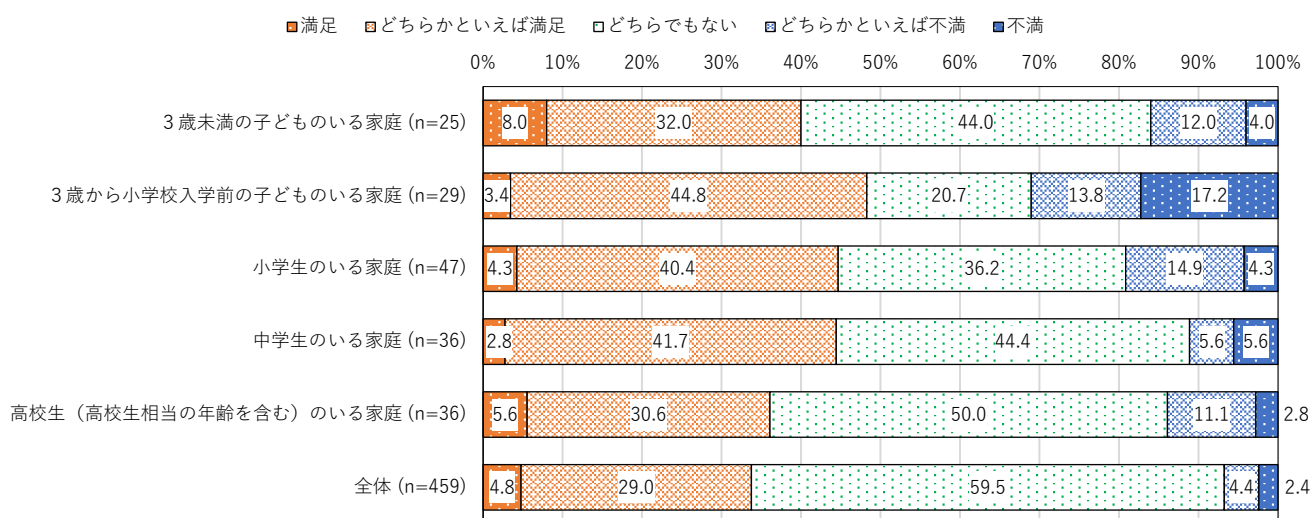


図表 33 基本目標3の重要度

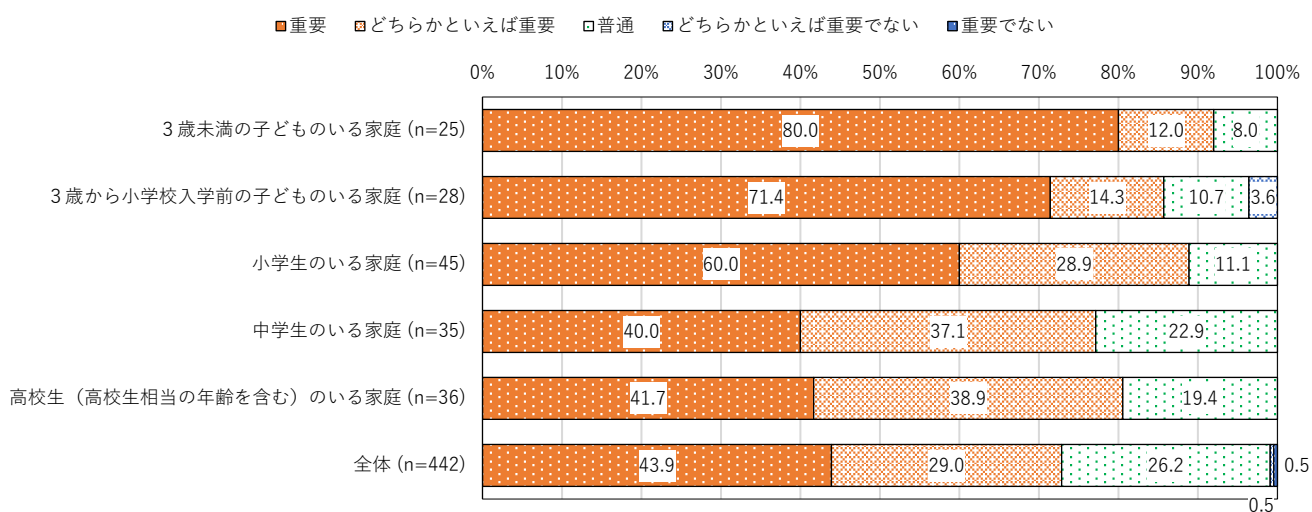


- 「切れ目のない子育て支援の充実」の受益者による満足度の分析を見ると、「満足」「どちらかといえば満足」と回答した人の割合は、3歳から小学校入学前の子どものいる家庭（48.2%）が最も多く、次いで小学生のいる家庭（44.7%）、中学生のいる家庭（44.5%）の順となっており一定程度の市民評価となっています。一方で、「不満」「どちらかといえば不満」と回答した人の割合も、3歳から小学校入学前の子どものいる家庭（31.0%）、小学生のいる家庭（19.2%）で多くなっています。
- 「切れ目のない子育て支援の充実」の受益者による重要度の分析を見ると、中学生のいる家庭を除く全ての家庭で「重要」「どちらかといえば重要」と回答した人の割合が8割以上を占める結果となっています。

図表 34 「切れ目のない子育て支援の充実」の受益者による満足度の分析

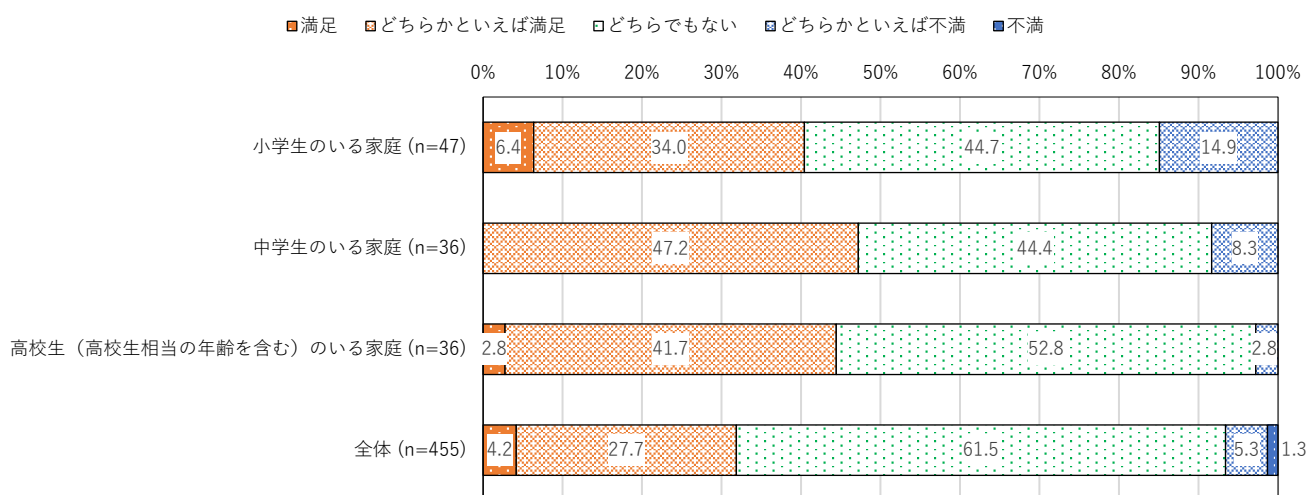


図表 35 「切れ目のない子育て支援の充実」の受益者による重要度の分析

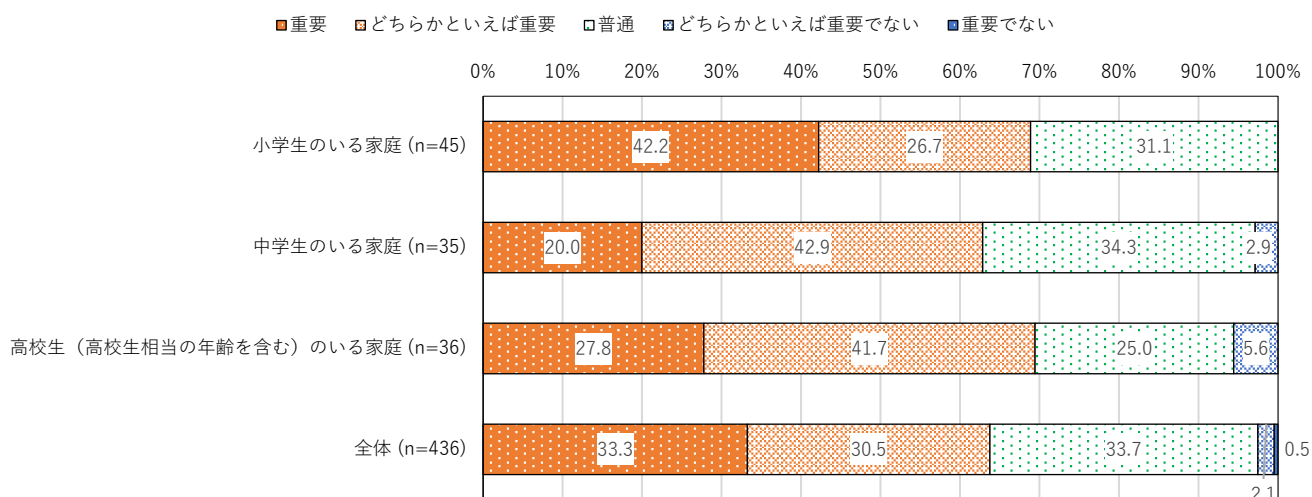


- 「特色ある魅力的な学校づくりの推進」の受益者による満足度の分析を見ると、「満足」「どちらかといえば満足」と回答した人の割合は、中学生のいる家庭（47.2%）が最も多く、次いで高校生（高校生相当の年齢を含む）のいる家庭（44.5%）の順となっています。一方で「不満」「どちらかといえば不満」と回答した人の割合は、小学生のいる家庭（14.9%）が最も多く、次いで中学生のいる家庭（8.3%）の順となっています。
- 「特色ある魅力的な学校づくりの推進」の受益者による重要度の分析を見ると、「重要」「どちらかといえば重要」と回答した人の割合は、全ての受益者家庭で6割以上を占める結果となっています。

図表 36 「特色ある魅力的な学校づくりの推進」の受益者による満足度の分析



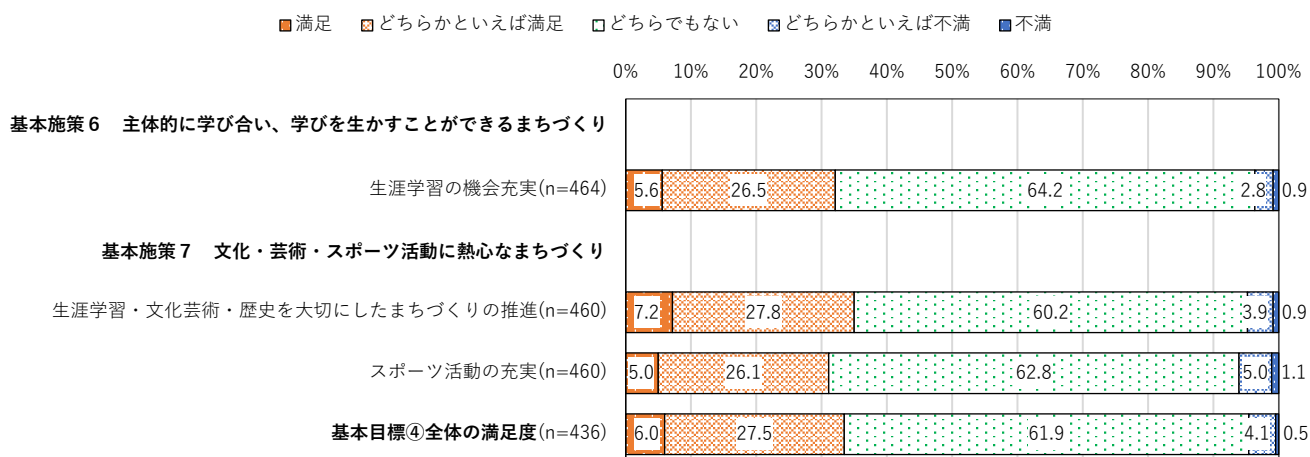
図表 37 「特色ある魅力的な学校づくりの推進」の受益者による重要度の分析



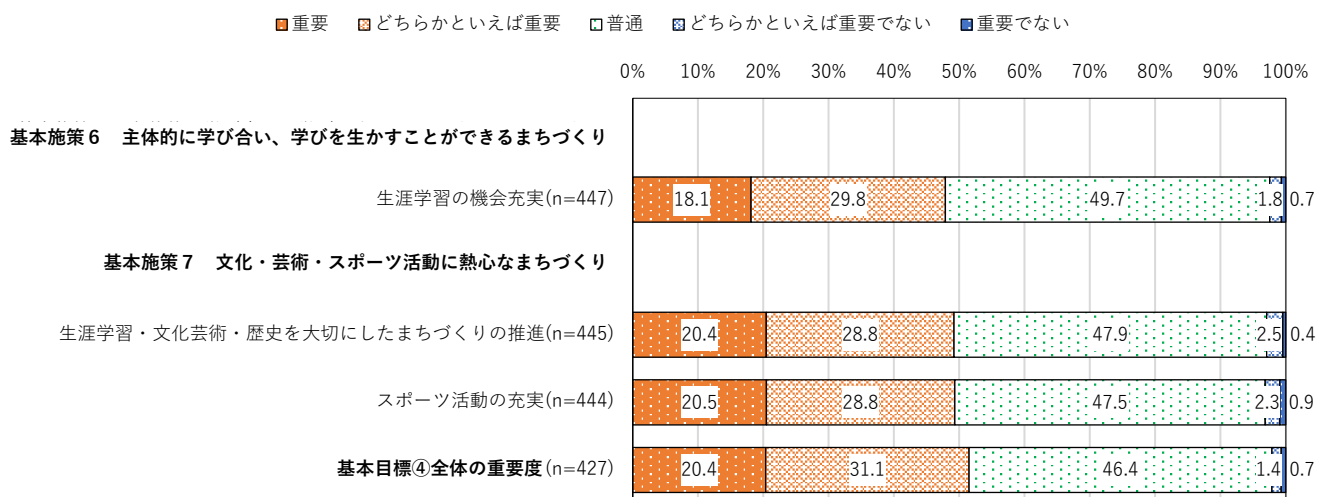
- 基本目標 4 の満足度を見ると、全体では「どちらでもない」が最も多く 6 割以上を占め、「満足」「どちらかといえば満足」は 33.5%にとどまっています。各取組みの満足度は全体と同じ傾向となっています。
- 基本目標 4 の重要度を見ると、全体では「重要」「どちらかといえば重要」が約半数を占める結果となっています。

⑤ 基本目標 4 「一人ひとりが学び、高め合うまち」の評価

図表 38 基本目標 4 の満足度



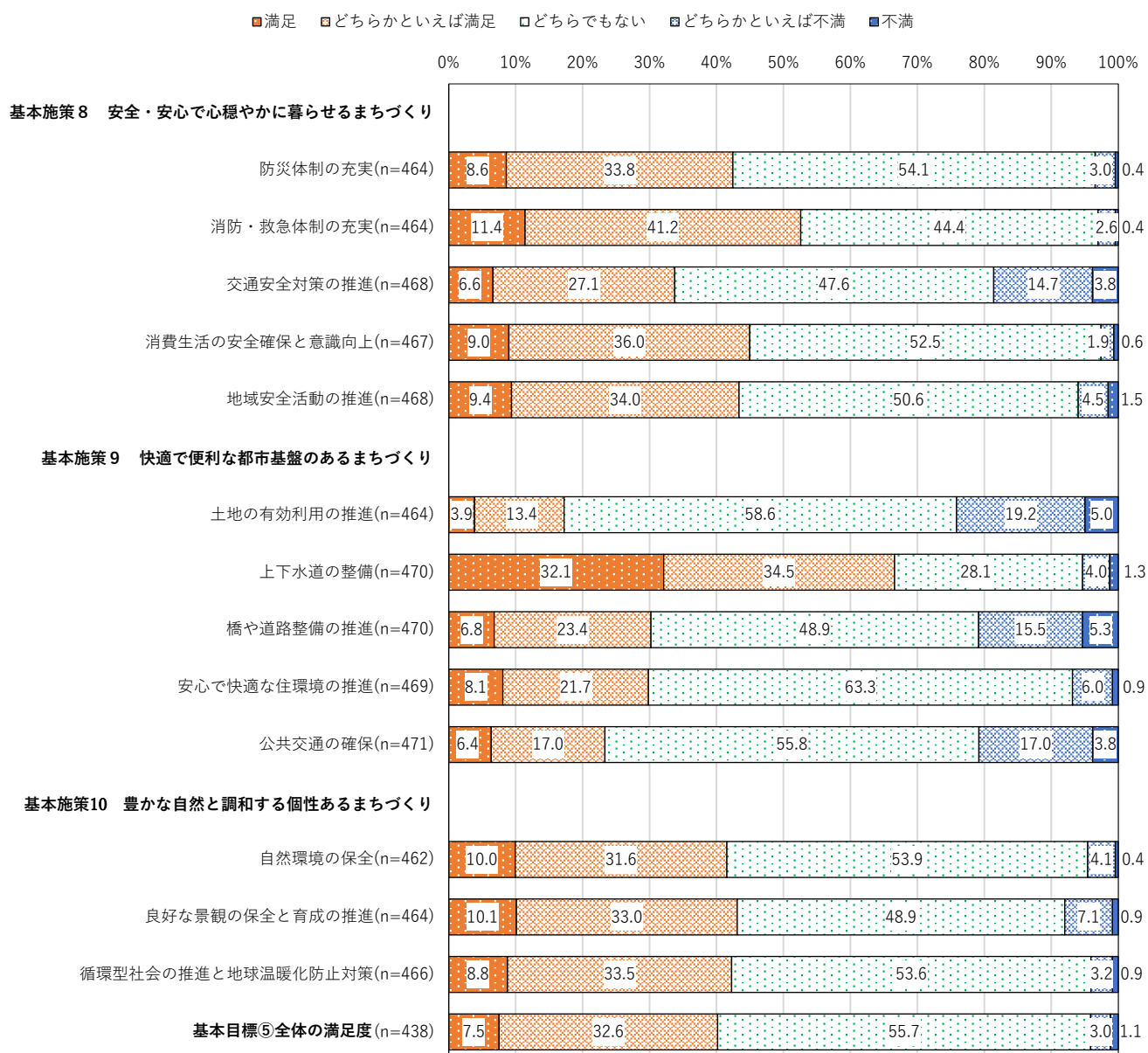
図表 39 基本目標 4 の重要度



- 基本目標 5 全体の満足度を見ると、「どちらでもない」(55.7%) が最も多く、次いで「満足」「どちらかといえば満足」(40.1%) の順となっています。各取組みの満足度では、上下水道の整備、消防・救急体制の充実で、「満足」「どちらかといえば満足」と回答した人の割合が半数以上を占め高い市民評価となっています。一方で「不満」「どちらかといえば不満」は、土地の有効利用の推進(24.2%) が最も多く、次いで橋や道路整備の推進、公共交通の確保(20.8%) の順となっています。

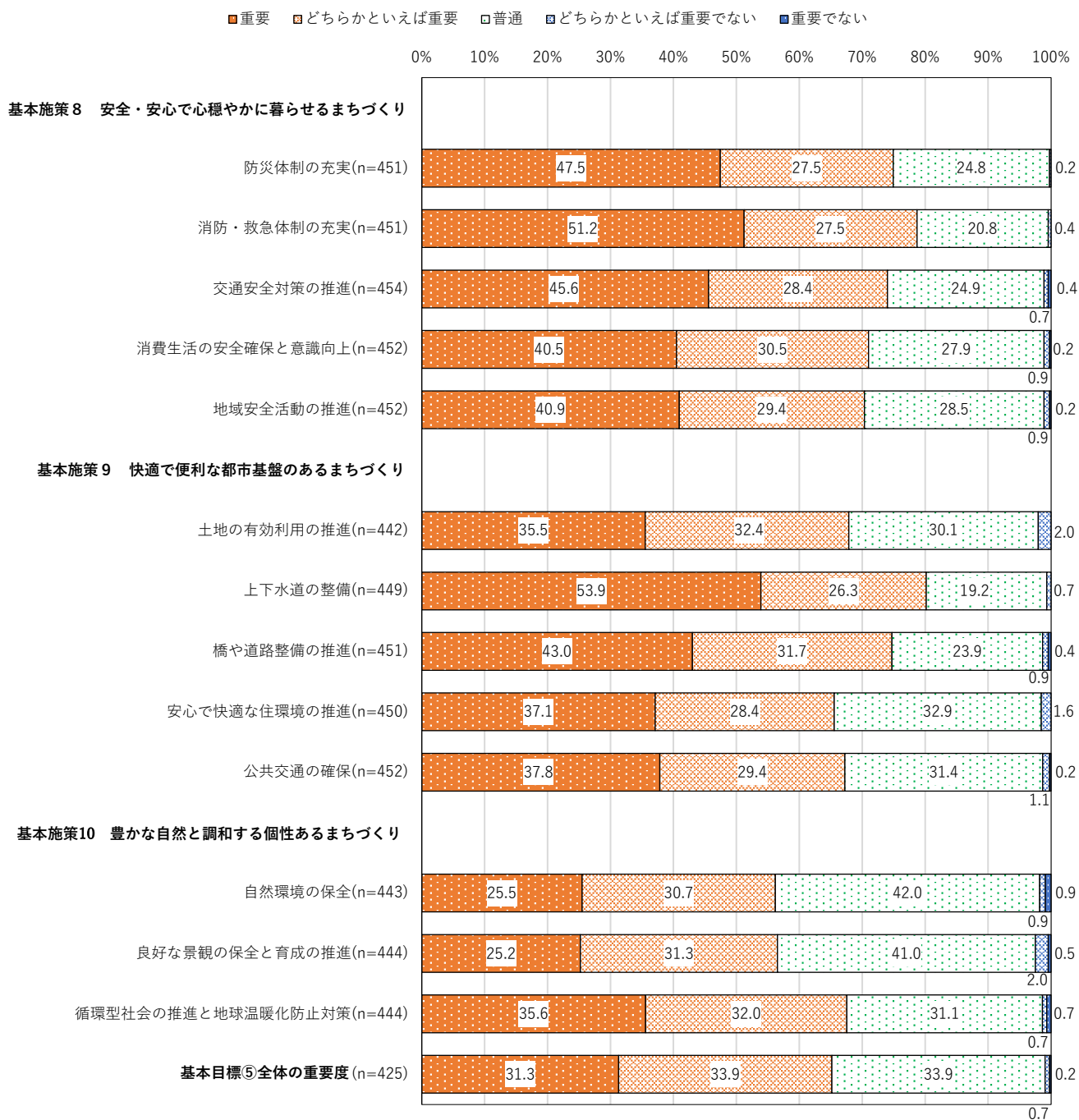
⑥ 基本目標 5 「安全・安心で快適な生活と美しい自然環境がともにあるまち」の評価

図表 40 基本目標 5 の満足度



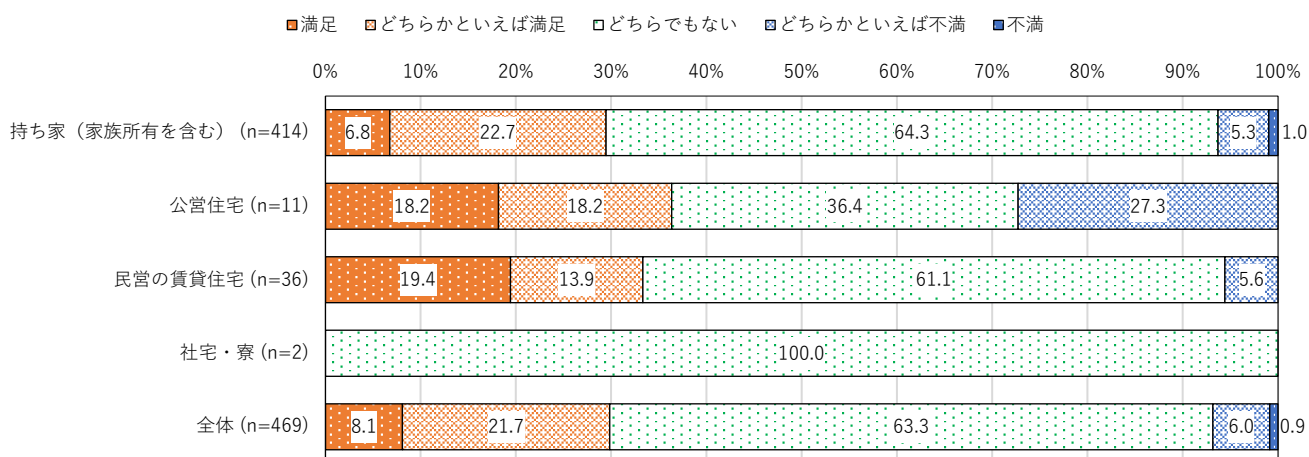
- 基本目標 5 の重要度を見ると、「重要」「どちらかといえば重要」が全ての取組みにおいて 5 割以上を占めています。各取組みの重要度では、上下水道の整備、消防・救急体制の充実で、「重要」「どちらかといえば重要」と回答した人の割合が 8 割前後となっており、重要度・満足度ともに高い市民評価となっています。

図表 41 基本目標 5 の重要度

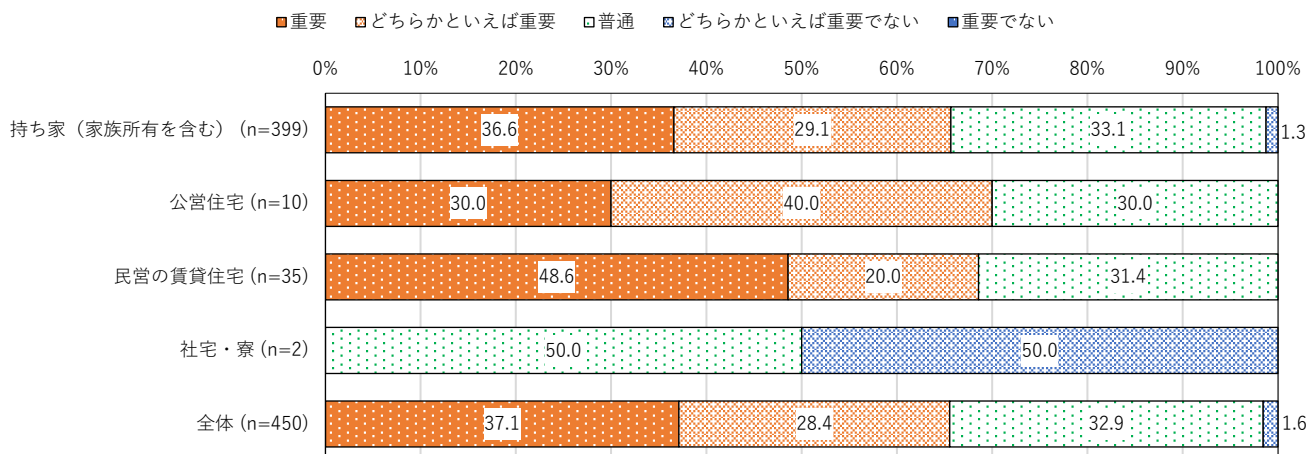


- 持ち家状況別に「安心で快適な住環境の推進」の満足度分析を見ると、「満足」「どちらかといえば満足」と回答した人の割合は、公営住宅（36.4%）が最も多く、次いで民営の賃貸住宅（33.3%）の順となっています。一方で「不満」「どちらかといえば不満」と回答した人の割合は、公営住宅（27.3%）が多くなっています。
- 重要度分析を見ると、公営住宅、民営の賃貸住宅、持ち家（家族所有を含む）で、「重要」「どちらかといえば重要」と回答した人の割合が6割以上を占める結果となっています。

図表 42 「安心で快適な住環境の推進」の受益者（持ち家状況別）による満足度の分析

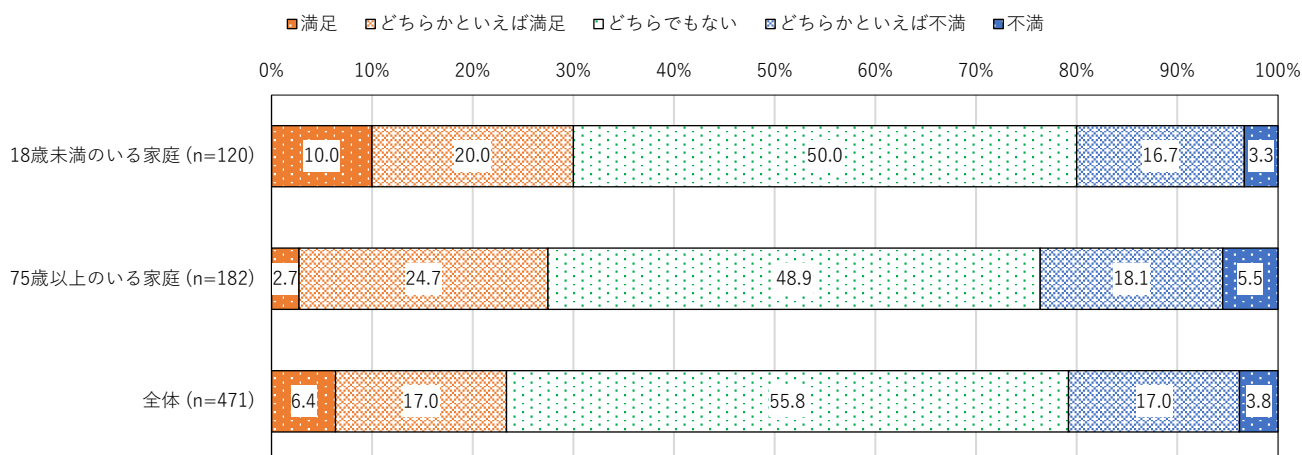


図表 43 「安心で快適な住環境の推進」の受益者（持ち家状況別）による重要度の分析

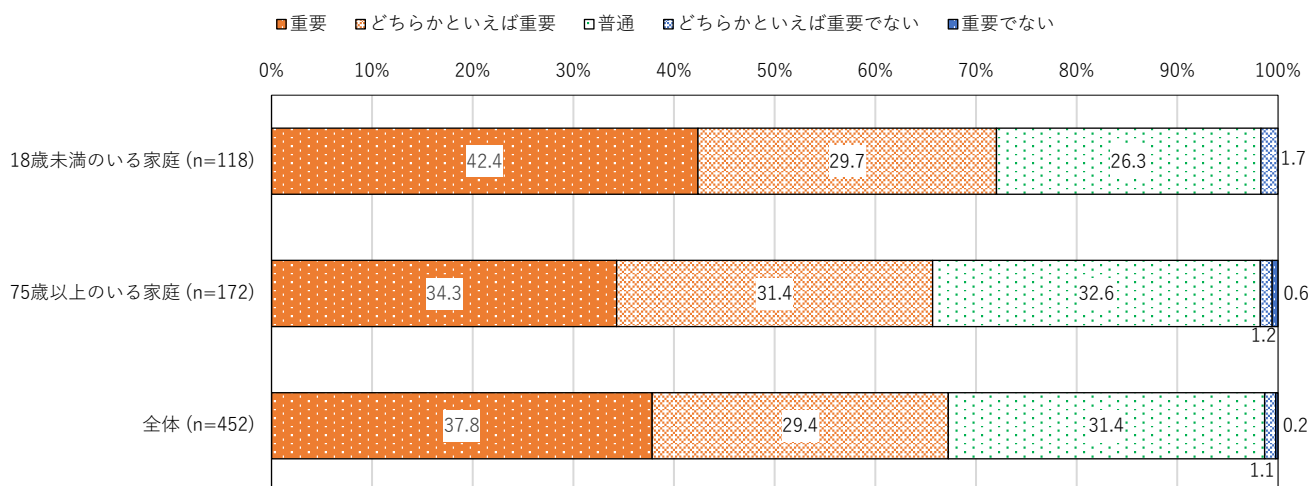


- 主な公共交通の利用者のいる家庭別に「公共交通の確保」の満足度分析を見ると、「満足」「どちらかといえば満足」と回答した人の割合は、18歳未満のいる家庭が最も多く、3割となっています。一方で「不満」「どちらかといえば不満」と回答した人も受益者のいる家庭、全体ともに2割以上となっています。
- 重要度分析を見ると、「重要」「どちらかといえば重要」と回答した人の割合は、受益者のいる家庭、全体ともに6割以上を占める結果となっていることから、「公共交通の確保」の充実が求められていることがわかります。

図表 44 「公共交通の確保」の受益者による満足度の分析



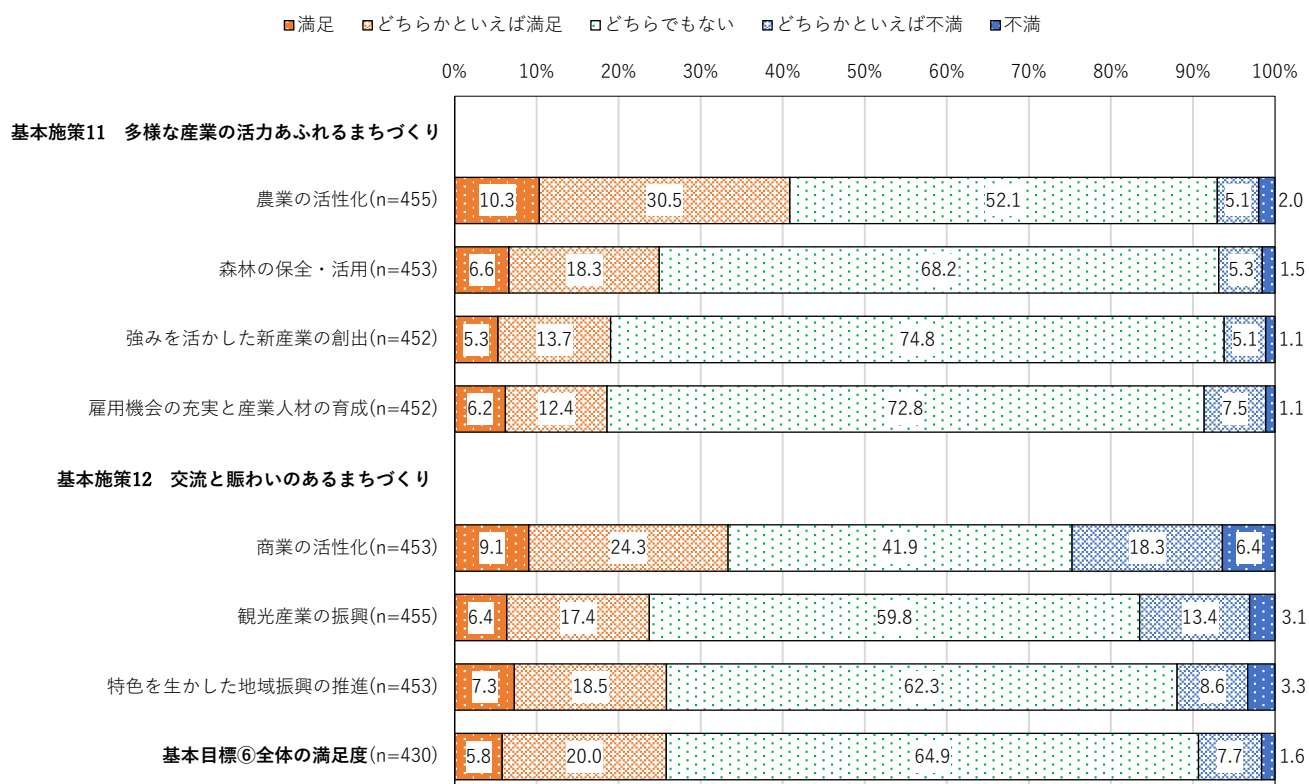
図表 45 「公共交通の確保」の受益者による重要度の分析



- 基本目標 6 の満足度を見ると、全体では「どちらでもない」が最も多く 6 割以上を占め、「満足」「どちらかといえば満足」は 25.8%にとどまっています。
- 基本目標 6 の各取組みの満足度を見ると、「満足」「どちらかといえば満足」と回答した人の割合は、農業の活性化（40.8%）が最も多く、次いで商業の活性化（33.4%）の順となっています。一方で「不満」「どちらかといえば不満」と回答した人の割合は、商業の活性化（24.7%）が最も多く、次いで観光産業の振興（16.5%）の順となっています。

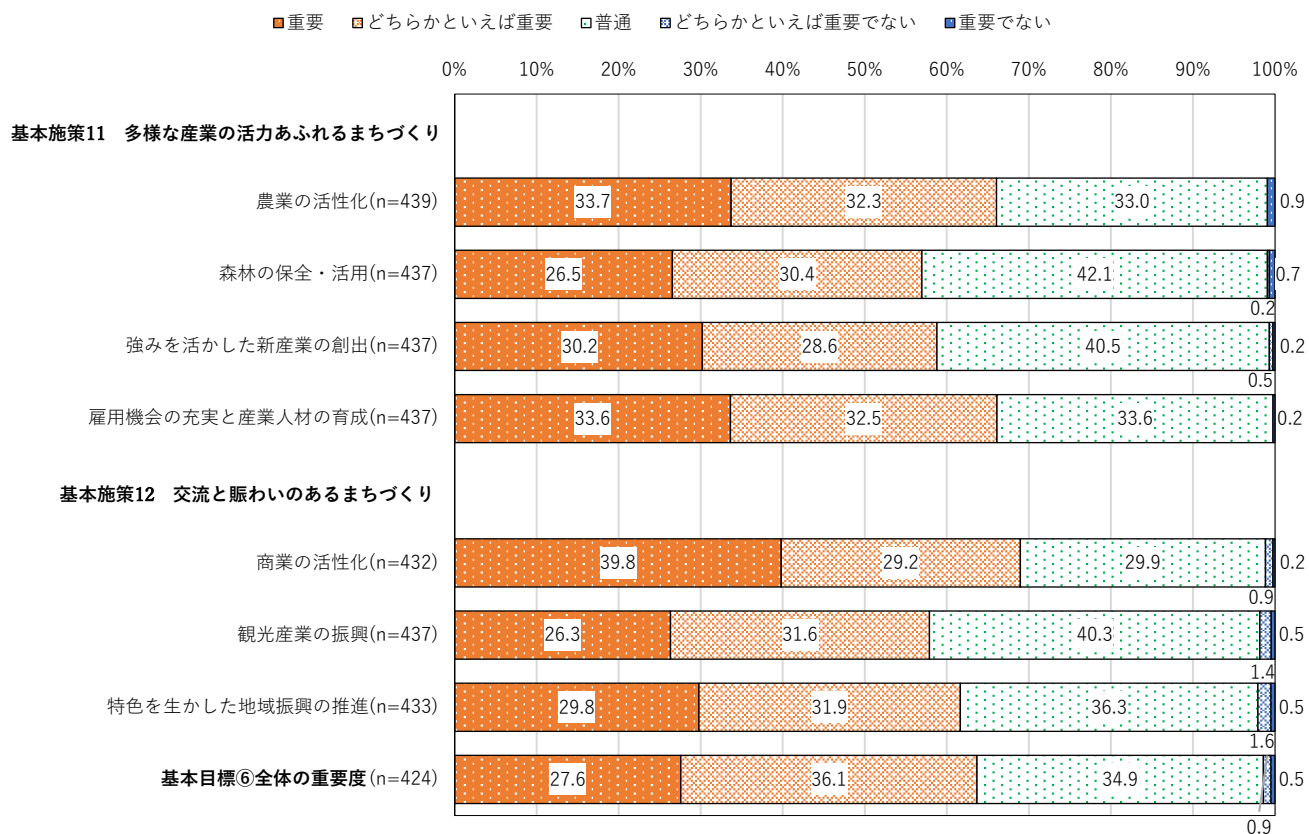
⑦ 基本目標 6 「活力と賑わいのある自立したまち」の評価

図表 46 基本目標 6 の満足度



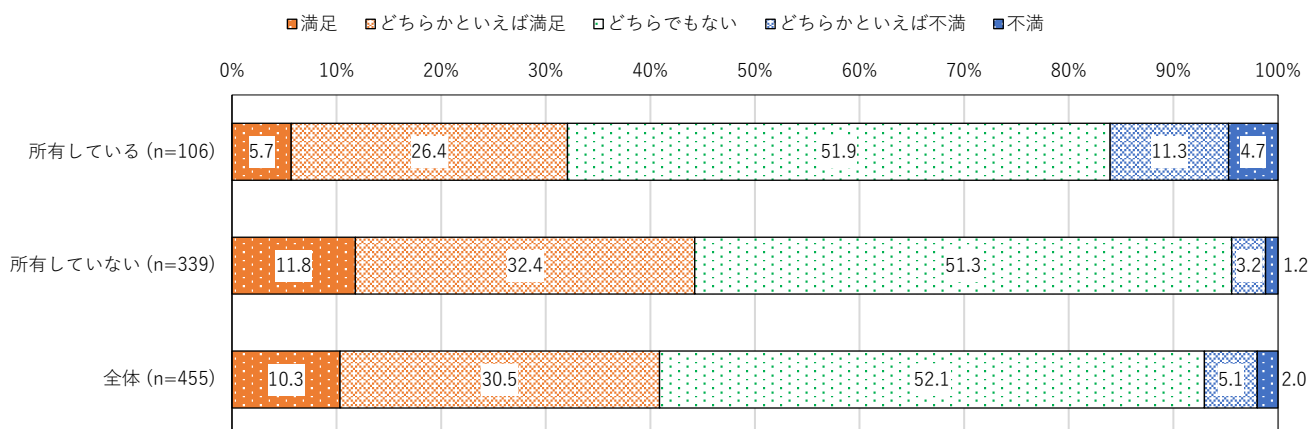
- 基本目標 6 の重要度を見ると、全体では「重要」「どちらかといえば重要」が 6 割以上を占める結果となっています。
- 基本目標 6 の各取組みの重要度を見ると、商業の活性化、雇用機会の充実と産業人材の育成、農業の活性化、特色を生かした地域振興の推進で、「重要」「どちらかといえば重要」と回答した人の割合が 6 割以上を占める結果となっています。

図表 47 基本目標 6 の重要度

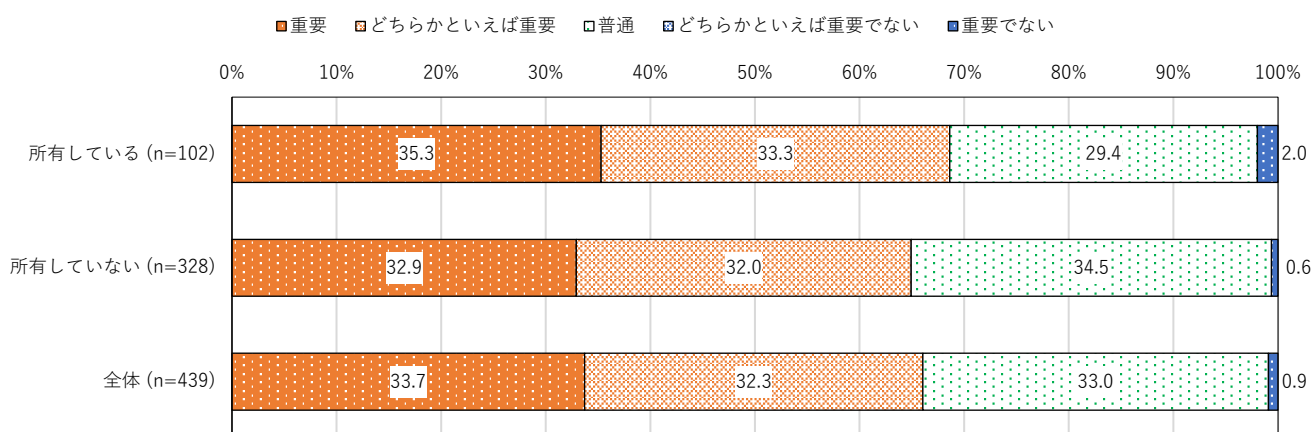


- 農地の所有状況別に「農業の活性化」の満足度分析を見ると、農地を所有している人の方が、農地を所有していない人に比べて低い評価となっています。
- 重要度分析を見ると、「重要」「どちらかといえば重要」と回答した人の割合は、農地を所有している人の方が多くなっています。

図表 48 「農業の活性化」の受益者（農地所有状況）による満足度の分析

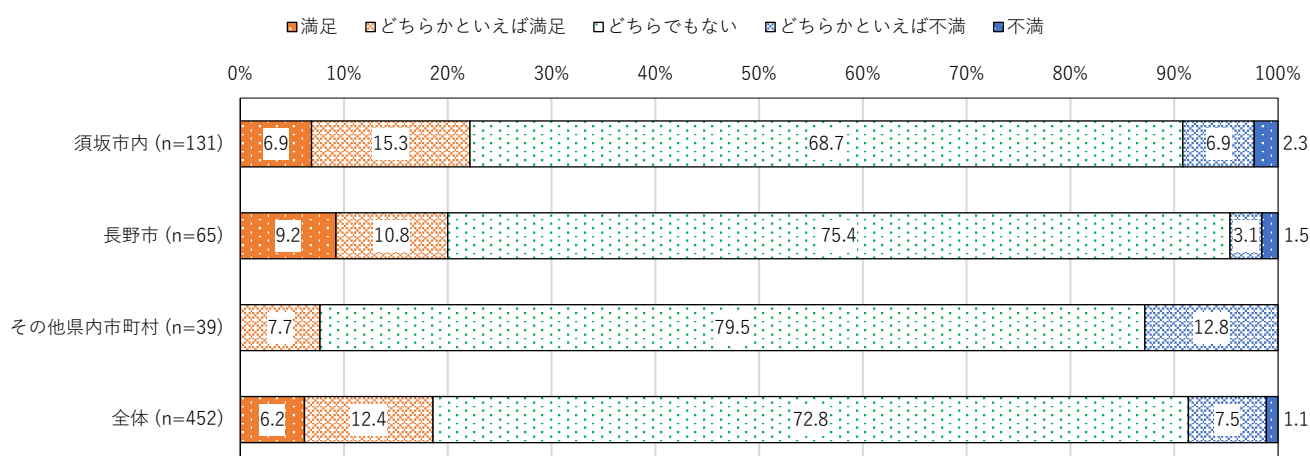


図表 49 「農業の活性化」の受益者（農地所有状況）による重要度の分析

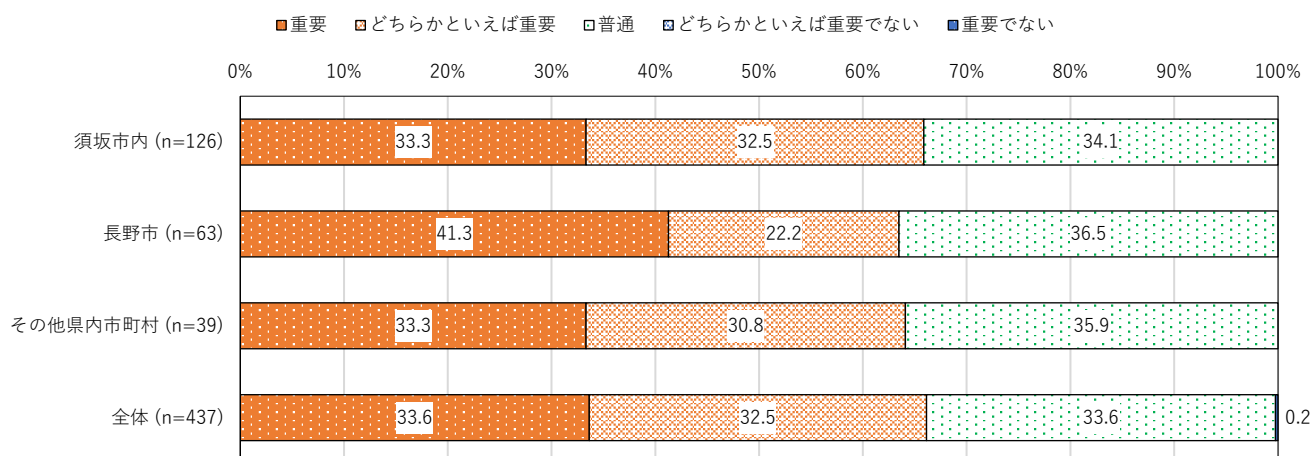


- 回答者の勤務先別に「雇用機会の充実と産業人材の育成」の満足度分析を見ると、全体的に「どちらでもない」が多くなっています。「満足」「どちらかといえば満足」と回答した人の割合は、須坂市内（22.2%）に勤務する人が多くなっています。
- 重要度分析を見ると、「重要」「どちらかといえば重要」と回答した人の割合は、受益者、全体ともに6割以上を占める結果となっていることから、須坂市内における「雇用機会の充実と産業人材の育成」が求められています。

図表 50 「雇用機会の充実と産業人材の育成」の受益者（勤務先別）による満足度の分析

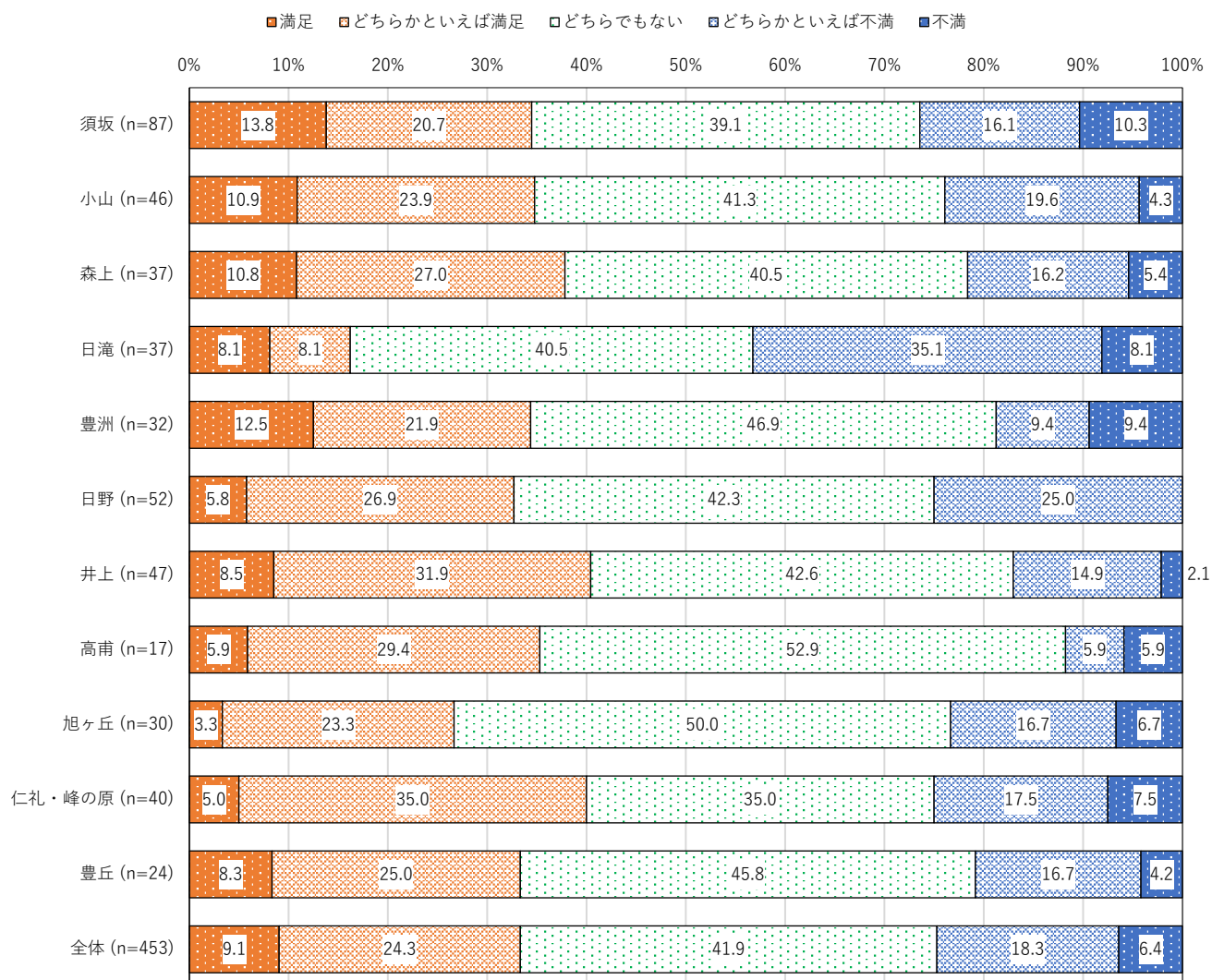


図表 51 「雇用機会の充実と産業人材の育成」の受益者（勤務先別）による重要度の分析



- 回答者の居住地区別に「商業の活性化」の満足度を見ると、「満足」「どちらかといえば満足」と回答した人の割合は、井上（40.4%）が最も多く、次いで仁礼・峰の原（40.0%）の順となっています。一方で「不満」「どちらかといえば不満」と回答した人の割合は、日滝が4割以上という結果になっています。

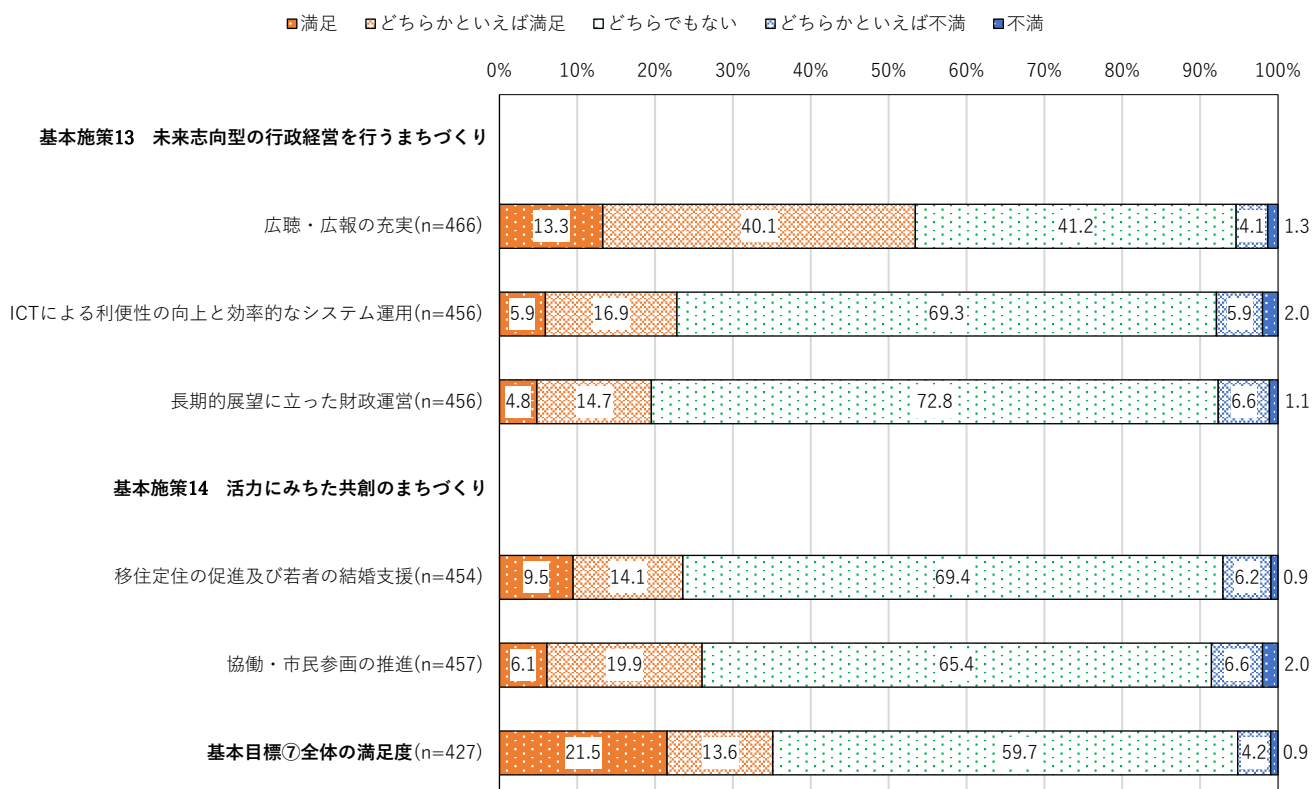
図表 52 回答者の居住地区×「商業の活性化」の満足度



- 基本目標7の満足度を見ると、全体では「どちらでもない」が約6割を占めています。一方で各取り組みでは、「満足」「どちらかといえば満足」と回答した人の割合は、広聴・広報の充実（53.4%）が5割以上を占める結果となっています。

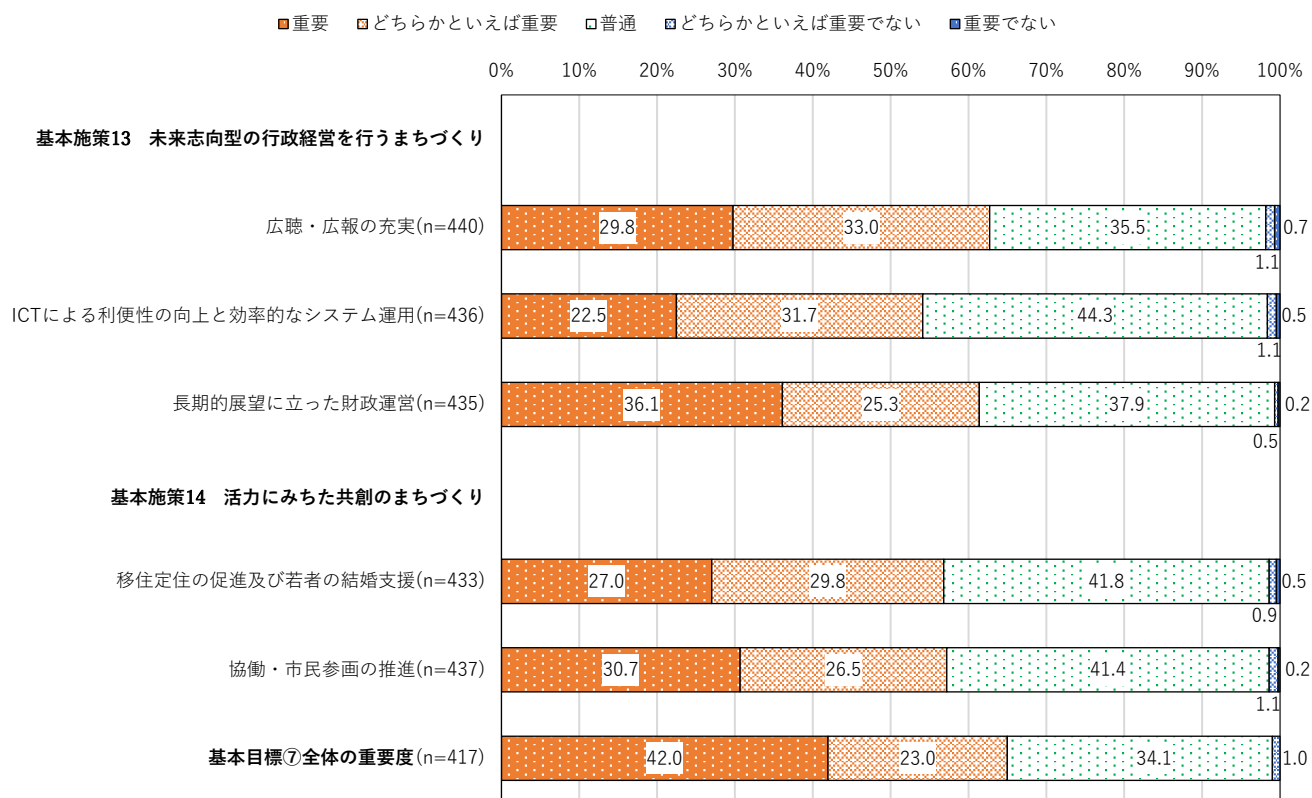
⑧ 基本目標7「市民とともにつくる持続可能なまち」の評価

図表 53 基本目標7の満足度



- 基本目標7の重要度を見ると、全体では「重要」「どちらかといえば重要」が6割以上を占める結果となっています。各取組みでは、広聴・広報の充実、長期的展望に立った財政運営で、「重要」「どちらかといえば重要」と回答した人の割合が6割以上を占める結果となっています。広聴・広報の充実は、満足度・重要度ともに高い市民評価となっています。

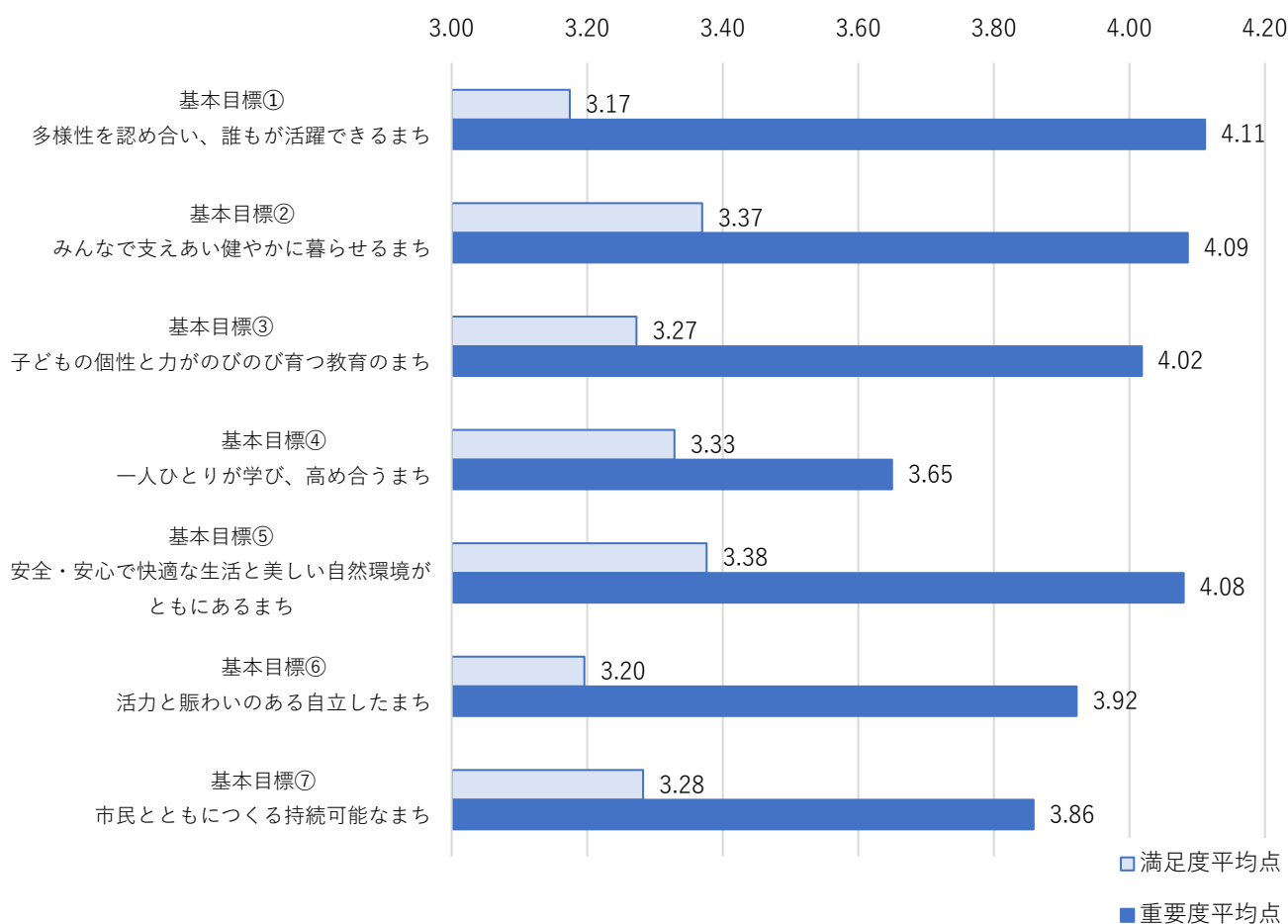
図表 54 基本目標7の重要度



- 各取組みの満足度・重要度を、「満足/重要」を5点、「どちらかといえば満足/重要」を4点、「どちらでもない/普通」を3点、「どちらかといえば不満/重要でない」を2点、「不満/重要でない」を1点として得点化し、各基本目標の平均点を算出しています。
- 平均点による基本目標の満足度・重要度の比較を見ると、「満足度平均点」は、基本目標5（3.38）が最も高く、次いで基本目標2（3.37）となっています。「重要度平均点」は、基本目標1（4.11）が最も高く、次いで基本目標2（4.09）の順となっています。また、基本目標4は最も重要度が低くなっています。

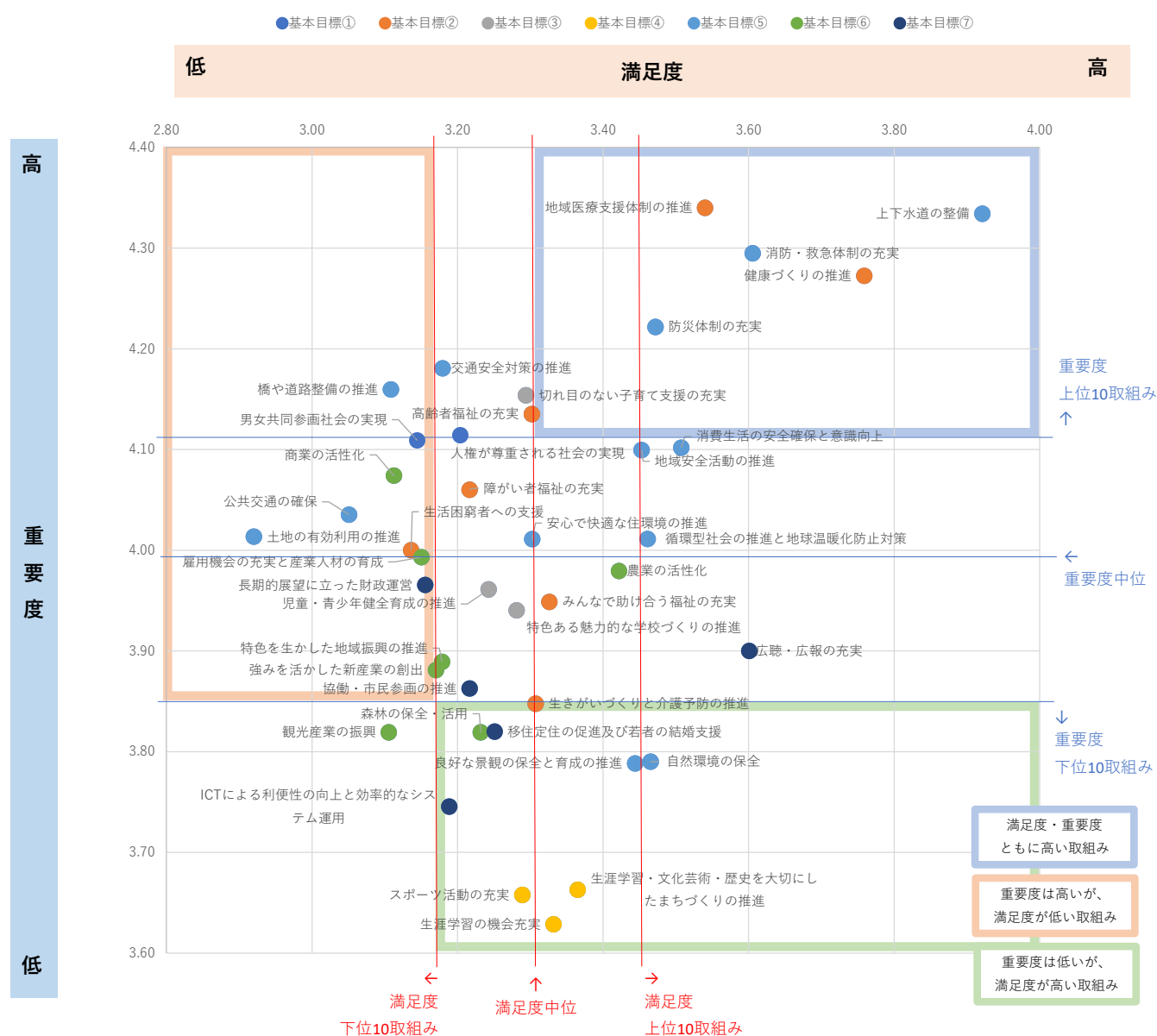
⑨ 各取組みの満足度・重要度の平均点による比較

図表 55 平均点による基本目標の満足度・重要度の比較



- 各取組みの満足度・重要度を、「満足/重要」を5点、「どちらかといえば満足/重要」を4点、「どちらでもない/普通」を3点、「どちらかといえば不満/重要でない」を2点、「不満/重要でない」を1点として得点化し、図表56に満足度平均点を横軸、重要度平均点を縦軸としてプロットしています。
 - 図表56を見ると、「上下水道の整備」「地域医療支援体制の推進」「消防・救急体制の充実」「健康づくりの推進」「防災体制の充実」等は、満足度・重要度ともに高く、引き続き充実した取組みを継続することが求められます。
 - 一方で重要度が高く満足度が低い「橋や道路整備の推進」「男女共同参画社会の実現」「商業の活性化」「公共交通の確保」「土地の有効利用の推進」等は取組みを強化する必要があります。
- また、重要度が低く満足度が高い「自然環境の保全」「良好な景観の保全と育成の推進」「生涯学習・文化芸術・歴史を大切にしまちづくりの推進」「生涯学習の機会充実」等は、市民にとって概ね満足され、かつ優先順位の低い取組みであることから今後の取組みの方向性や優先順位について検討が必要であるといえます。

図表 56 平均点による各取組みの満足度・重要度のマトリクス



- 各取組みの満足度を、「満足」を5点、「どちらかといえば満足」を4点、「どちらでもない」を3点、「どちらかといえば不満」を2点、「不満」を1点として得点化し、年代ごとに平均点による各取組みの順位付けをおこないました。
- 年代別に各取組み満足度の順位を見ると、全年代で上位10位以内となった取組みは「健康づくりの推進」「上下水道の整備」「広聴・広報の充実」となっています。一方で、「土地の有効活用の推進」は全年代で下位となっています。
年代別に大きく傾向が異なる取組みは、「地域医療支援体制の推進」「農業の活性化」「移住定住の促進及び若者の結婚支援」等があげられます。

⑩ 年代別順位

図表 57 年代別各取組み満足度の順位（赤が上位10位、青が下位10位）

基本 目標	No	取組み	10代～ 20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代 以上
1	1	人権が尊重される社会の実現	23	20	37	29	32	25	15
	2	男女共同参画社会の実現	39	20	36	31	38	37	19
2	3	健康づくりの推進	8	6	5	2	1	1	2
	4	地域医療支援体制の推進	17	33	11	7	3	3	6
	5	生きがいづくりと介護予防の推進	32	20	24	15	17	11	23
	6	高齢者福祉の充実	32	23	35	24	14	10	13
	7	みんなで助け合う福祉の充実	23	16	19	17	19	20	9
	8	障がい者福祉の充実	39	23	24	23	31	23	11
	9	生活困窮者への支援	36	34	38	33	33	27	29
3	10	切れ目のない子育て支援の充実	29	31	28	13	16	16	21
	11	特色ある魅力的な学校づくりの推進	23	23	17	28	18	19	22
	12	児童・青少年健全育成の推進	32	31	22	16	22	24	24
4	13	生涯学習の機会充実	22	19	21	19	8	15	16
	14	生涯学習・文化芸術・歴史を大切にしまちづくりの推進	14	9	15	19	7	17	18
	15	スポーツ活動の充実	28	26	33	18	13	13	17
5	16	防災体制の充実	12	9	10	14	15	6	4
	17	消防・救急体制の充実	6	12	5	4	4	4	3
	18	交通安全対策の推進	29	28	40	34	21	22	26
	19	消費生活の安全確保と意識向上	3	9	9	6	6	7	12
	20	地域安全活動の推進	8	7	7	3	20	9	14
	21	土地の有効利用の推進	29	40	39	40	39	40	40
	22	上下水道の整備	1	1	1	1	2	2	1
	23	橋や道路整備の推進	38	39	33	37	29	39	20
	24	安心して快適な住環境の推進	15	7	13	21	23	21	28
	25	公共交通の確保	36	28	31	38	40	30	38
	26	自然環境の保全	6	4	3	8	9	18	10
	27	良好な景観の保全と育成の推進	3	3	14	12	12	12	7
6	28	循環型社会の推進と地球温暖化防止対策	8	13	8	11	11	8	8
	29	農業の活性化	8	4	4	9	10	14	33
	30	森林の保全・活用	12	13	12	26	28	34	37
	31	強みを活かした新産業の創出	32	34	19	27	24	35	36
	32	雇用機会の充実と産業人材の育成	17	36	27	29	34	32	34
	33	商業の活性化	20	38	24	36	36	36	32
	34	観光産業の振興	16	18	29	39	30	38	35
	35	特色を生かした地域振興の推進	20	27	18	35	25	29	31
7	36	広聴・広報の充実	3	2	2	4	5	5	5
	37	ICTによる利便性の向上と効率的なシステム運用	23	30	23	22	27	33	30
	38	長期的展望に立った財政運営	23	37	32	32	37	31	25
	39	移住定住の促進及び若者の結婚支援	2	13	16	10	34	28	39
	40	協働・市民参画の推進	19	17	30	25	26	26	27

- 各取組みの重要度を、「重要」を5点、「どちらかといえば重要」を4点、「普通」を3点、「どちらかといえば重要でない」を2点、「重要でない」を1点として得点化し、年代ごとに平均点による各取組みの順位付けをおこないました。
- 年代別に各取組み重要度の順位を見ると、全年代で上位10位以内と評価された取組みは「健康づくりの推進」「防災体制の充実」「消防・救急体制の充実」「上下水道の整備」となっています。一方で、基本目標4の取組みは全ての年代で重要度が低くなっています。
年代別に大きく傾向が異なる取組みは「地域医療支援体制の推進」「観光産業の振興」等があげられます。

図表 58 年代別各取組み重要度の順位（赤が上位10位、青が下位10位）

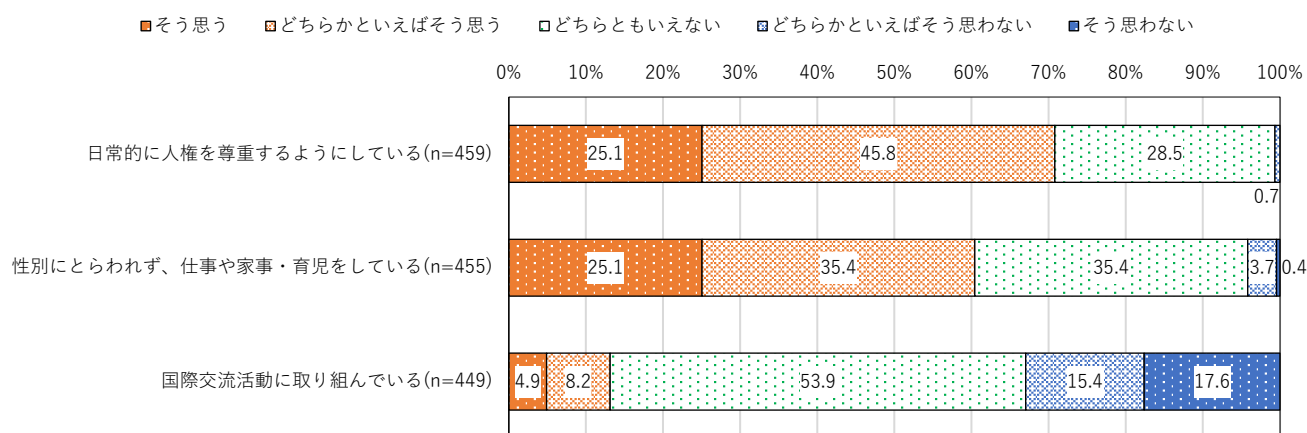
基本 目標	No	取組み	10代～ 20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代 以上
1	1	人権が尊重される社会の実現	23	13	24	10	6	14	3
	2	男女共同参画社会の実現	27	10	20	7	8	18	8
2	3	健康づくりの推進	9	3	6	4	3	3	2
	4	地域医療支援体制の推進	20	2	2	1	1	1	6
	5	生きがいづくりと介護予防の推進	40	37	35	26	22	29	21
	6	高齢者福祉の充実	34	24	13	3	4	13	9
	7	みんなで助け合う福祉の充実	39	30	27	23	25	21	10
	8	障がい者福祉の充実	27	15	23	19	13	10	12
	9	生活困窮者への支援	37	21	35	14	10	16	15
3	10	切れ目のない子育て支援の充実	5	4	4	12	14	12	7
	11	特色ある魅力的な学校づくりの推進	31	28	22	35	18	23	19
	12	児童・青少年健全育成の推進	31	24	15	29	16	26	22
4	13	生涯学習の機会充実	35	39	38	40	37	39	38
	14	生涯学習・文化芸術・歴史を大切にしまちづくりの推進	35	38	37	39	38	38	33
	15	スポーツ活動の充実	38	39	40	38	40	37	34
5	16	防災体制の充実	5	5	8	8	5	5	4
	17	消防・救急体制の充実	3	5	3	5	2	2	4
	18	交通安全対策の推進	1	17	9	6	9	6	17
	19	消費生活の安全確保と意識向上	10	15	14	17	12	7	20
	20	地域安全活動の推進	13	17	12	11	17	11	11
	21	土地の有効利用の推進	19	8	11	18	24	28	26
	22	上下水道の整備	1	1	1	2	7	4	1
	23	橋や道路整備の推進	5	17	5	9	11	8	13
	24	安心して快適な住環境の推進	13	11	20	22	23	22	18
	25	公共交通の確保	10	27	10	20	15	15	28
	26	自然環境の保全	24	35	32	37	31	31	35
	27	良好な景観の保全と育成の推進	13	35	39	36	29	35	25
	28	循環型社会の推進と地球温暖化防止対策	24	32	26	13	20	9	16
6	29	農業の活性化	24	22	19	24	21	17	30
	30	森林の保全・活用	33	33	29	34	33	30	32
	31	強みを活かした新産業の創出	29	34	25	30	28	27	23
	32	雇用機会の充実と産業人材の育成	17	9	18	21	27	20	27
	33	商業の活性化	4	12	6	16	19	19	24
	34	観光産業の振興	8	31	34	31	34	32	36
	35	特色を生かした地域振興の推進	22	26	17	32	29	24	37
7	36	広聴・広報の充実	30	17	30	28	32	25	14
	37	ICTによる利便性の向上と効率的なシステム運用	21	23	31	33	39	40	39
	38	長期的展望に立った財政運営	16	7	16	14	26	36	29
	39	移住定住の促進及び若者の結婚支援	10	29	33	25	36	33	40
	40	協働・市民参画の推進	18	14	28	27	35	34	30

(3) 自身の活動の状況や今後の意向

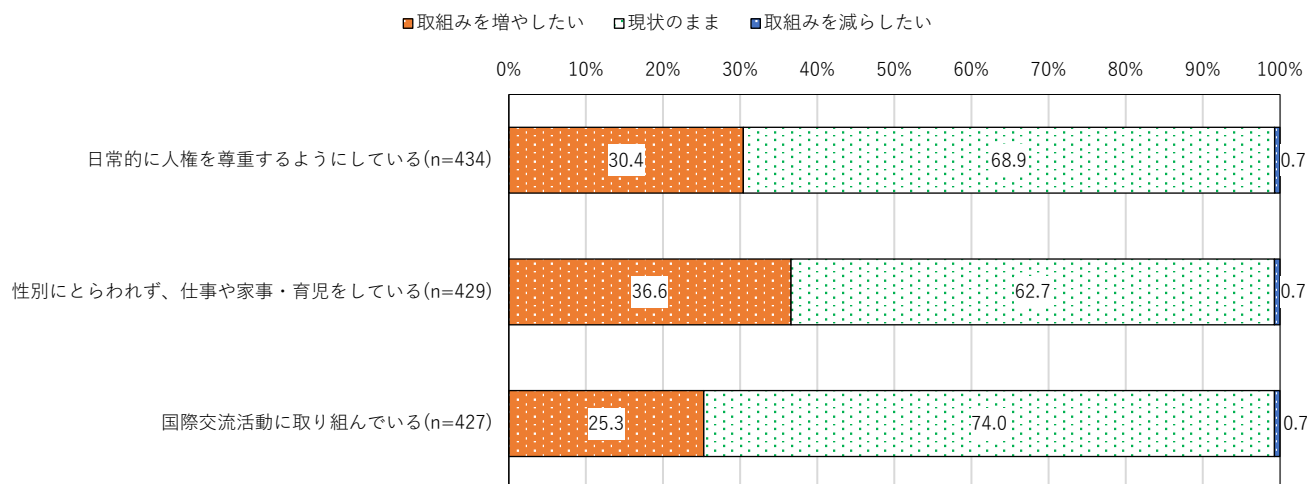
- 基本目標1「多様性を認め合い、誰もが活躍できるまち」に関する現在の活動状況を見ると、「日常的に人権を尊重するようにしている」、「性別にとらわれず、仕事や家事・育児をしている」で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合が、6割以上を占める結果となっています。一方で、「国際交流活動に取り組んでいる」は「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」が3割以上となっています。
- 基本目標1「多様性を認め合い、誰もが活躍できるまち」に関する今後の取組み意向を見ると、「現状のまま」と回答した人の割合は、6割以上を占める結果となっています。

① 基本目標1に関する活動

図表 59 現在の活動状況



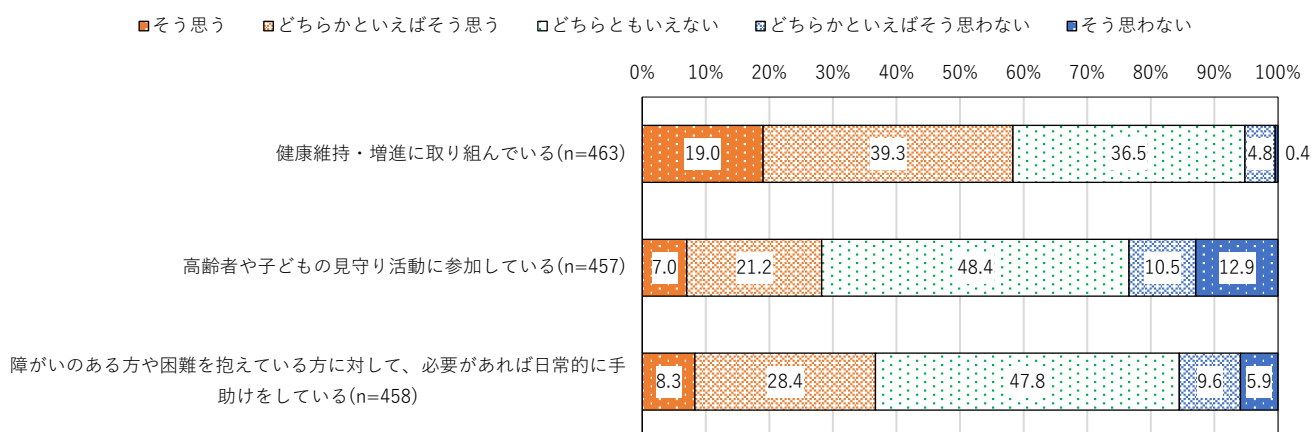
図表 60 今後の取組み意向



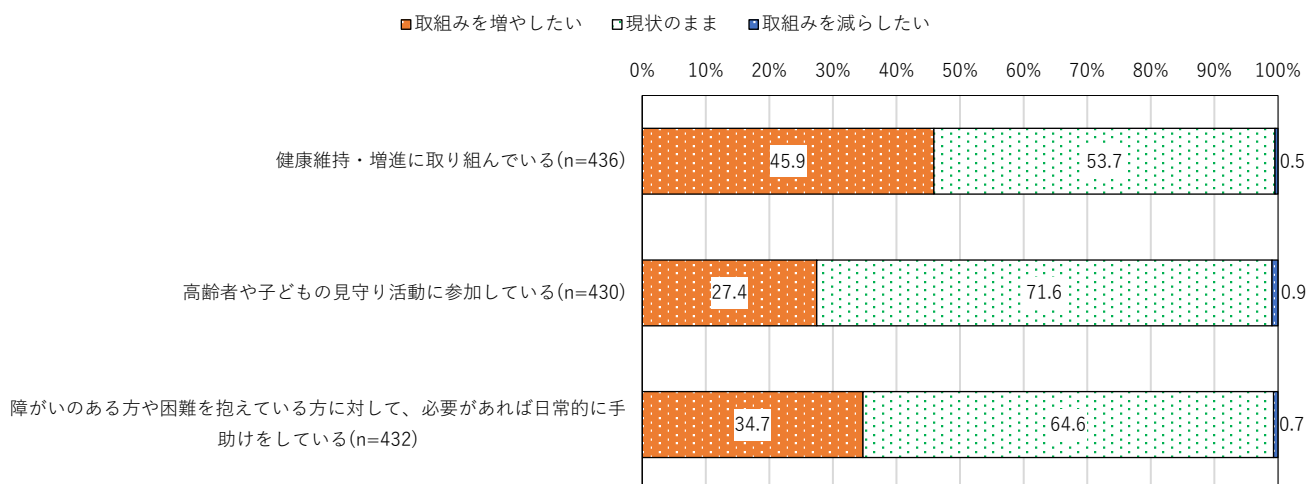
- 基本目標2「みんなで支えあい健やかに暮らせるまち」に関する現在の活動状況を見ると、「健康維持・増進に取り組んでいる」で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合は半数以上を占める結果となっています。一方で、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」は、「高齢者や子どもの見守り活動に参加している」(23.4%)、「障がいのある方や困難を抱えている方」に対して、必要があれば日常的に手助けをしている」(15.5%)となっています。
- 基本目標2「みんなで支えあい健やかに暮らせるまち」に関する活動の今後の取組み意向を見ると、「健康維持・増進に取り組んでいる」については4割以上の方が取組みを増やしたいと感じている一方で、「高齢者や子どもの見守り活動に参加している」、「障がいのある方や困難を抱えている方」に対して、必要があれば手助けをしている」は6割以上の方が現状維持と回答しています。

② 基本目標2に関する活動

図表 61 現在の活動状況



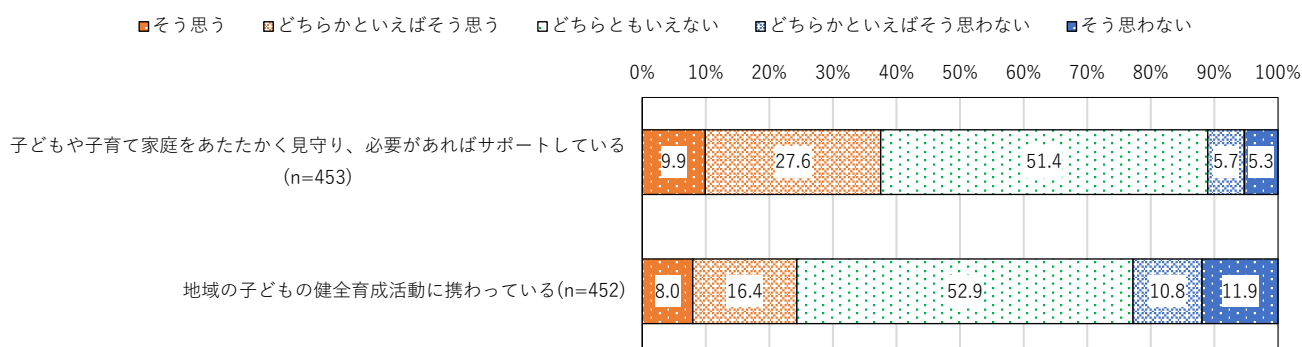
図表 62 今後の取組み意向



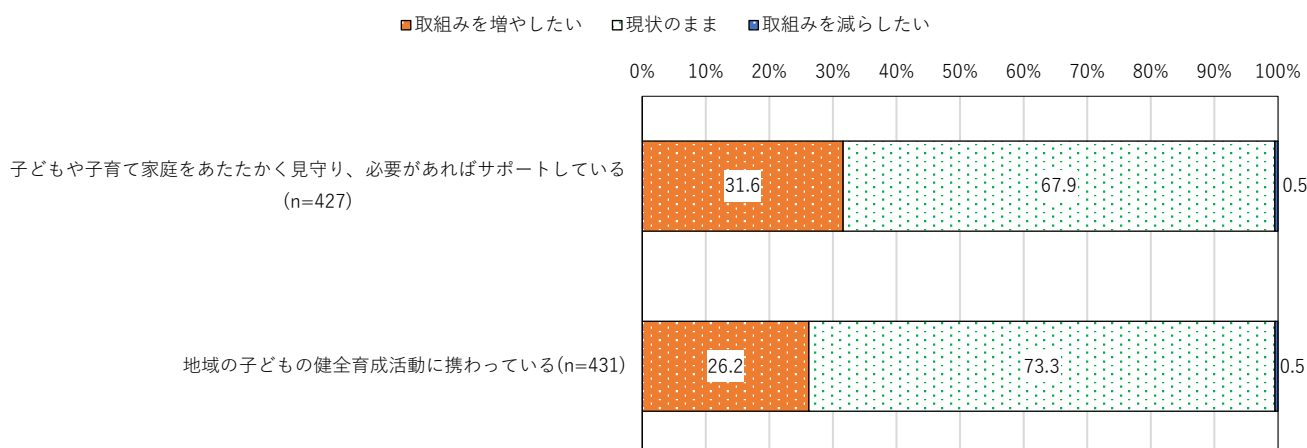
- 基本目標3「子どもの個性と力がのびのび育つ教育のまち」に関する現在の活動状況を見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合は、「子どもや子育て家庭をあたたかく見守り、必要があればサポートしている」(37.5%)、「地域の子どもの健全育成活動に携わっている」(24.4%)となっており、3割前後にとどまっています。
- 基本目標3「子どもの個性と力がのびのび育つ教育のまち」に関する今後の取組み意向を見ると、「子どもや子育て家庭をあたたかく見守り、必要があればサポートしている」(67.9%)、「地域の子どもの健全育成活動に携わっている」(73.3%)と6割以上の人が現状維持と回答しています。

③ 基本目標3に関する活動

図表 63 現在の活動状況



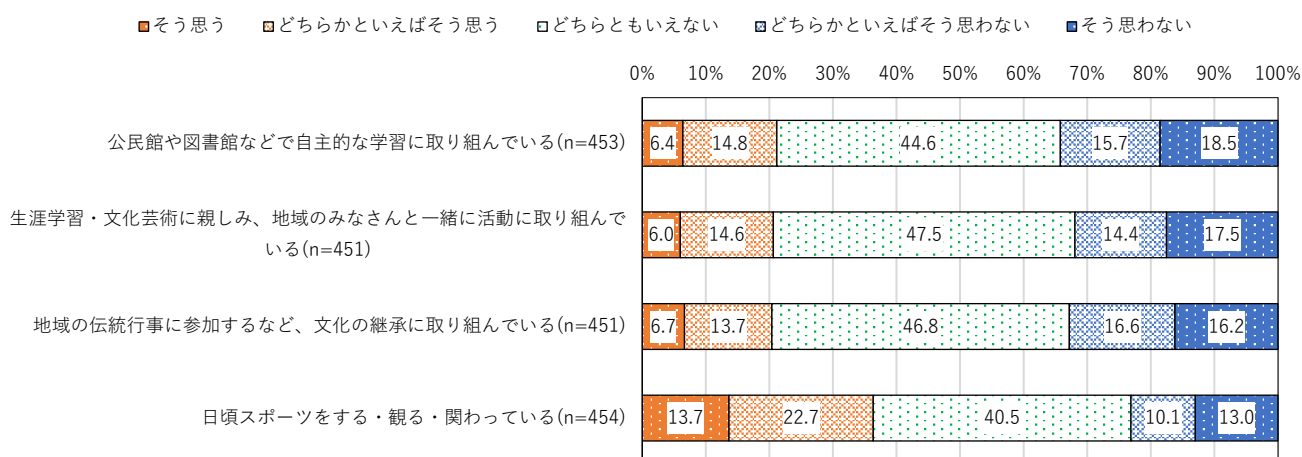
図表 64 今後の取組み意向



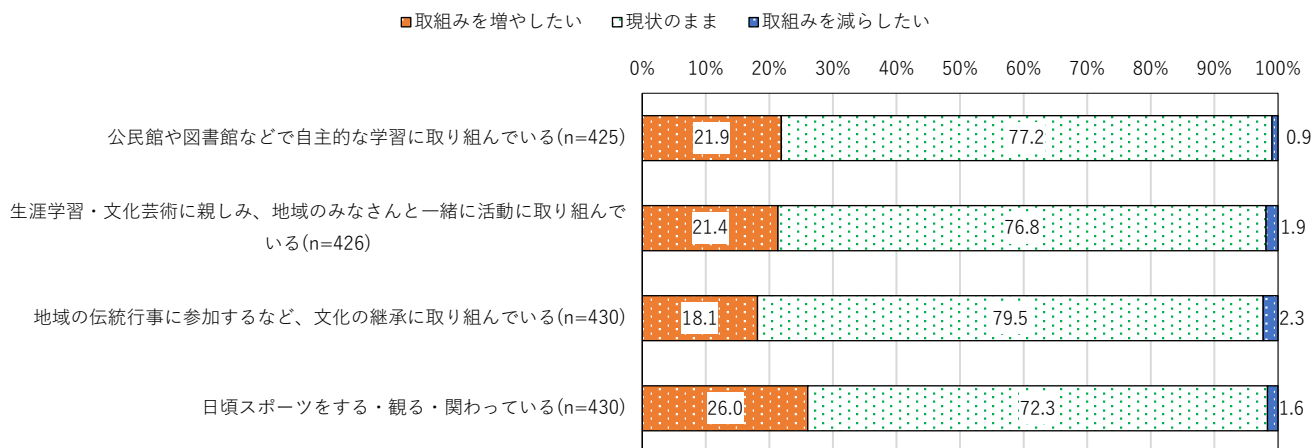
- 基本目標4「一人ひとりが学び、高め合うまち」に関する現在の活動状況を見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合は、「日頃スポーツをする・観る・関わっている」が最も多くなっています。
- 基本目標4「一人ひとりが学び、高め合うまち」に関する今後の取組み意向を見ると、「現状のまま」と回答した人の割合は、各取組みで7割以上を占める結果となっています。

④ 基本目標4に関する活動

図表 65 現在の活動状況



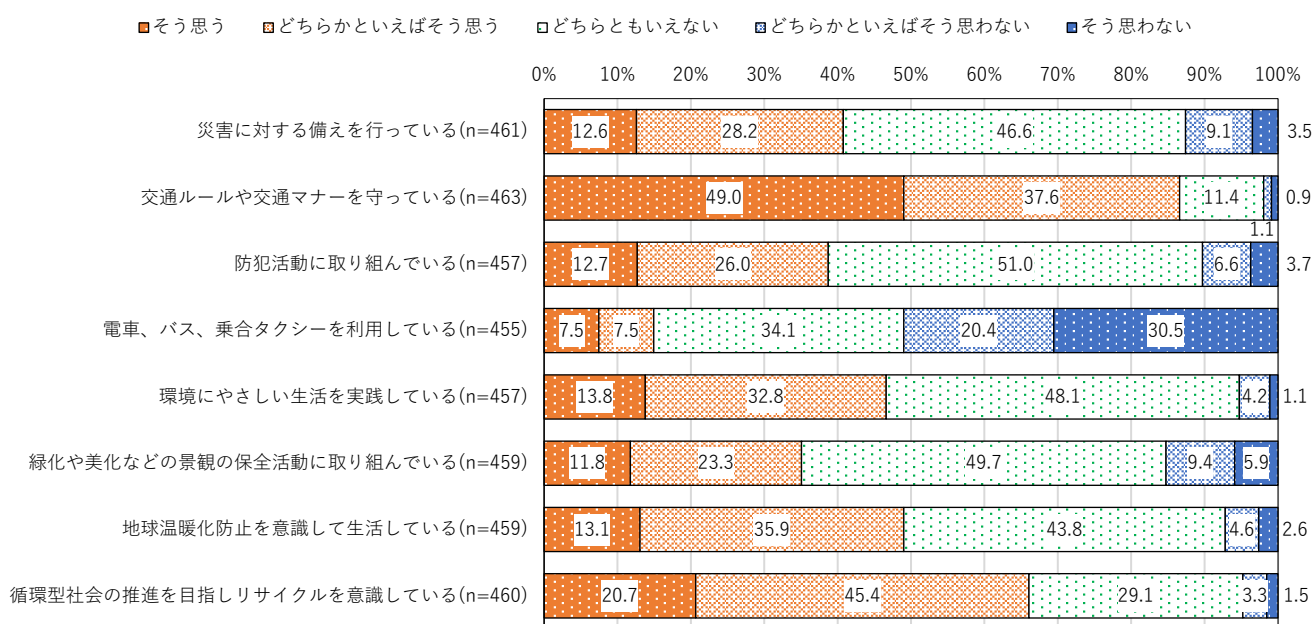
図表 66 今後の取組み意向



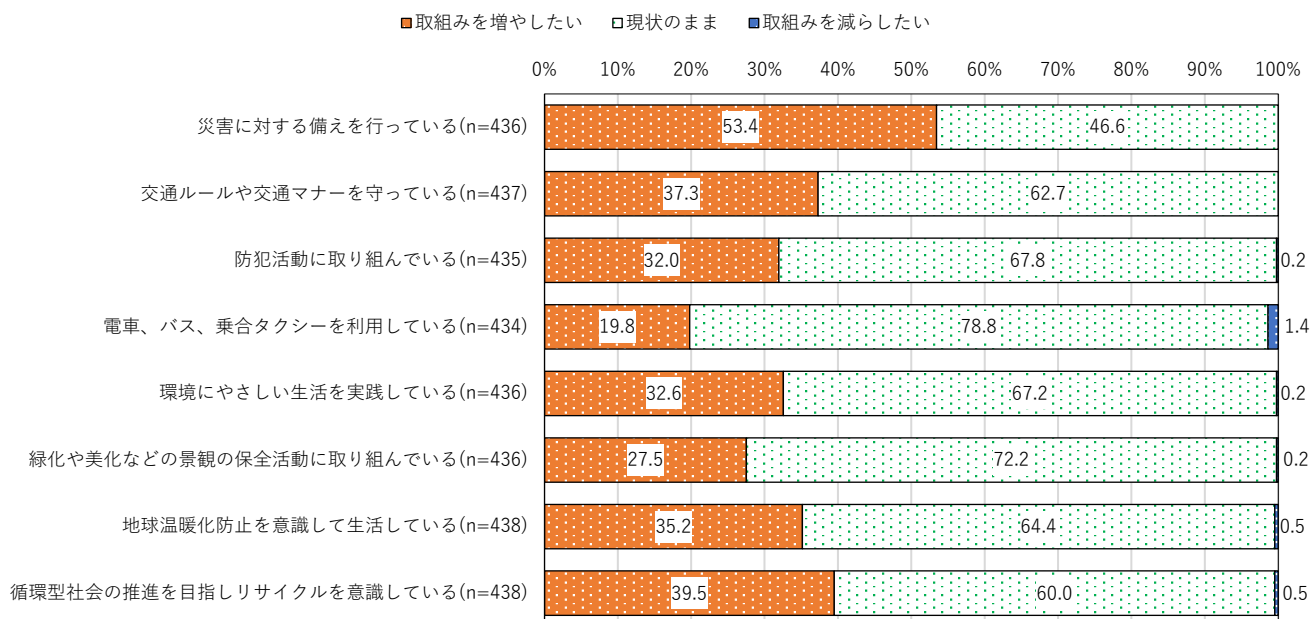
- 基本目標5「安全・安心で快適な生活と美しい自然環境がともにあるまち」に関する現在の活動状況を見ると、「交通ルールや交通マナーを守っている」では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合が9割弱を占めています。一方で、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答した人の割合は、「電車、バス、乗合タクシーを利用している」が半数以上を占める結果となっています。
- 基本目標5「安全・安心で快適な生活と美しい自然環境がともにあるまち」に関する今後の取組み意向を見ると、「取組みを増やしたい」と回答した人の割合は、「災害に対する備えを行っている」では半数以上を占め、防災意識への高まりがうかがえます。これ以外の取組みは「現状のまま」が6割以上を占める結果となっています。

⑤ 基本目標5に関する活動

図表 67 現在の活動状況



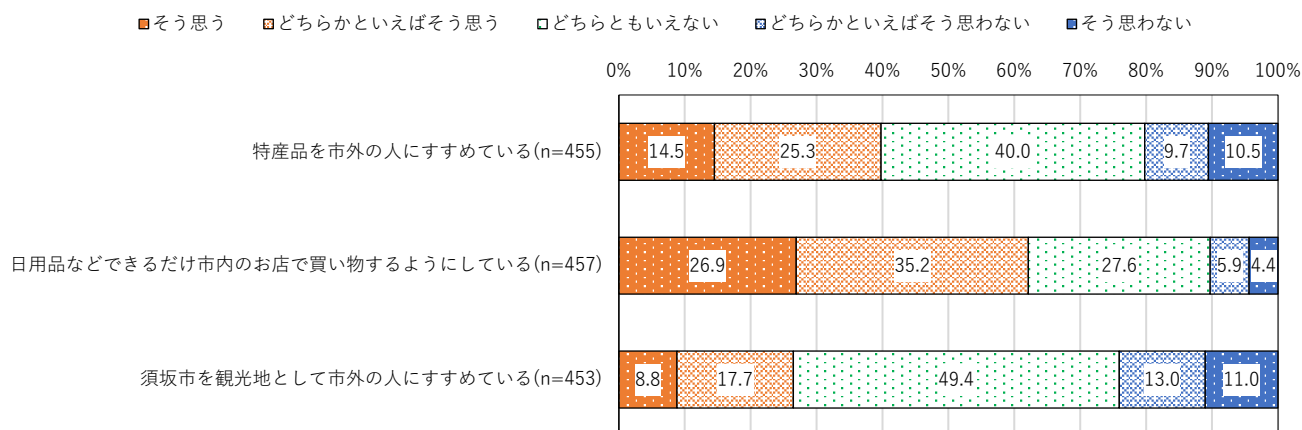
図表 68 今後の取組み意向



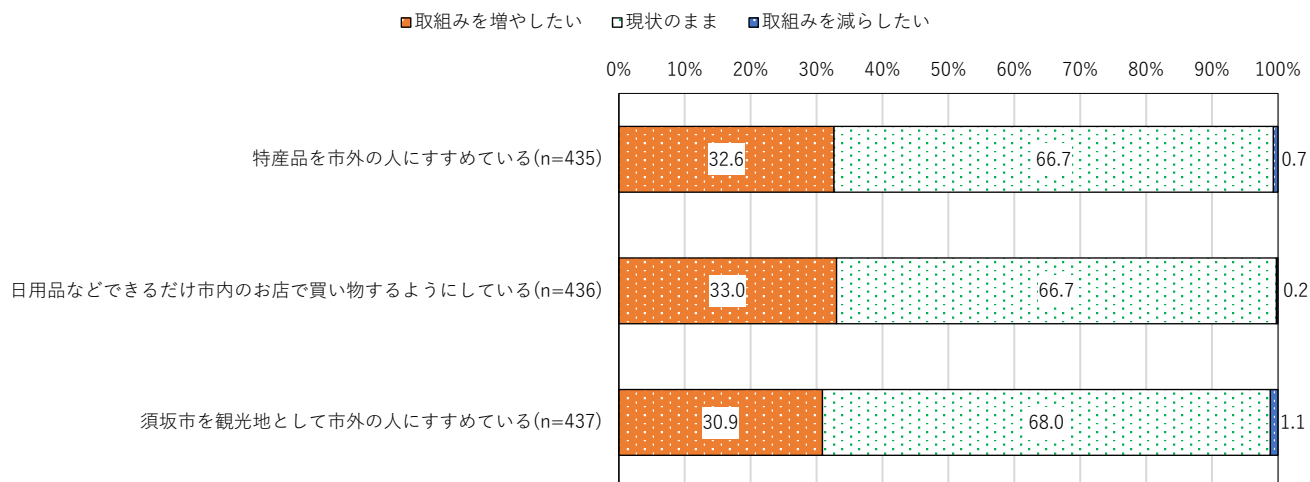
- 基本目標 6「活力と賑わいのある自立したまち」に関する現在の活動状況を見ると、「日用品などできるだけ市内のお店で買い物するようにしている」では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合が 6 割以上を占め、地産地消の取組み意識が高まっていることが伺えます。
- 基本目標 6「活力と賑わいのある自立したまち」に関する今後の取組み意向を見ると、「現状のまま」と回答した人の割合は、各取組みで 6 割以上を占める結果となっています。

⑥ 基本目標 6 に関する活動

図表 69 現在の活動状況



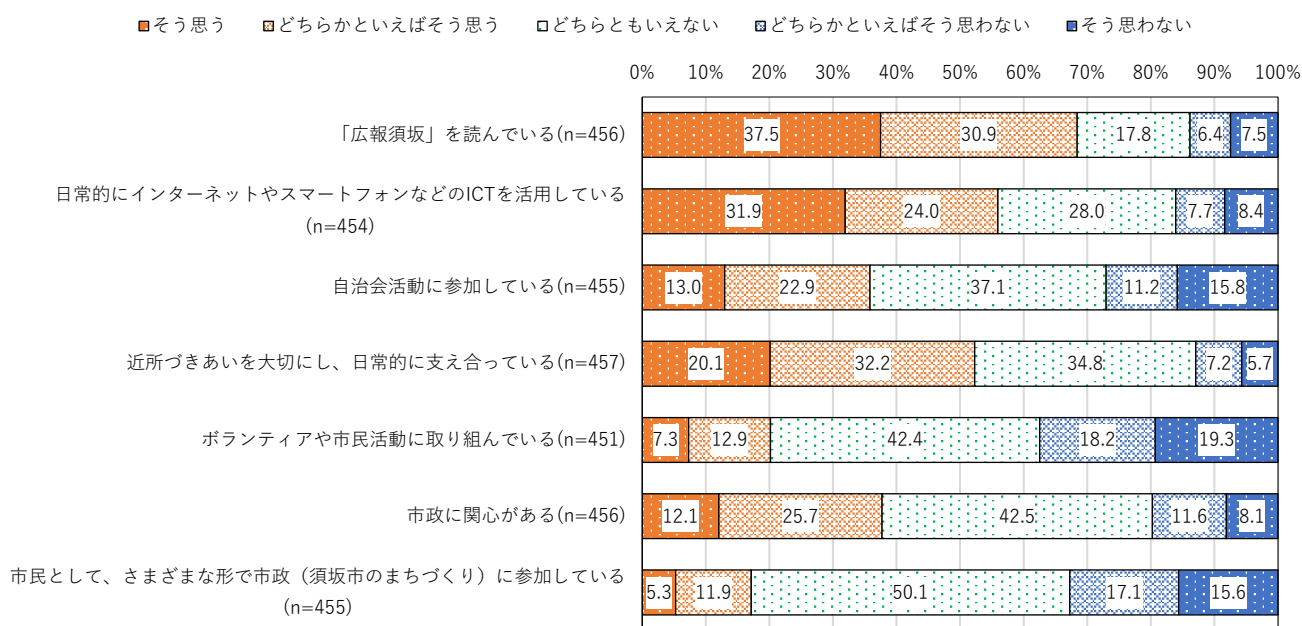
図表 70 今後の取組み意向



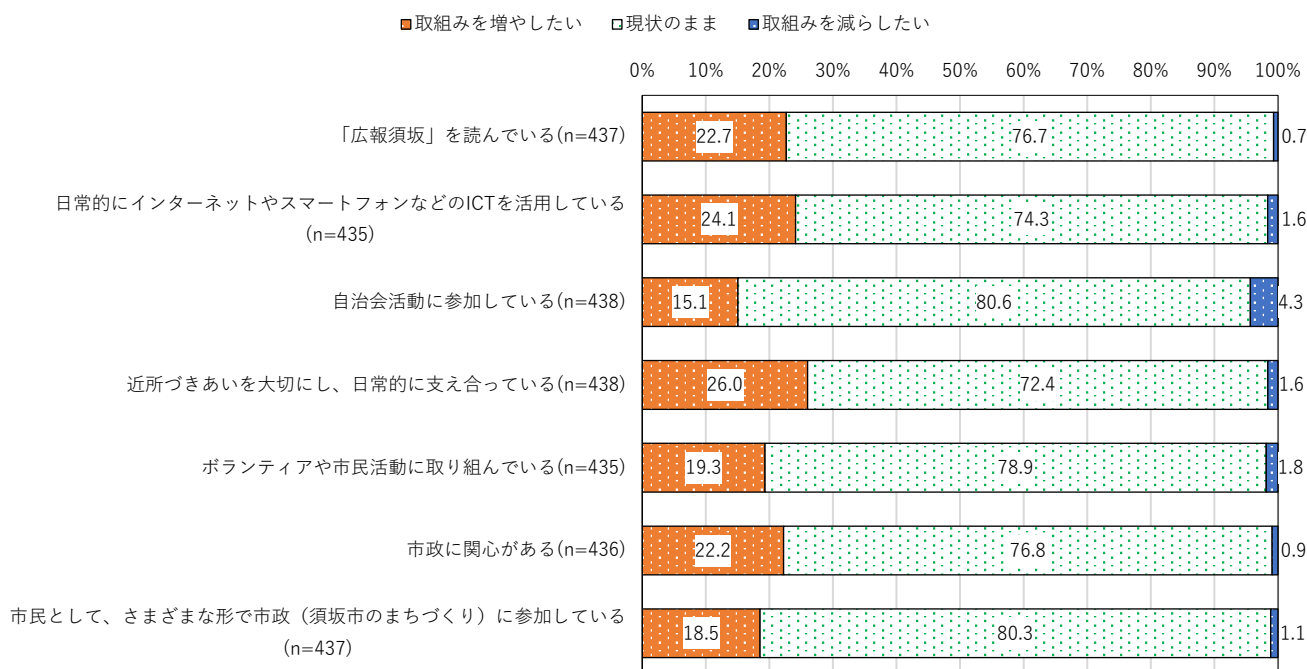
- 基本目標7「市民とともにつくる持続可能なまち」に関する現在の活動状況を見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合は、「「広報須坂」を読んでいる」(68.4%)、「日常的にインターネットやスマートフォンなどのICTを活用している」(55.9%)、「近所づきあいを大切にし、日常的に支え合っている」(52.3%)で半数以上を占める結果となっています。
- 基本目標7「市民とともにつくる持続可能なまち」に関する今後の取組み意向を見ると、「現状のまま」が各取組みで7割以上を占める結果となっています。ボランティア、自治会活動、地域コミュニティを充実するためにはより一層の働きかけが必要です。

⑦ 基本目標7に関する活動

図表 71 現在の活動状況



図表 72 今後の取組み意向

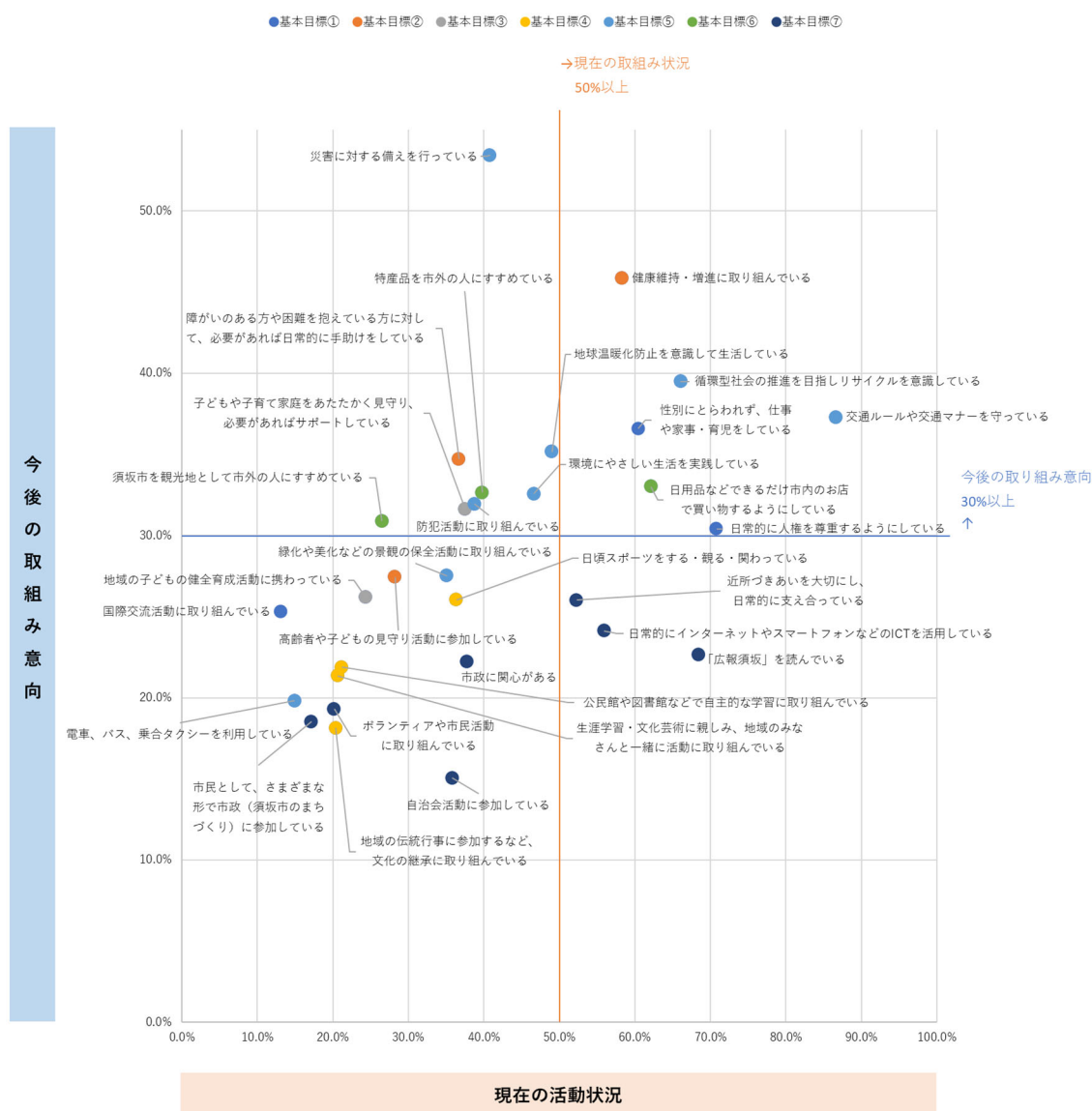


- 現在の活動状況で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合の合計を横軸に、今後の取り組み意向の「取り組みを増やしたい」の割合を縦軸にとり、それぞれの活動を以下にプロットしました。
- 現在の活動状況・今後の取り組み意向のマトリクスを見ると、現在の活動状況が高く、かつ今後の取り組み意向が高い活動は、「健康維持・増進に取り組んでいる」「循環型社会の推進を目指しリサイクルを意識している」「交通ルールや交通マナーを守っている」「性別にとらわれず、仕事や家事・育児をしている」「日用品などできるだけ市内のお店で買い物するようにしている」「日常的に人権を尊重するようにしている」等となっています。

現在の活動状況・今後の取り組み意向が低い活動は、「ボランティアや市民活動に取り組んでいる」「市民として、さまざまな形で市政（須坂市のまちづくり）に参加している」「地域の伝統行事に参加するなど、文化の継承に取り組んでいる」「自治会活動に参加している」等であり、今後の地域づくりや市民活動を継続するためにも重要な視点となることから、市民の取り組み意識を高めていくことが求められています。

⑧ 現在の活動状況と今後の取り組み意向のまとめ

図表 73 現在の活動状況・今後の取り組み意向のマトリクス



- 現在の活動状況で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合の合計で年代ごとに順位を比べました。
- 年代別現在の活動状況の順位を見ると、全年代で上位 5 位以内となった活動は「交通ルールや交通マナーを守っている」となっています。「日常的にインターネットやスマートフォンなどの ICT を活用している」は 10 代～60 代まで上位 3 位以内であり、日常的なインターネット等の活用が市民の間で浸透してきていることが伺えます。また、「性別にとらわれず、仕事や家事・育児をしている」は 10 代～50 代まで上位 4 位以内であり、男女共同参画についても市民に浸透していることが伺えます。

⑨ 年代別順位

図表 74 年代別現在の活動状況の順位（赤が上位 5 位、青が下位 5 位）

基本 目標No	活動 No	活動	10～ 20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代 以上
1	1	日常的に人権を尊重するようにしている	3	5	7	5	4	7	7
	2	性別にとらわれず、仕事や家事・育児をしている	3	3	4	3	6	10	8
	3	国際交流活動に取り組んでいる	21	27	27	20	29	28	30
2	4	健康維持・増進に取り組んでいる	5	7	14	8	8	6	9
	5	高齢者や子どもの見守り活動に参加している	21	15	29	23	21	27	26
	6	障がいのある方や困難を抱えている方に対して、必要があれば日常的に手助けをしている	11	24	23	25	24	22	21
3	7	子どもや子育て家庭をあたたく見守り、必要があればサポートしている	9	9	18	21	19	24	23
	8	地域の子どもの健全育成活動に携わっている	18	21	18	21	19	24	28
4	9	公民館や図書館などで自主的な学習に取り組んでいる	26	21	23	28	22	29	13
	10	生涯学習・文化芸術に親しみ、地域のみなさんと一緒に活動に取り組んでいる	21	20	30	26	28	24	22
	11	地域の伝統行事に参加するなど、文化の継承に取り組んでいる	21	24	27	26	22	23	20
	12	日頃スポーツをする・観る・関わっている	9	10	11	9	16	17	16
5	13	災害に対する備えを行っている	26	10	22	13	18	15	5
	14	交通ルールや交通マナーを守っている	1	1	1	1	1	1	2
	15	防犯活動に取り組んでいる	15	13	20	13	13	11	18
	16	電車、バス、乗合タクシーを利用している	18	10	16	30	30	30	16
	17	環境にやさしい生活を実践している	11	15	16	12	10	16	11
	18	緑化や美化などの景観の保全活動に取り組んでいる	11	29	9	23	17	9	19
	19	地球温暖化防止を意識して生活している	15	21	12	15	12	18	12
	20	循環型社会の推進を目指しリサイクルを意識している	6	15	6	7	10	5	6
6	21	特産品を市外の人にすすめている	18	7	8	9	14	13	14
	22	日用品などできるだけ市内のお店で買い物するようにしている	6	3	5	6	5	4	4
	23	須坂市を観光地として市外の人にすすめている	21	27	12	17	27	20	23
7	24	「広報須坂」を読んでいる	6	6	3	4	2	2	1
	25	日常的にインターネットやスマートフォンなどのICTを活用している	2	2	2	2	3	8	27
	26	自治会活動に参加している	29	13	9	17	9	11	14
	27	近所づきあいを大切にし、日常的に支え合っている	11	15	15	9	7	3	3
	28	ボランティアや市民活動に取り組んでいる	26	24	25	17	25	19	25
	29	市政に関心がある	15	15	20	16	15	13	10
	30	市民として、さまざまな形で市政（須坂市のまちづくり）に参加している	29	29	25	28	25	21	29

- 今後の取組み意向で「取組みを増やす」と回答した人の割合で年代ごとに順位を比べました。
- 年代別今後の取組み意向の順位を見ると、多くの年代で上位5位以内となった活動は「健康維持・増進に取り組んでいる」、「災害に対する備えを行っている」（80代を除く全年代）となっています。また、「自治会活動に参加している」は、全ての年代で低い傾向にあります。

図表 75 年代別今後の取組み意向の順位（赤が上位5位、青が下位5位）

基本 目標No	活動 No	活動	10～ 20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代 以上
1	1	日常的に人権を尊重するようにしている	8	18	19	18	8	13	4
	2	性別にとらわれず、仕事や家事・育児をしている	2	4	7	5	6	7	6
	3	国際交流活動に取り組んでいる	8	20	16	19	23	24	15
2	4	健康維持・増進に取り組んでいる	2	2	2	2	2	2	1
	5	高齢者や子どもの見守り活動に参加している	8	11	23	11	17	17	8
	6	障がいのある方や困難を抱えている方に対して、必要があれば日常的に手助けをしている	5	4	15	7	6	9	5
3	7	子どもや子育て家庭をあたたく見守り、必要があればサポートしている	8	4	9	23	11	10	15
	8	地域の子どもの健全育成活動に携わっている	8	9	21	21	20	18	18
4	9	公民館や図書館などで自主的な学習に取り組んでいる	20	22	26	24	23	21	24
	10	生涯学習・文化芸術に親しみ、地域のみなさんと一緒に活動に取り組んでいる	21	19	27	24	25	22	25
	11	地域の伝統行事に参加するなど、文化の継承に取り組んでいる	26	24	30	26	28	26	27
	12	日頃スポーツをする・観る・関わっている	16	22	10	14	18	16	30
5	13	災害に対する備えを行っている	1	1	1	1	1	1	9
	14	交通ルールや交通マナーを守っている	6	16	4	6	4	3	11
	15	防犯活動に取り組んでいる	4	3	12	10	10	15	22
	16	電車、バス、乗合タクシーを利用している	22	24	29	28	29	23	13
	17	環境にやさしい生活を実践している	17	7	12	8	9	5	19
	18	緑化や美化などの景観の保全活動に取り組んでいる	17	16	22	14	12	14	19
	19	地球温暖化防止を意識して生活している	13	11	8	3	4	5	9
	20	循環型社会の推進を目指しリサイクルを意識している	6	11	3	4	3	4	2
6	21	特産品を市外の人にすすめている	13	9	4	9	12	11	17
	22	日用品などできるだけ市内のお店で買い物するようにしている	13	11	6	12	14	8	3
	23	須坂市を観光地として市外の人にすすめている	17	11	10	12	14	11	7
7	24	「広報須坂」を読んでいる	22	26	23	29	22	19	21
	25	日常的にインターネットやスマートフォンなどのICTを活用している	22	7	12	16	21	27	26
	26	自治会活動に参加している	30	29	28	27	30	28	29
	27	近所づきあいを大切にし、日常的に支え合っている	22	20	17	16	16	20	14
	28	ボランティアや市民活動に取り組んでいる	28	29	25	22	19	30	23
	29	市政に関心がある	28	26	20	19	26	25	12
	30	市民として、さまざまな形で市政（須坂市のまちづくり）に参加している	27	28	18	30	26	28	28

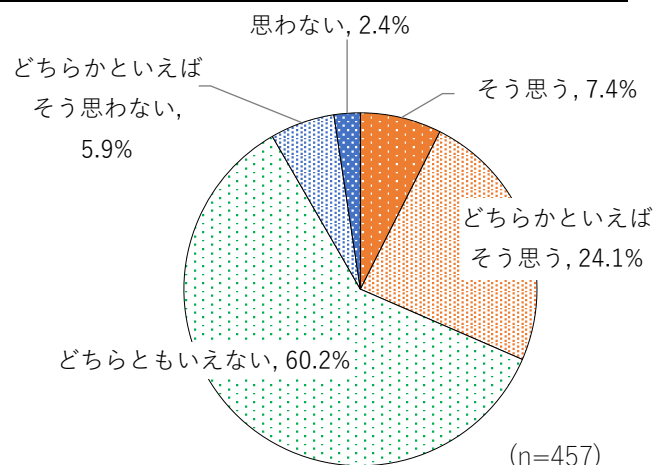
(4) 須坂市のまちづくりに対する評価

- 「須坂市は子育てしやすいまちだと思うか」を見ると、「どちらともいえない」が最も多く、約6割を占め、次いで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が3割程度を占めています。
- 18歳未満の子どもがいる家庭では、いない家庭と比べて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合が低く、「思わない」「どちらかといえば思わない」の割合が高くなっています。
- 子どもの年齢別に「須坂市は子育てしやすいまちだと思うか」を見ると、「思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答した人の割合は、3歳から小学校入学前（25.0%）、3歳未満（20.0%）で、2割以上となっています。

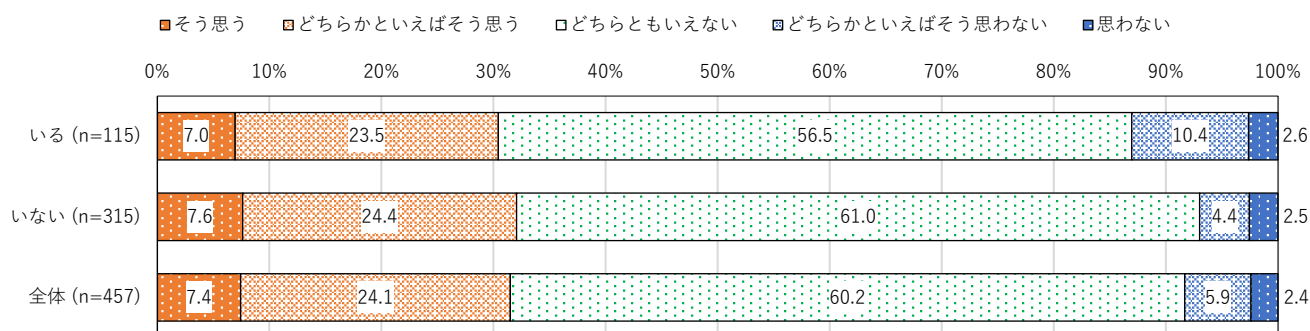
① 須坂市は子育てしやすいまちだと思うか

図表 76 須坂市は子育てしやすいまちだと思うか

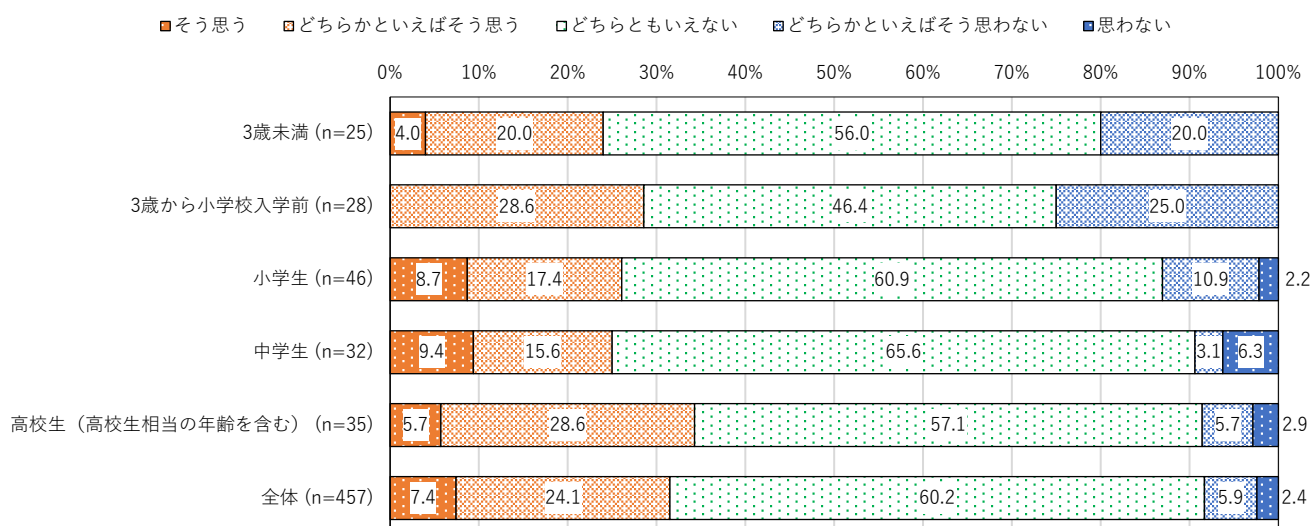
	度数	割合
そう思う	34	7.4
どちらかといえばそう思う	110	24.1
どちらともいえない	275	60.2
どちらかといえばそう思わない	27	5.9
思わない	11	2.4
合計	457	100.0



図表 77 18歳未満の子どもの有無×須坂市は子育てしやすいまちだと思うか



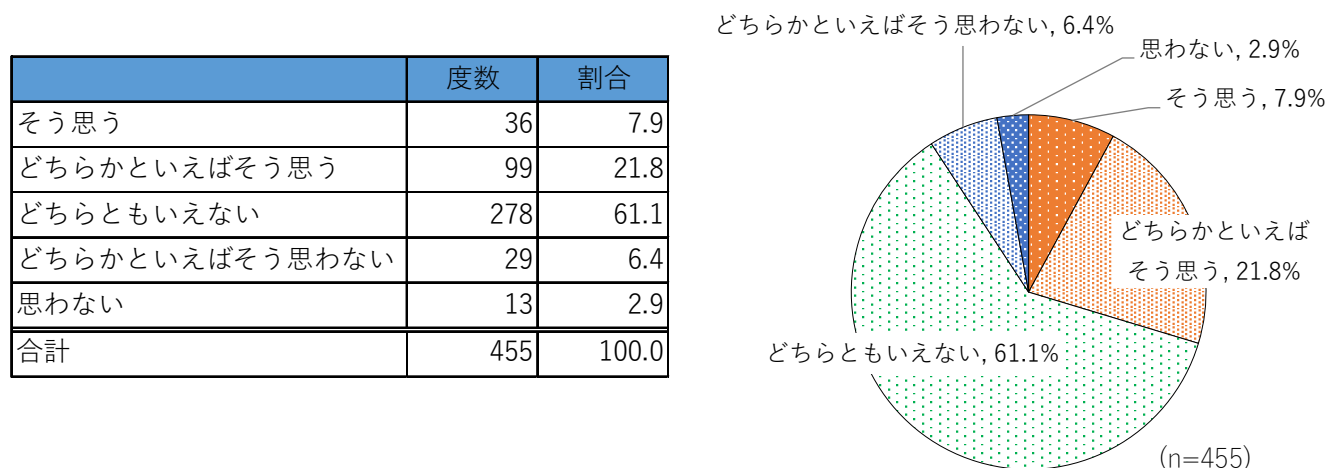
図表 78 子どもの年齢×須坂市は子育てしやすいまちだと思うか



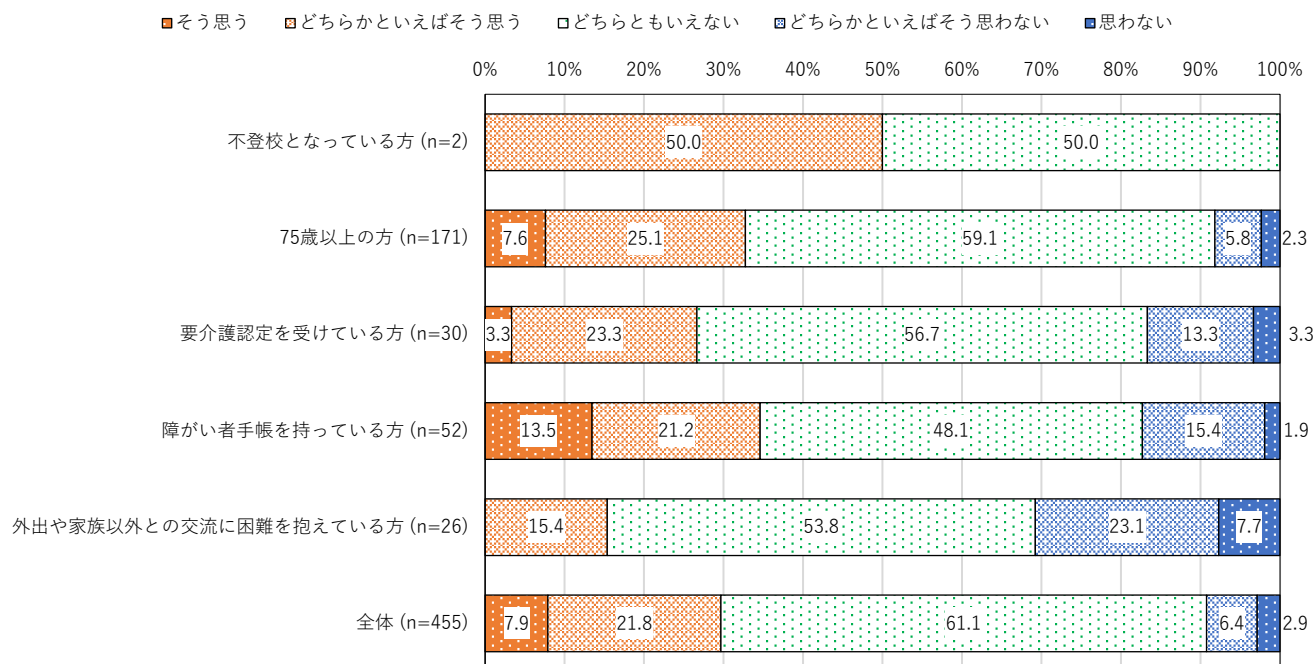
- 「須坂市は困難を抱えた人が安心して暮らせるまちだと思うか」を見ると、「どちらともいえない」が最も多く約6割を占め、次いで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が3割程度を占めています。
- 困難を抱える家族の属性別に「須坂市は困難を抱えた人が安心して暮らせるまちだと思うか」を見ると、「思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答した人は、外出や家族以外との交流に困難を抱えている方（30.8%）が最も多く、次いで障がい者手帳を持っている方（17.3%）の順となっていることから、一層の包括的な支援体制の充実が求められています。

② 須坂市は困難を抱えた人が安心して暮らせるまちだと思うか

図表 79 須坂市は困難を抱えた人が安心して暮らせるまちだと思うか



図表 80 困難を抱える家族の属性×須坂市は困難を抱えた人が安心して暮らせるまちだと思うか

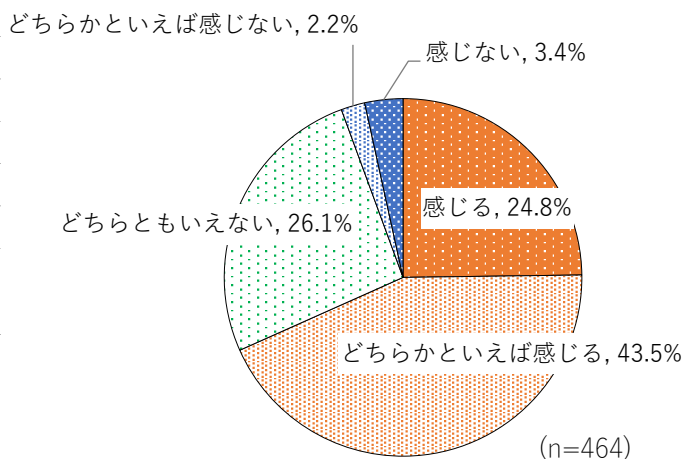


- 「須坂市に愛着を感じるか」を見ると、「感じる」「どちらかといえば感じる」と回答した人の割合は約7割であり、多くの市民が須坂市に愛着を持って暮らしています。
- 回答者の年代別に須坂市に愛着を感じるかを見ると、10～20代（82.8%）、30代（78.1%）、70代（72.1%）が7割以上の高い結果となっている一方で、40代～50代は他の世代と比べ低い評価となっています。

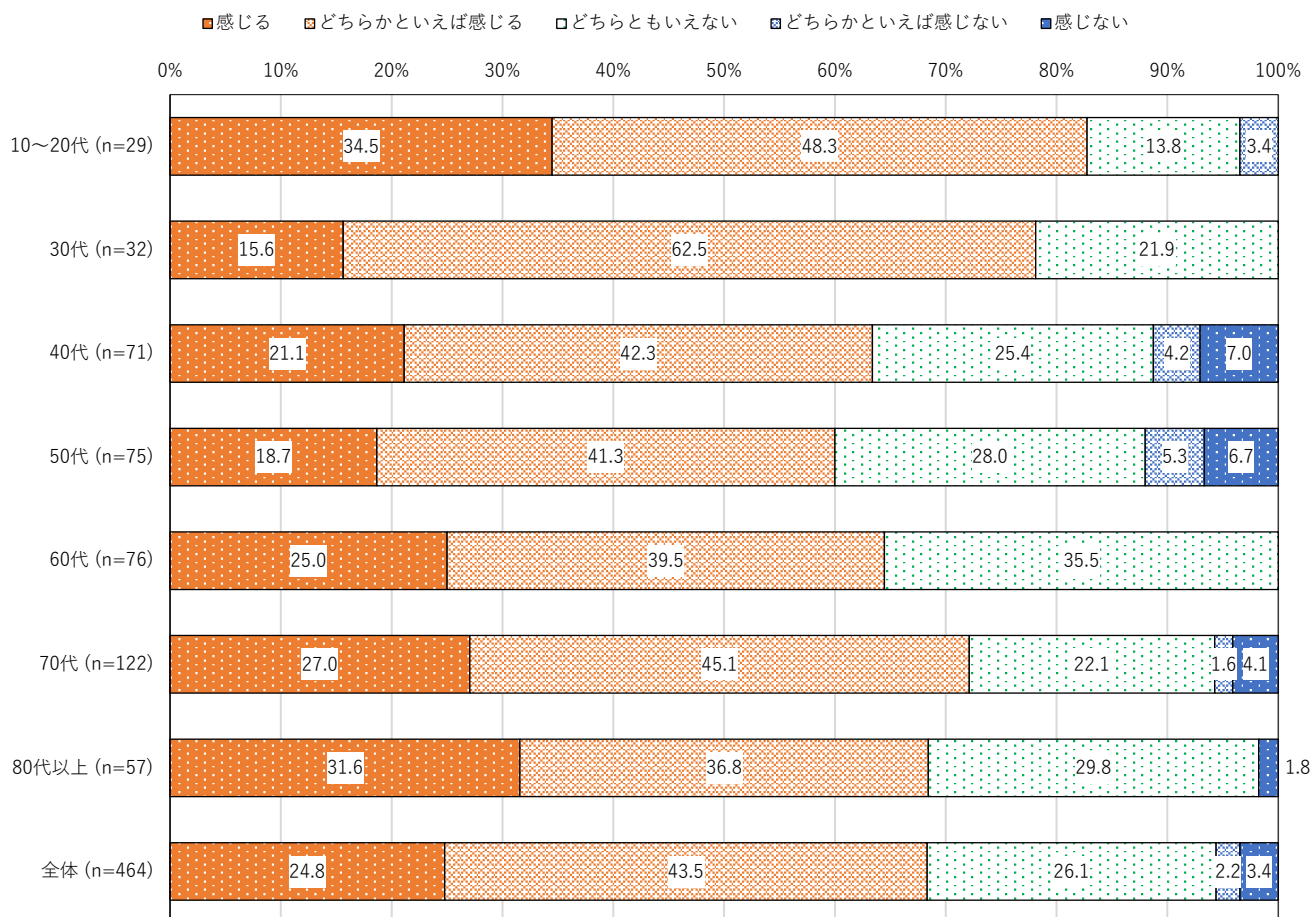
③ 須坂市に愛着を感じるか

図表 81 須坂市に愛着を感じるか

	度数	割合
感じる	115	24.8
どちらかといえば感じる	202	43.5
どちらともいえない	121	26.1
どちらかといえば感じない	10	2.2
感じない	16	3.4
合計	464	100.0

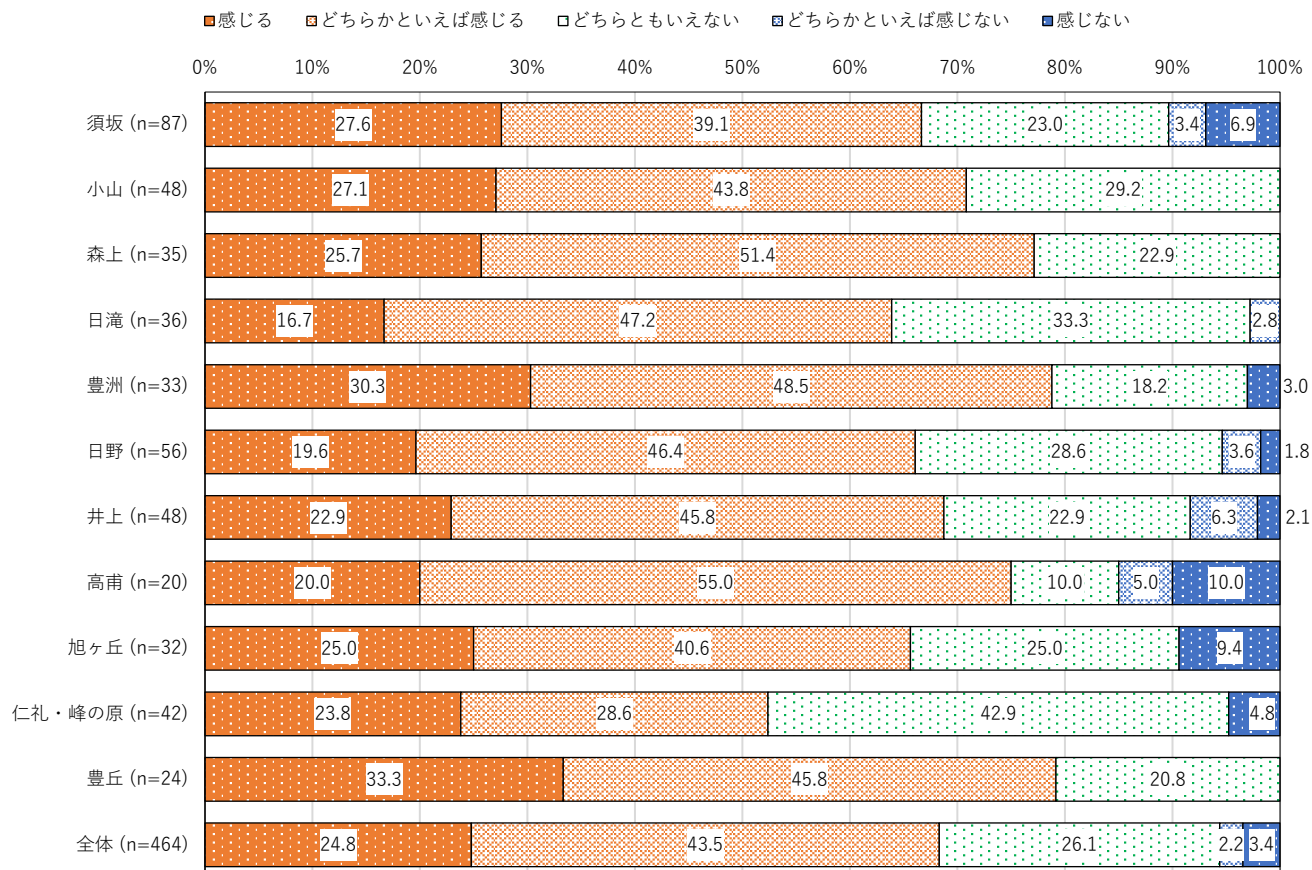


図表 82 回答者の年齢×須坂市に愛着を感じるか

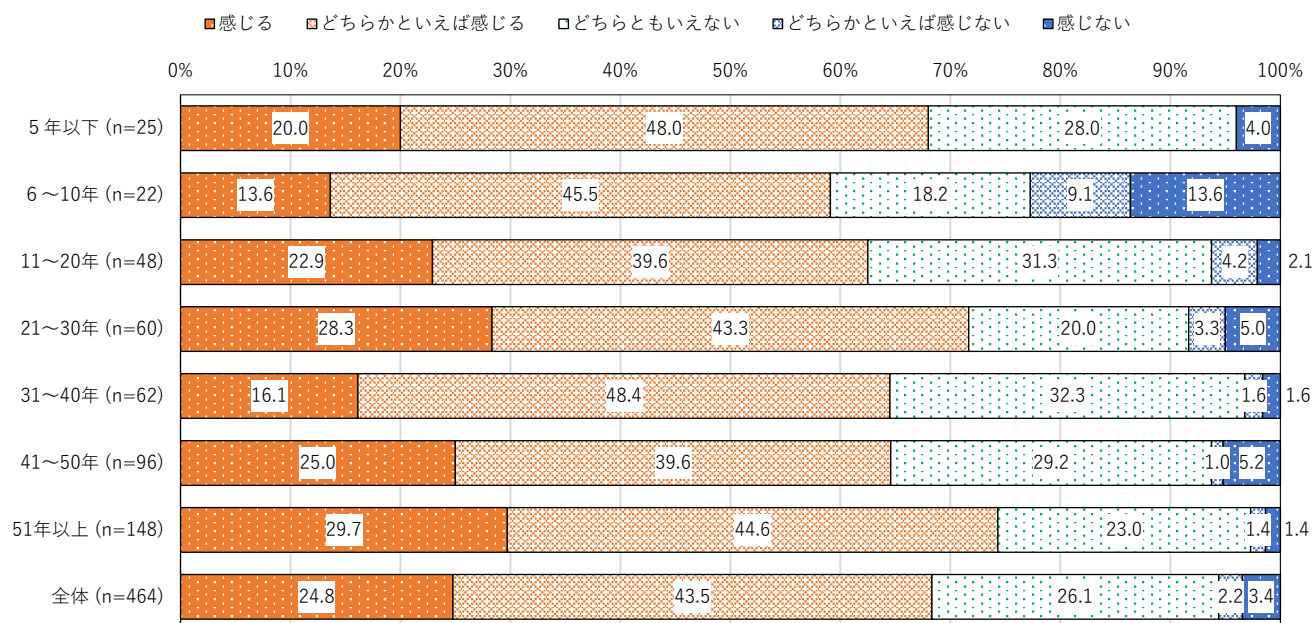


- 回答者の居住地区別に「須坂市に愛着を感じるか」を見ると、「感じる」「どちらかといえば感じる」と回答した人の割合は、豊丘（79.1%）が最も多く、次いで豊洲（78.8%）の順となっています。
- 回答者の居住年数別に「須坂市に愛着を感じるか」を見ると、「感じる」「どちらかといえば感じる」と回答した人の割合は、居住年数の長い51年以上（74.3%）が最も多くなっています。

図表 83 回答者の居住地区×須坂市に愛着を感じるか



図表 84 回答者の居住年数×須坂市に愛着を感じるか

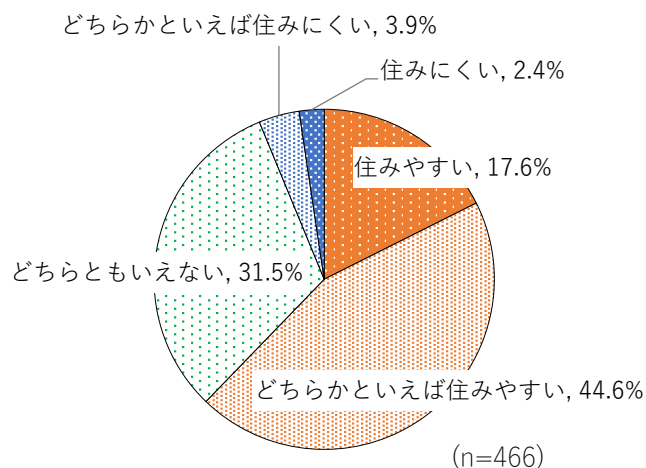


- 「須坂市は住みやすいまちだと思うか」を見ると、「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」が最も多く、6割以上を占める結果になっています。
- 回答者の年代別に「須坂市は住みやすいまちだと思うか」を見ると、30代、50代で肯定的な回答が少なくなっています。また、長野市以外の県内市町村へ通勤している人についても肯定的な回答が少なくなっています。

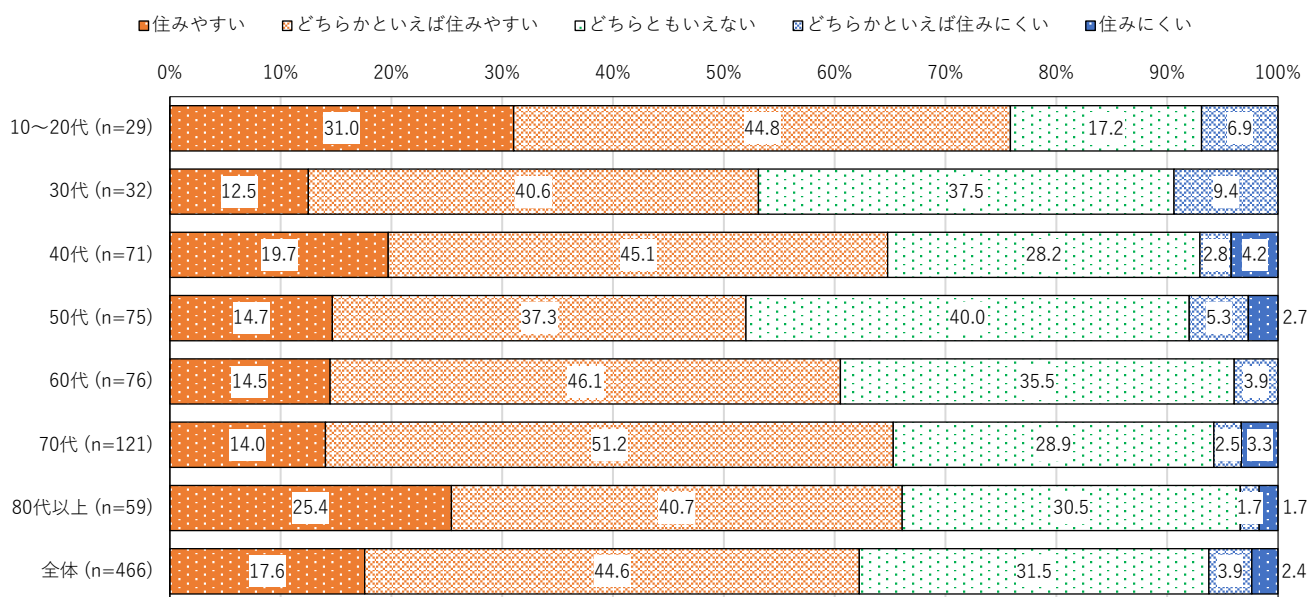
④ 須坂市は住みやすいまちだと思うか

図表 85 須坂市は住みやすいまちだと思うか

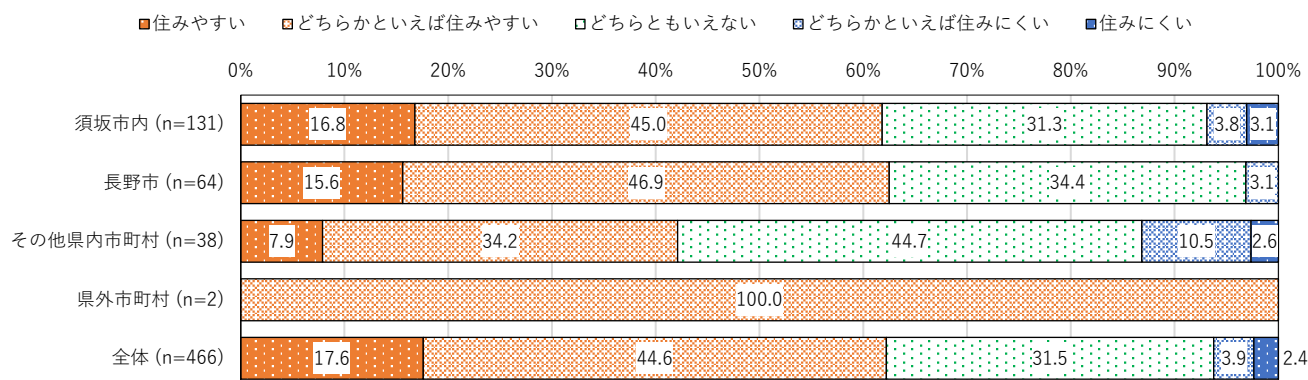
	度数	割合
住みやすい	82	17.6
どちらかといえば住みやすい	208	44.6
どちらともいえない	147	31.5
どちらかといえば住みにくい	18	3.9
住みにくい	11	2.4
合計	466	100.0



図表 86 回答者の年齢×須坂市は住みやすいまちだと思うか



図表 87 回答者の勤務地×須坂市は住みやすいまちだと思うか

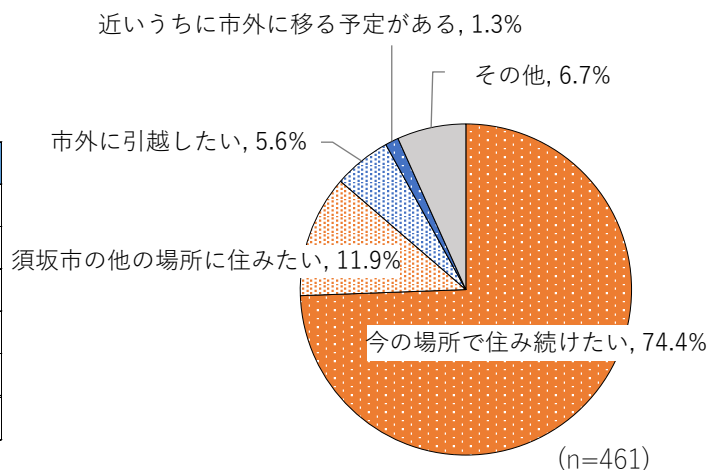


- 「須坂市に今後も住みたいと思うか」を見ると、今の場所で住みたい (74.4%) が最も多く、定住意向の強さが伺えます。
- 回答者の年代別に「須坂市に今後も住みたいと思うか」を見ると、全ての年代において「今の場所で住みたい」と回答した人が半数以上を占める結果となっています。一方で、10～20代と50代が他の世代に比べて定住意向が低い傾向にあることから、若年層に対する定住促進の取組みが求められています。

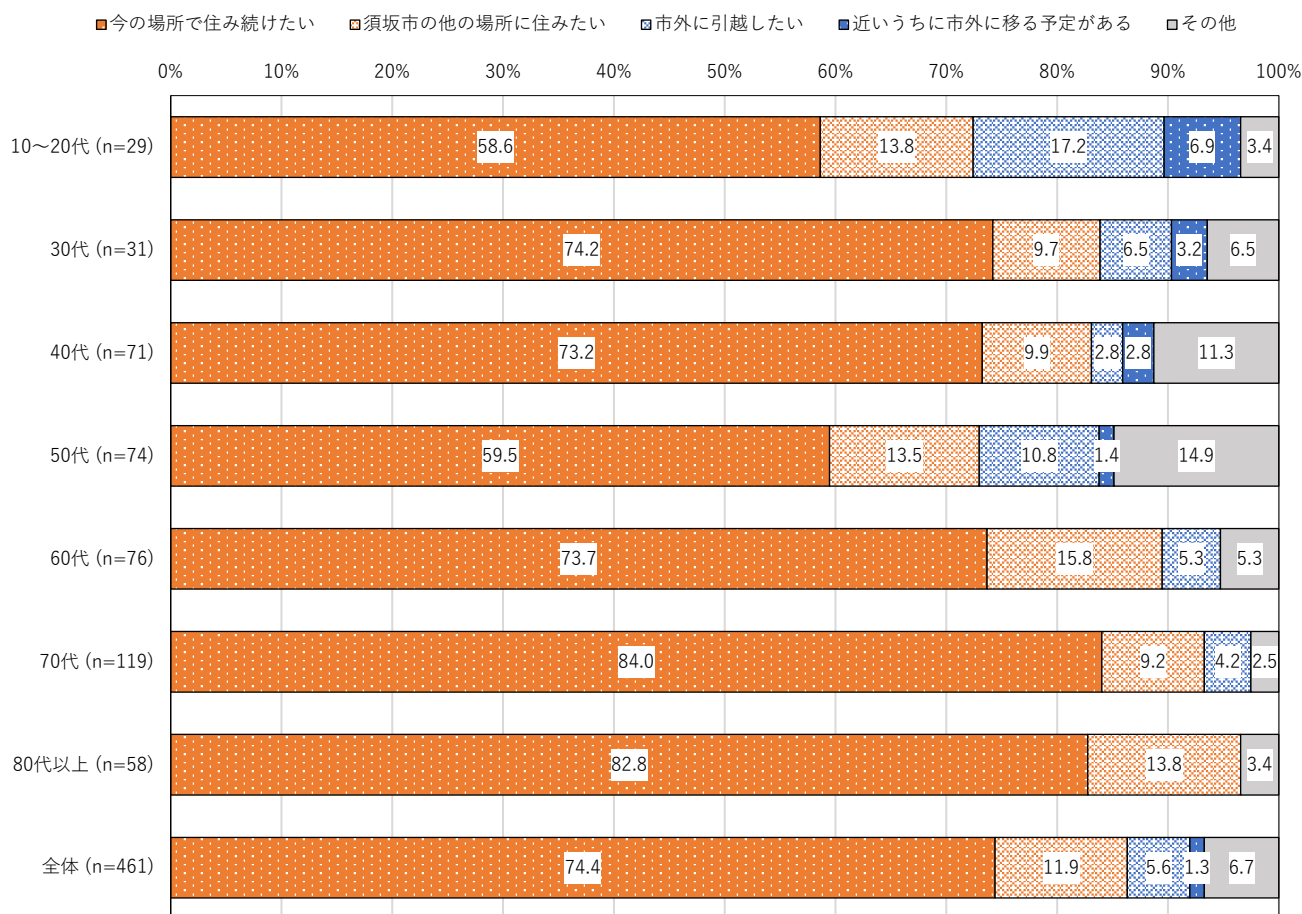
⑤ 須坂市に今後も住みたいと思うか

図表 88 須坂市に今後も住みたいと思うか

	度数	割合
今の場所で住みたい	343	74.4
須坂市の他の場所に住みたい	55	11.9
市外に引越したい	26	5.6
近いうちに市外に移る予定がある	6	1.3
その他	31	6.7
合計	461	100.0

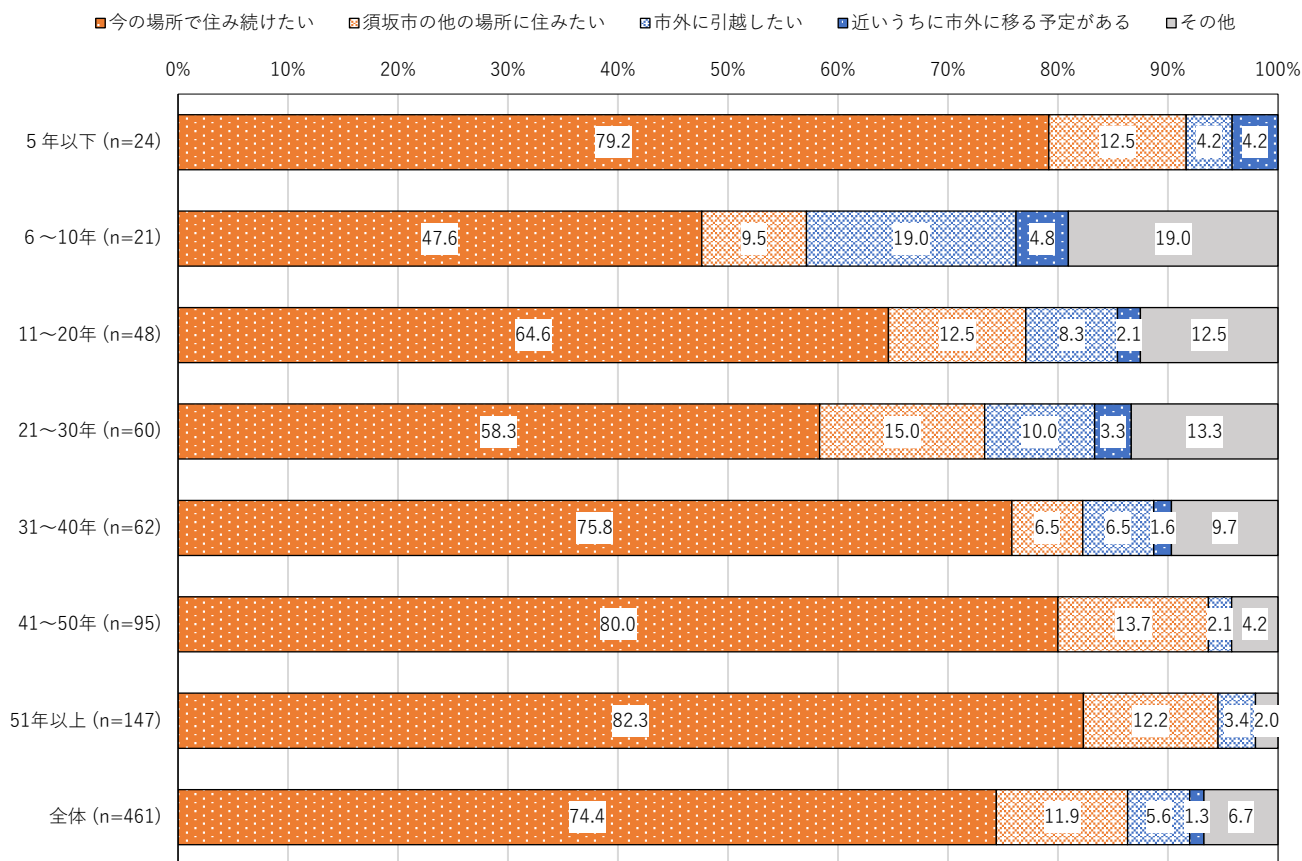


図表 89 回答者の年齢×須坂市に今後も住みたいと思うか

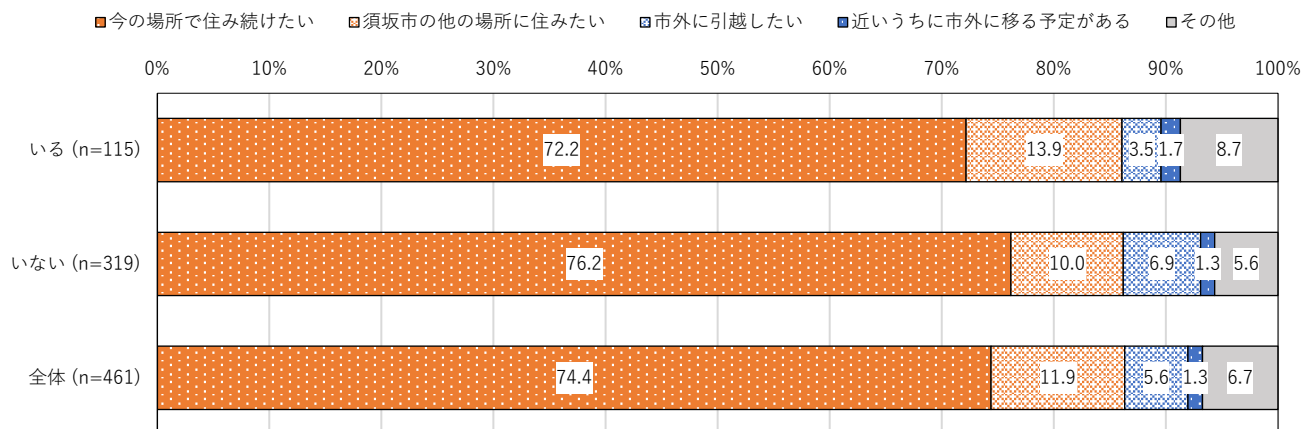


- 回答者の居住年数別に「須坂市に今後も住みたいと思うか」を見ると、「今の場所で住みたい」と回答した人の割合が、居住年数6年～30年が他の居住年数と比べて低い傾向にあります。
- 18歳未満の子どもの有無別に「須坂市に今後も住みたいと思うか」を見ると、「今の場所で住みたい」と回答した人の割合は、18歳未満の子どものいる家庭の方が少なくなっています。

図表 90 回答者の居住年数×須坂市に今後も住みたいと思うか



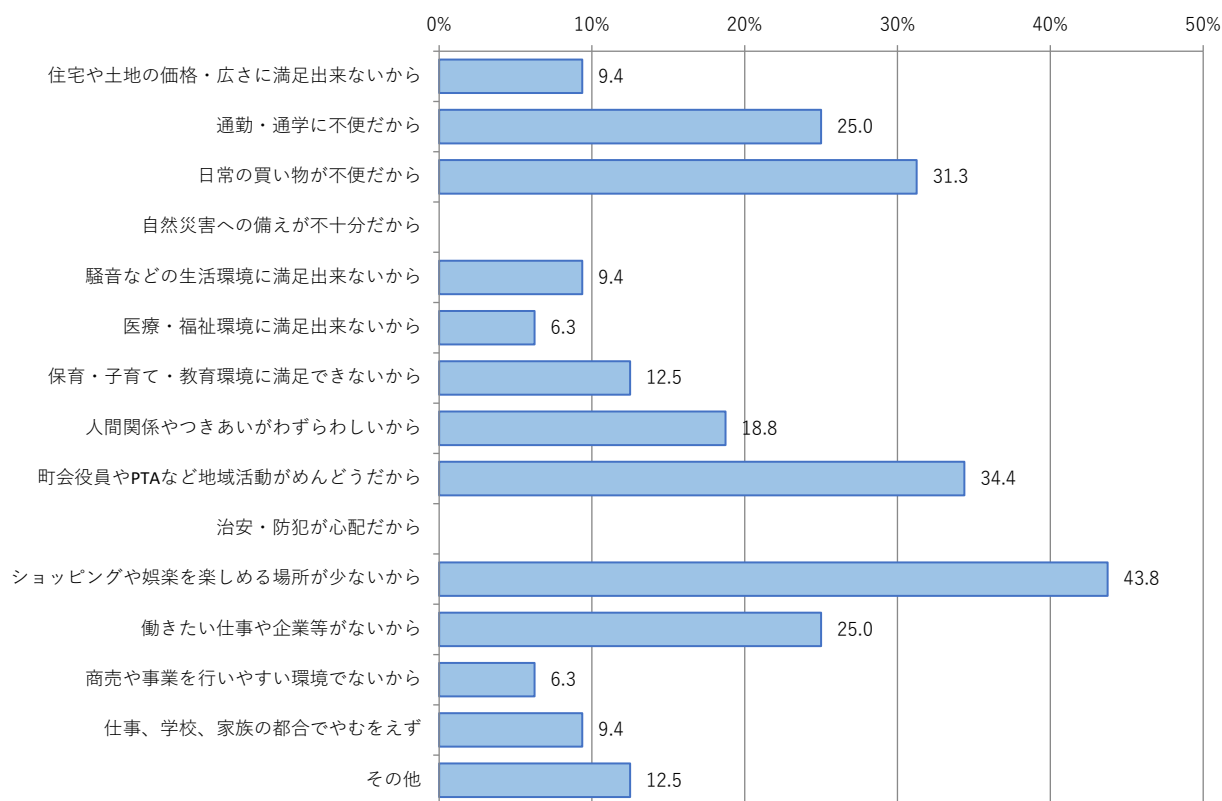
図表 91 18歳未満の子どもの有無×須坂市に今後も住みたいと思うか



- 「市外に引っ越したい」「近いうちに市外に移る予定がある」と回答した 32 名にその理由をお聞きしました。須坂市外に引っ越したいと考えている理由を見ると、「ショッピングや娯楽を楽しめる場所が少ないから」「町会役員やPTAなど地域活動がめんどうだから」「日常の買い物が不便だから」「通勤・通学に不便だから」「働きたい仕事や企業等がないから」等が多くなっています。

⑥ 須坂市外に引っ越したいと考えている理由

図表 92 須坂市外に引っ越したいと考えている理由【複数回答】

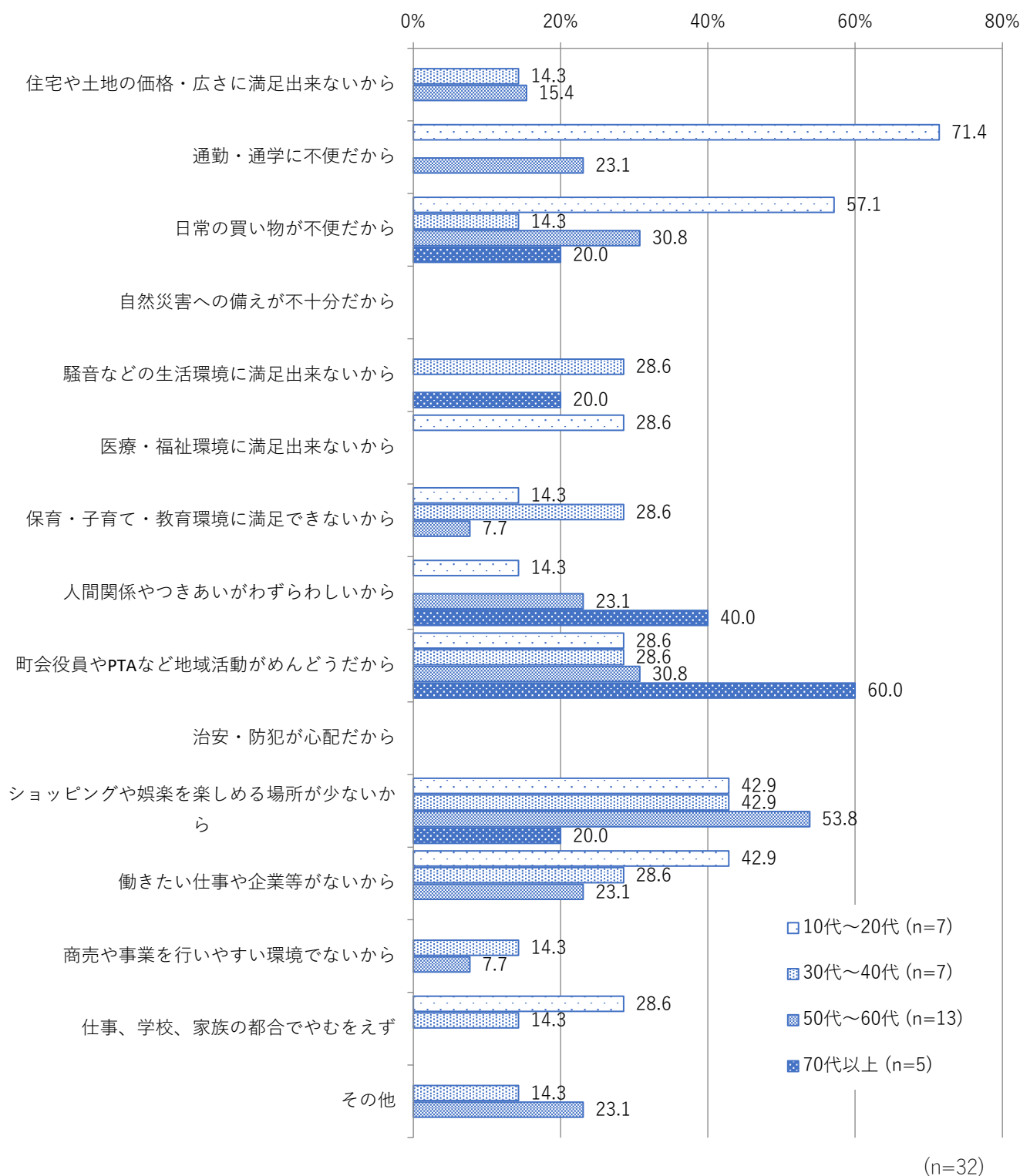


(n=32)

	度数	割合
住宅や土地の価格・広さに満足出来ないから	3	9.4
通勤・通学に不便だから	8	25.0
日常の買い物が不便だから	10	31.3
自然災害への備えが不十分だから	0	0.0
騒音などの生活環境に満足出来ないから	3	9.4
医療・福祉環境に満足出来ないから	2	6.3
保育・子育て・教育環境に満足できないから	4	12.5
人間関係やつきあいがわずらわしいから	6	18.8
町会役員やPTAなど地域活動がめんどうだから	11	34.4
治安・防犯が心配だから	0	0.0
ショッピングや娯楽を楽しめる場所が少ないから	14	43.8
働きたい仕事や企業等がないから	8	25.0
商売や事業を行いやすい環境でないから	2	6.3
仕事、学校、家族の都合でやむをえず	3	9.4
その他	4	12.5
回答者数	32	

- 回答者の年代別に須坂市外に引っ越したいと考えている理由を見ると、10代～20代では、「通学・通勤に不便だから」(71.4%)、30代～40代では、「ショッピングや娯楽を楽しめる場所が少ないから」(42.9%)、50代～60代では、「ショッピングや娯楽を楽しめる場所が少ないから」(53.8%)、70代以上では、「町会役員やPTAなど地域活動がめんどうだから」(60.0%)が、それぞれ最も高くなっています。

図表 93 回答者の年代×須坂市外に引っ越したいと考えている理由

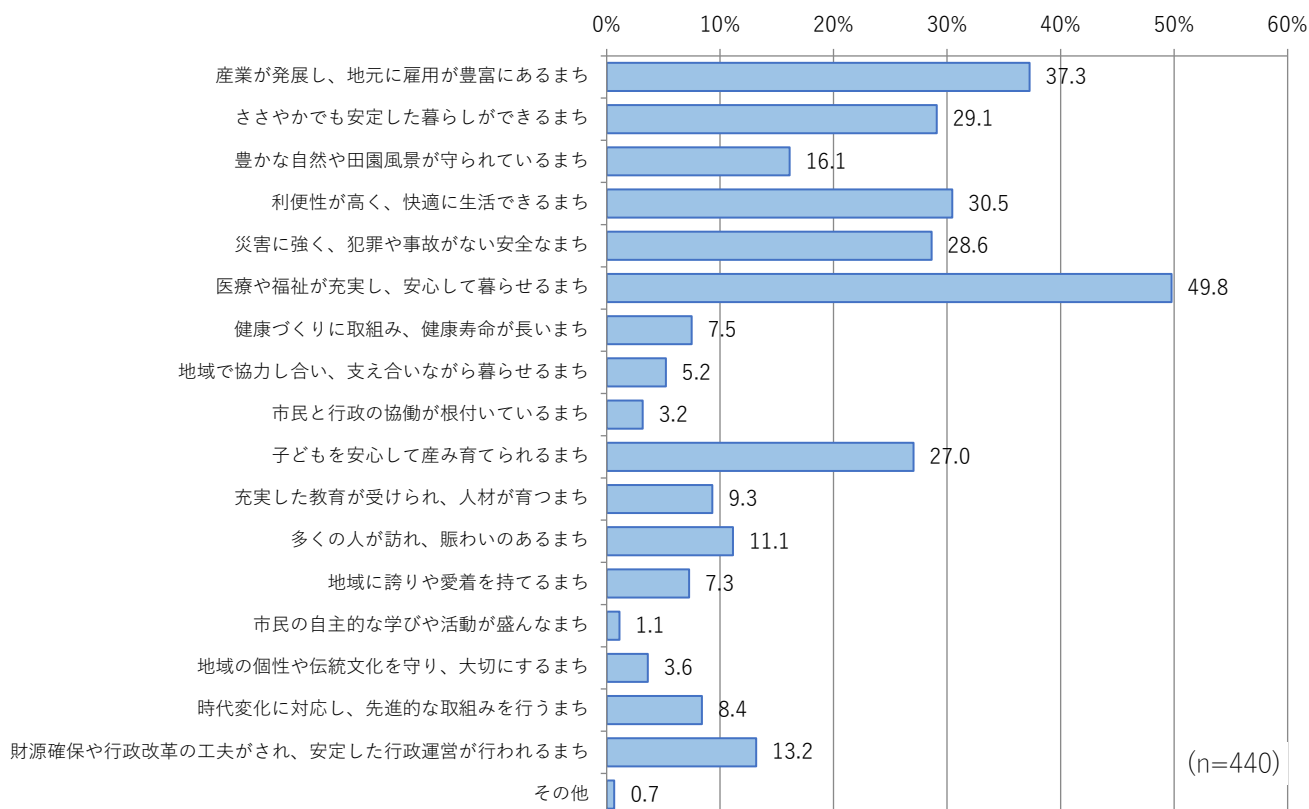


(5) 須坂市の将来都市像

- 2030 年に向けて須坂市にどのようなまちになってほしいと思うかを見ると、「医療や福祉が充実し、安心して暮らせるまち」(49.8%) が最も多く、次いで「産業が発展し、地元で雇用が豊富にあるまち」(37.3%)の順となっています。

① 2030 年に向けて須坂市にどのようなまちになってほしいと思うか

図表 94 2030 年に向けて須坂市にどのようなまちになってほしいと思うか【3 つまでの複数回答】



	度数	割合
産業が発展し、地元で雇用が豊富にあるまち	164	37.3
ささやかでも安定した暮らしができるまち	128	29.1
豊かな自然や田園風景が守られているまち	71	16.1
利便性が高く、快適に生活できるまち	134	30.5
災害に強く、犯罪や事故がない安全なまち	126	28.6
医療や福祉が充実し、安心して暮らせるまち	219	49.8
健康づくりに取り組み、健康寿命が長いまち	33	7.5
地域で協力し合い、支え合いながら暮らせるまち	23	5.2
市民と行政の協働が根付いているまち	14	3.2
子どもを安心して産み育てられるまち	119	27.0
充実した教育が受けられ、人材が育つまち	41	9.3
多くの人が訪れ、賑わいのあるまち	49	11.1
地域に誇りや愛着を持てるまち	32	7.3
市民の自主的な学びや活動が盛んなまち	5	1.1
地域の個性や伝統文化を守り、大切にするまち	16	3.6
時代変化に対応し、先進的な取り組みを行うまち	37	8.4
財源確保や行政改革の工夫がされ、安定した行政運営が行われるまち	58	13.2
その他	3	0.7
回答者数	440	

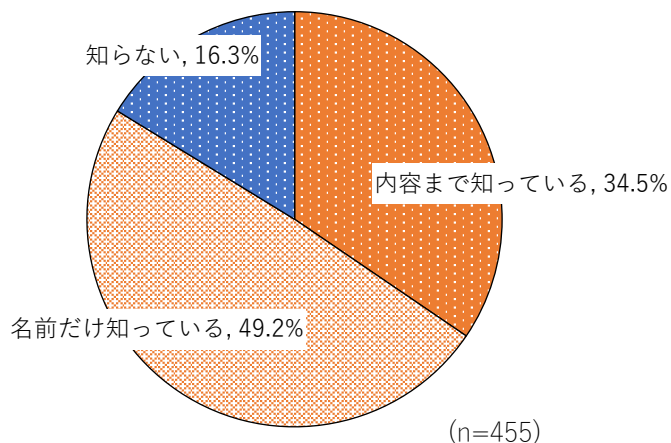
(6) これからのまちづくりの考え方

- SDGs の認知度を見ると、「名前だけ知っている」(49.2%)が最も多く、次いで「内容まで知っている」(34.5%)の順となっています。
- 回答者の年代別に SDGs の認知度を見ると、年齢が若くなるほど SDGs の認知度が高くなる傾向があります。

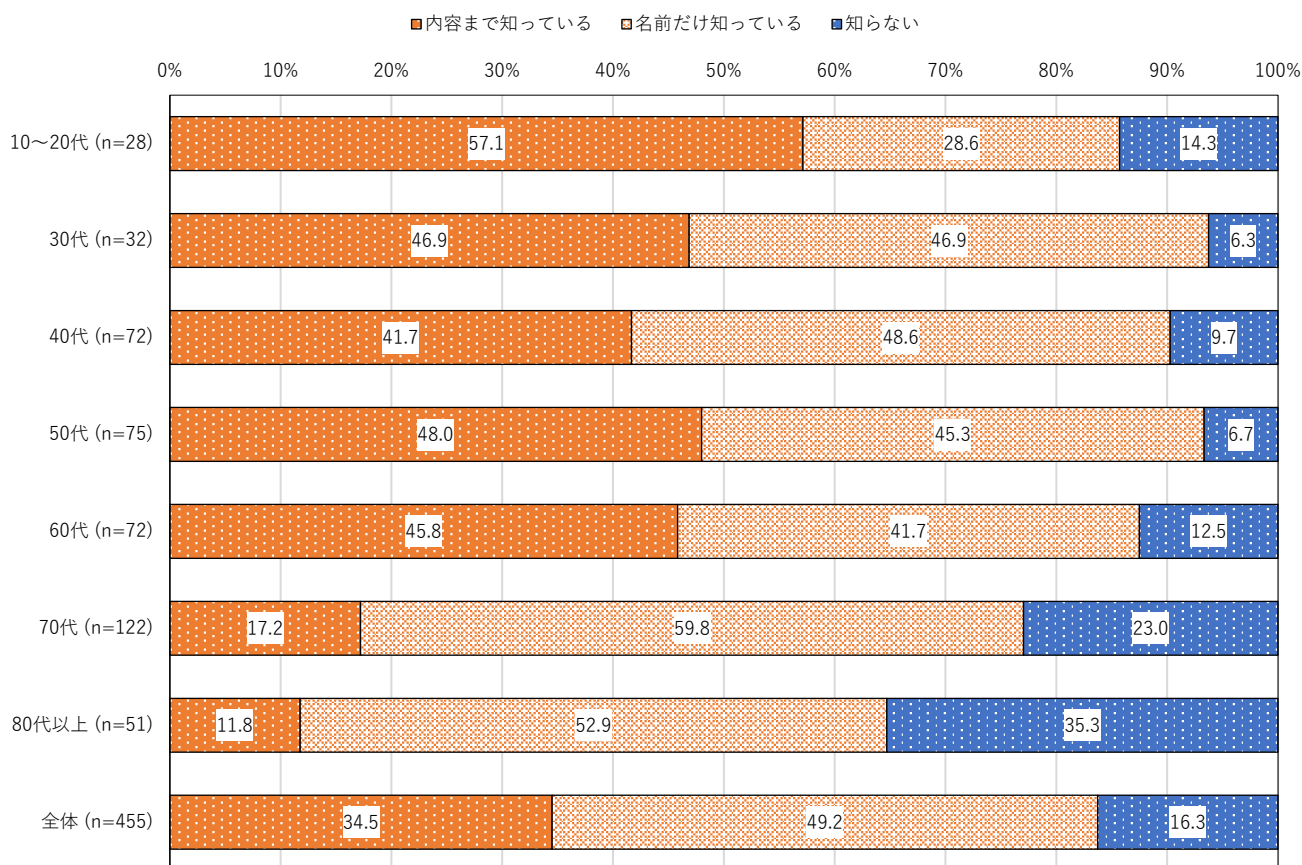
① SDGs の認知度

図表 95 SDGs の認知度

	度数	割合
内容まで知っている	157	34.5
名前だけ知っている	224	49.2
知らない	74	16.3
合計	455	100.0



図表 96 回答者の年齢×SDGs の認知度

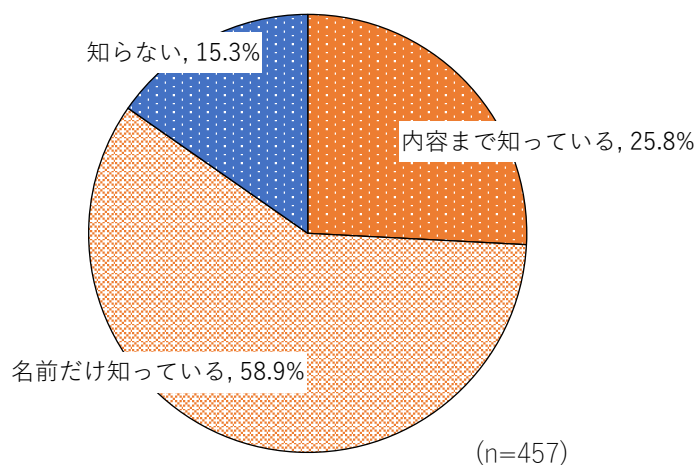


- カーボンニュートラルの認知度を見ると、「名前だけは知っている」が最も多く、約6割を占めています。
- 回答者の年代別にカーボンニュートラルの認知度を見ると、「知らない」と回答した人の割合は、30代～60代が他の年代と比べて低い結果になっています。

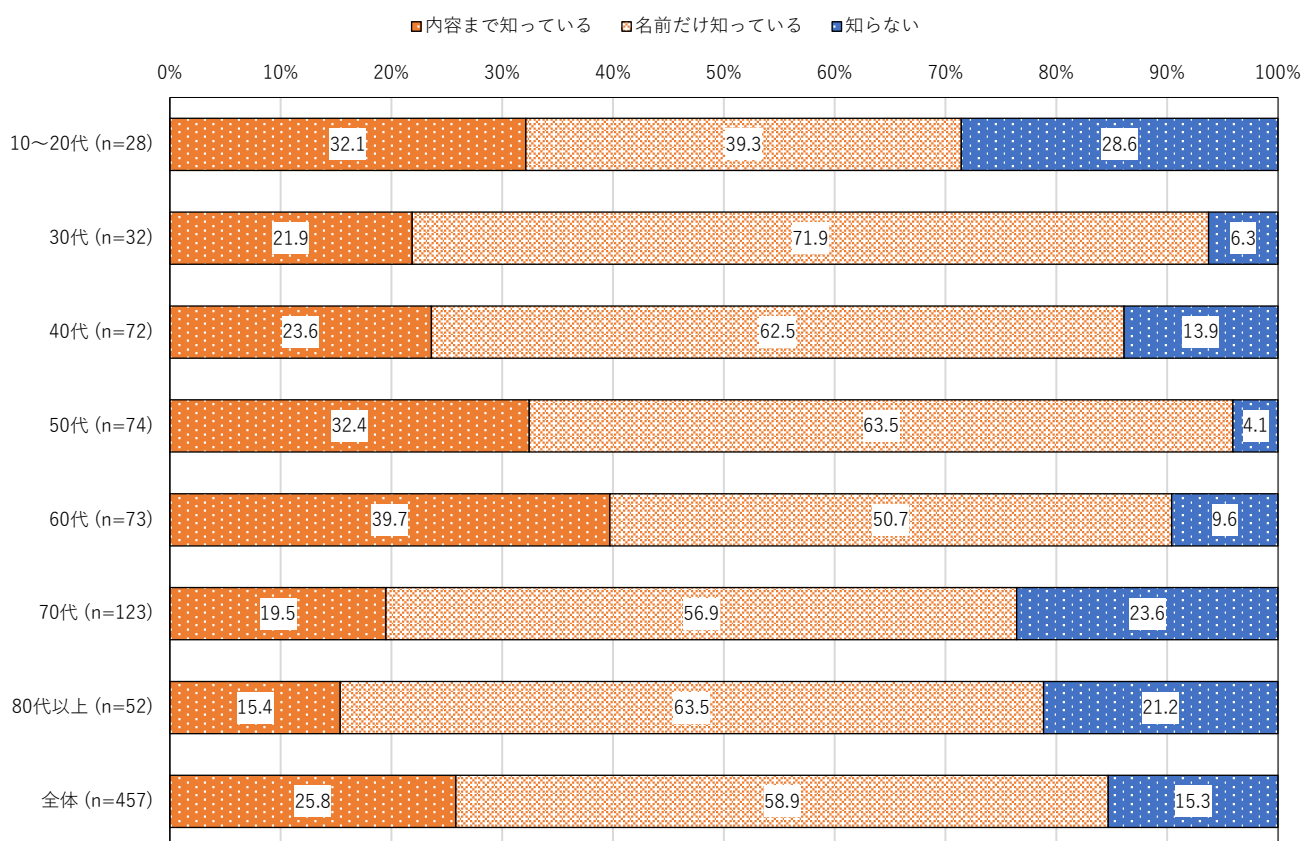
② カーボンニュートラルの認知度

図表 97 カーボンニュートラルの認知度

	度数	割合
内容まで知っている	118	25.8
名前だけ知っている	269	58.9
知らない	70	15.3
合計	457	100.0



図表 98 回答者の年齢×カーボンニュートラルの認知度

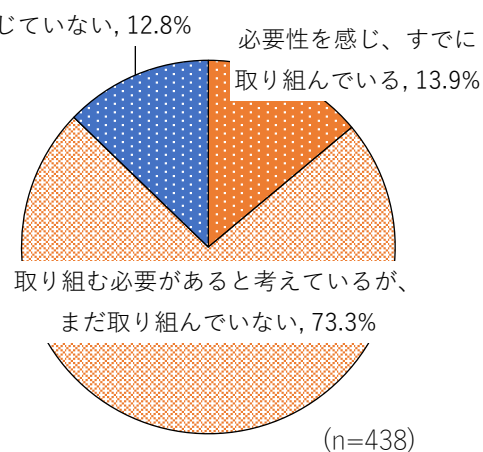


- カーボンニュートラルに取り組む必要性を見ると、「取り組む必要があると考えているが、まだ取り組んでいない」が最も多く、7割以上を占める結果になりました。
- 回答者の年代別にカーボンニュートラルに取り組む必要性を見ると、「必要性を感じ、すでに取り組んでいる」と回答した人の割合は、10～20代（25.0%）で最も多く、次いで60代（18.1%）の順となっています。一方で、必要性を感じていないと回答した世代は30代（22.6%）が最も多くなっています。

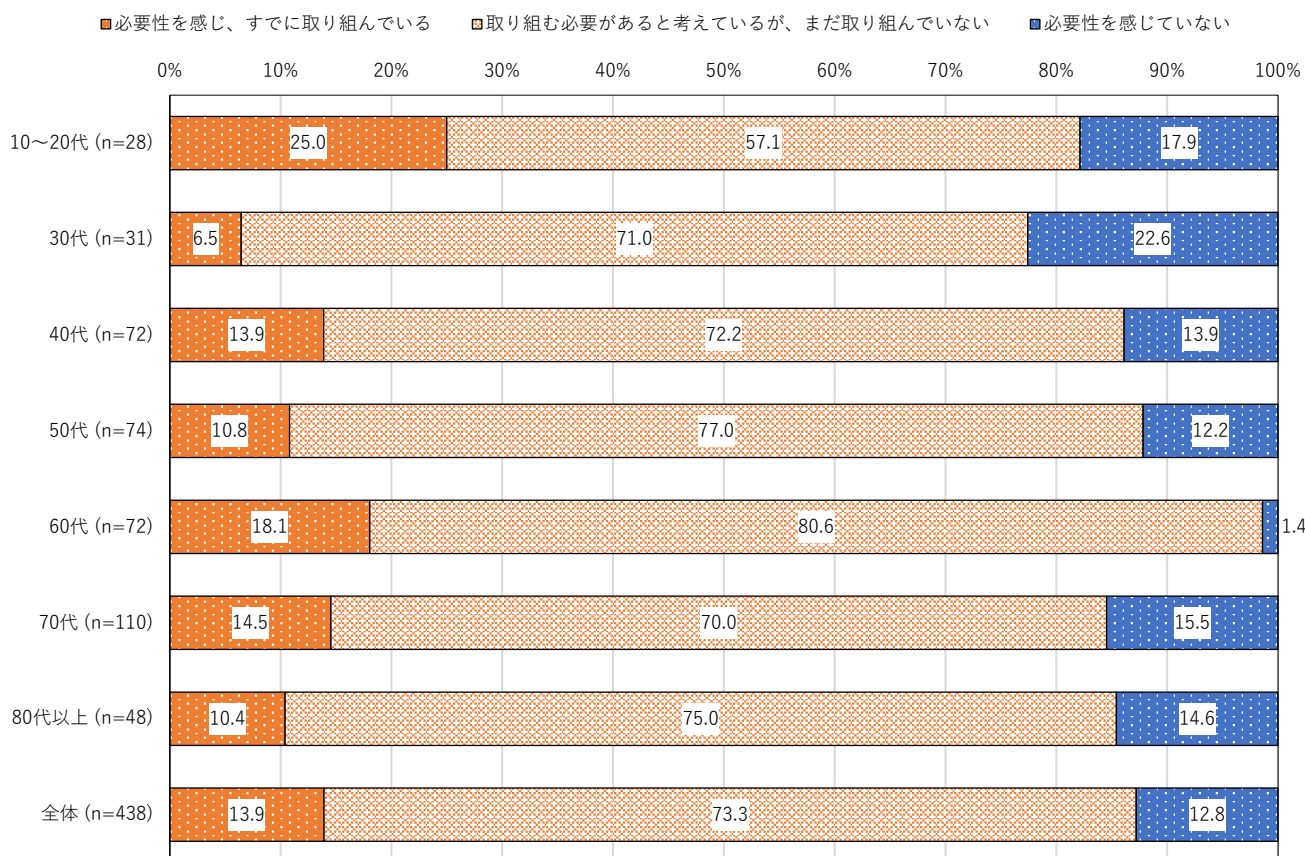
③ カーボンニュートラルに取り組む必要性

図表 99 カーボンニュートラルに取り組む必要性

	度数	割合
必要性を感じ、すでに取り組んでいる	61	13.9
取り組む必要があると考えているが、まだ取り組んでいない	321	73.3
必要性を感じていない	56	12.8
合計	438	100.0



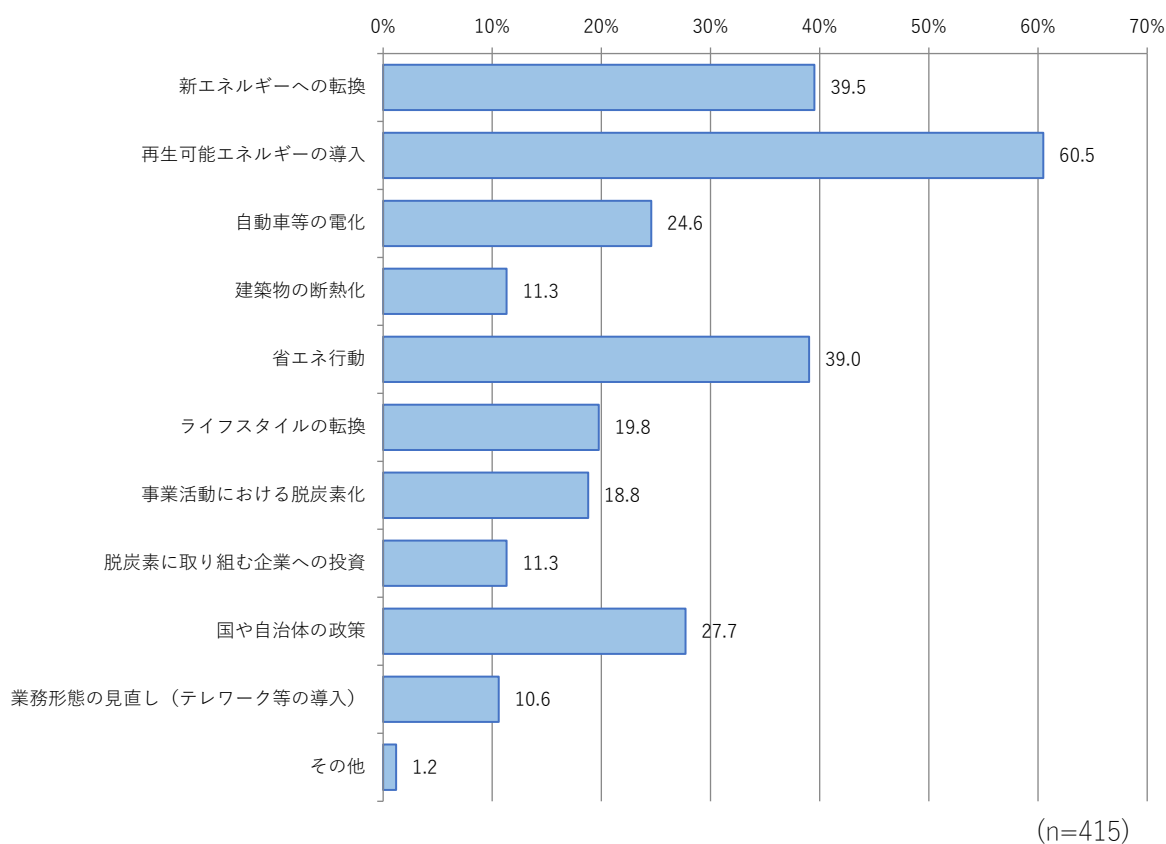
図表 100 回答者の年齢×カーボンニュートラルに取り組む必要性



- カーボンニュートラルに貢献すると考える取組みを見ると、「再生可能エネルギーの導入」(60.5%)が最も多く、次いで「新エネルギーへの転換」(39.5%)、「省エネ行動」(39.0%)の順となっています。

④ カーボンニュートラルに貢献すると考える取組み

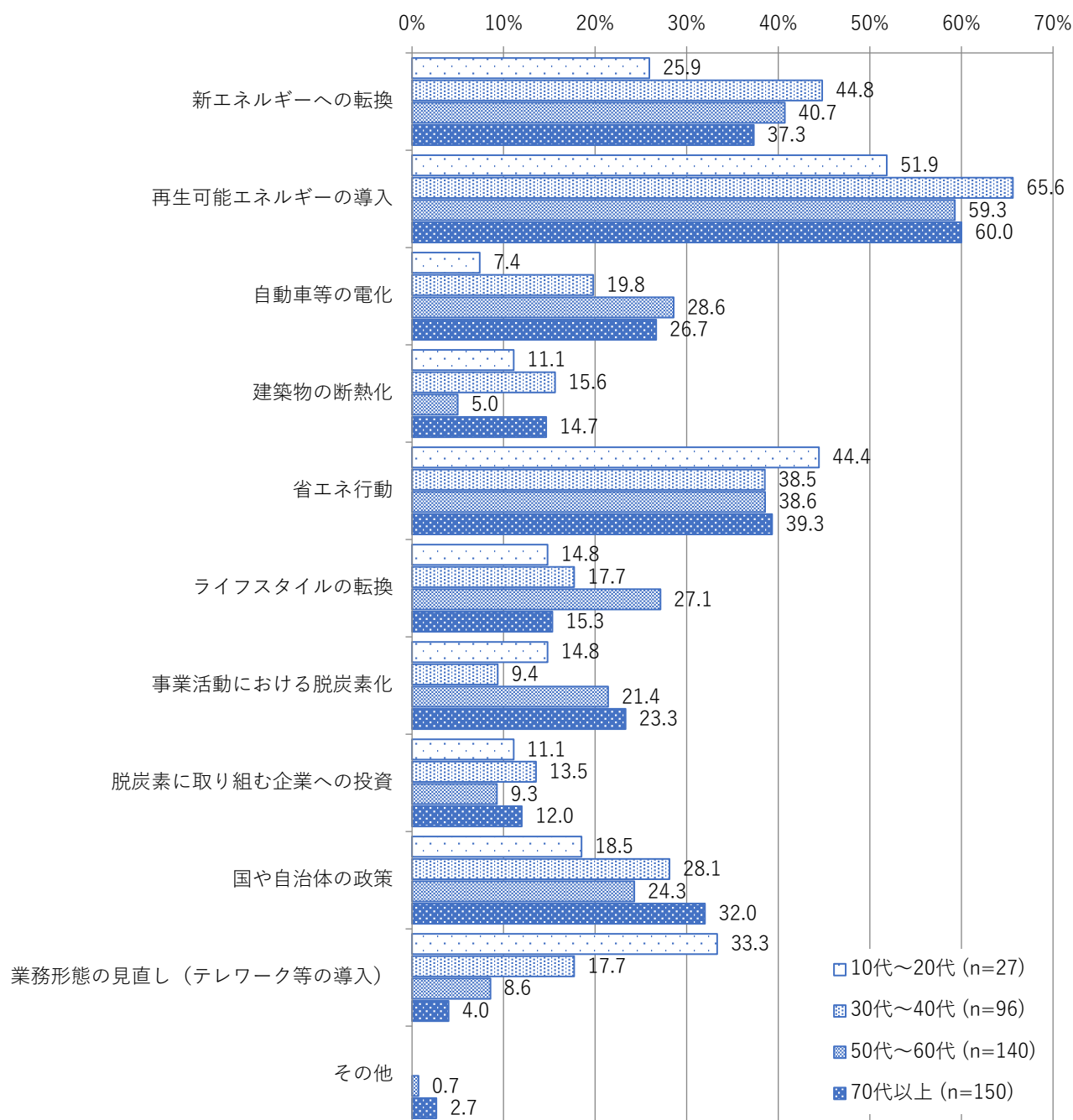
図表 101 カーボンニュートラルに貢献すると考える取組み【3つまでの複数回答】



	度数	割合
新エネルギーへの転換	164	39.5
再生可能エネルギーの導入	251	60.5
自動車等の電化	102	24.6
建築物の断熱化	47	11.3
省エネ行動	162	39.0
ライフスタイルの転換	82	19.8
事業活動における脱炭素化	78	18.8
脱炭素に取り組む企業への投資	47	11.3
国や自治体の政策	115	27.7
業務形態の見直し（テレワーク等の導入）	44	10.6
その他	5	1.2
回答者数	415	

- 回答者の年代別にカーボンニュートラルに貢献すると考える取組みを見ると、各年代とも、再生可能エネルギーの導入が最も多くなっています。特に 30 代以上は再生可能エネルギーへの関心が高く、今後の取組みに期待が寄せられています。

図表 102 回答者の年齢×カーボンニュートラルに貢献すると考える取組み



(n=415)

(7) 公共施設・公共交通の利用について

- 過去1年の公共施設の利用状況の利用頻度を見ると、「利用しない」と回答した人の割合は、温泉施設以外で6割以上を占める結果となっています。「年に数回利用」と回答した人の割合は、温泉施設(45.5%)が最も多く、次いで文化施設(ホール)(34.5%)の順となっています。
- 過去1年の公共施設の利用状況の利用が少ない理由を見ると、「利用する機会(必要)が無い・年に数回で十分」と回答した人の割合は、全ての公共施設で6割以上を占める結果となっています。「コロナ禍により自粛していた」と回答した人の割合は、温泉施設(24.3%)が最も多く、「施設の存在を知らない」と回答した人の割合は、産業系施設(10.2%)が最も多くなっています。

① 過去1年の公共施設の利用状況

図表 103 過去1年の公共施設の利用状況

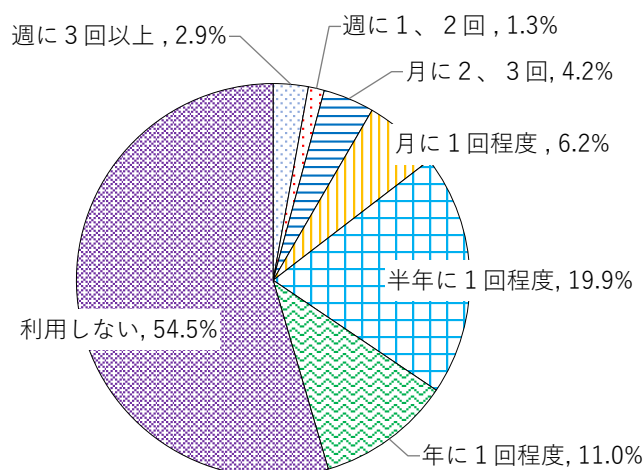
施設分類	施設名	利用頻度					利用が少ない理由						
		標 本 数	週 に 1 回 以 上	月 に 1 回 以 上	年 に 数 回 程 度	利 用 し な い	標 本 数	無 い ・ 利 用 す る 機 会 （ 必 要 ） が 十 分	知 ら な い 施 設 が 利 用 で き る こ と を	施 設 の 存 在 を 知 ら な い	い た コ ロ ナ 禍 に よ り 自 粛 し て	い ・ 施 設 が 不 満 ・ 使 い づ ら	
1 集会・会議施設	臥竜山公会堂、シルキーホール、勤労者研修センター、創造の家、観光交流センター2F、bota等	448	1.8%	5.8%	25.4%	67.0%	397	77.6%	7.3%	5.5%	11.6%	6.8%	
2 公民館	地域公民館、旭ヶ丘ふれあいプラザ、仁礼コミュニティセンター等	448	3.8%	8.9%	23.0%	64.3%	377	78.8%	6.9%	5.3%	10.1%	4.0%	
3 文化施設（展示）	市立博物館、笠鉾会館、版画美術館、人形博物館等	449	0.7%	0.7%	22.0%	76.6%	422	74.9%	3.8%	3.6%	14.0%	10.2%	
4 文化施設（ホール）	メセナホール	447	0.7%	0.7%	34.5%	64.2%	420	84.8%	2.1%	1.2%	11.9%	3.1%	
5 文化施設（歴史的建造物）	旧小田切家、旧越家、クラシック、まゆぐら、旧上高井郡役所等	445	0.9%	2.2%	11.9%	84.9%	412	80.1%	2.2%	3.4%	8.3%	9.5%	
6 図書館	市立須坂図書館	448	2.5%	8.0%	18.3%	71.2%	381	78.7%	1.6%	1.3%	12.1%	9.2%	
7 温泉施設	湯っ蔵んど	448	4.0%	9.2%	45.5%	41.3%	371	69.0%	0.3%	0.8%	24.3%	8.6%	
8 スポーツ施設（屋外）	県民・北部グラウンド、市営球場、庭球場、マレットゴルフ場等	447	4.5%	3.6%	11.6%	80.3%	393	87.3%	2.3%	2.0%	6.9%	3.1%	
9 スポーツ施設（屋内）	市民・北部体育館、柔道・剣道・卓球場、屋内ゲートボール場等	444	3.6%	2.5%	9.0%	84.9%	397	86.6%	3.0%	2.5%	6.0%	3.5%	
10 学校施設（スポーツ・イベント利用等）	小中学校、体育館・校庭の一般開放等	445	2.0%	3.1%	9.0%	85.8%	404	83.7%	5.7%	3.0%	5.9%	3.2%	
11 産業系施設	技術情報センター、やまじゅう等	442	0.7%	0.7%	4.1%	94.6%	421	77.9%	5.5%	10.2%	4.8%	5.2%	

- 公共交通の利用状況を見ると、「利用しない」が最も多く、半数以上を占めています。
- 回答者の年代別に公共交通の利用状況を見ると、「利用しない」と回答した人の割合は、30代～50代は、60代～70代と比べ少ない結果となっており、その内訳としては週3回以上の利用、年に1回程度の利用において差が生じています。

② 公共交通の利用状況

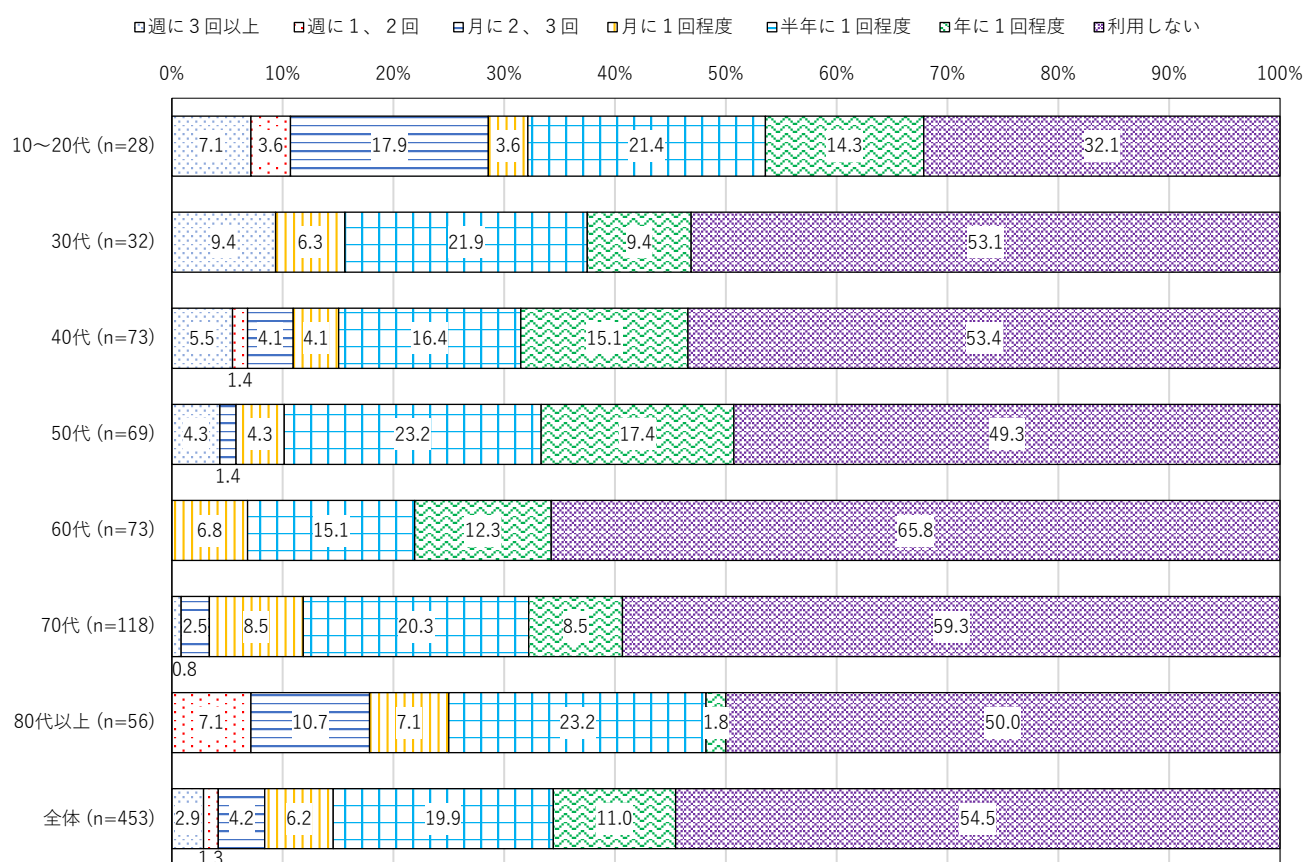
図表 104 公共交通の利用状況

	度数	割合
週に3回以上	13	2.9
週に1、2回	6	1.3
月に2、3回	19	4.2
月に1回程度	28	6.2
半年に1回程度	90	19.9
年に1回程度	50	11.0
利用しない	247	54.5
合計	453	100.0



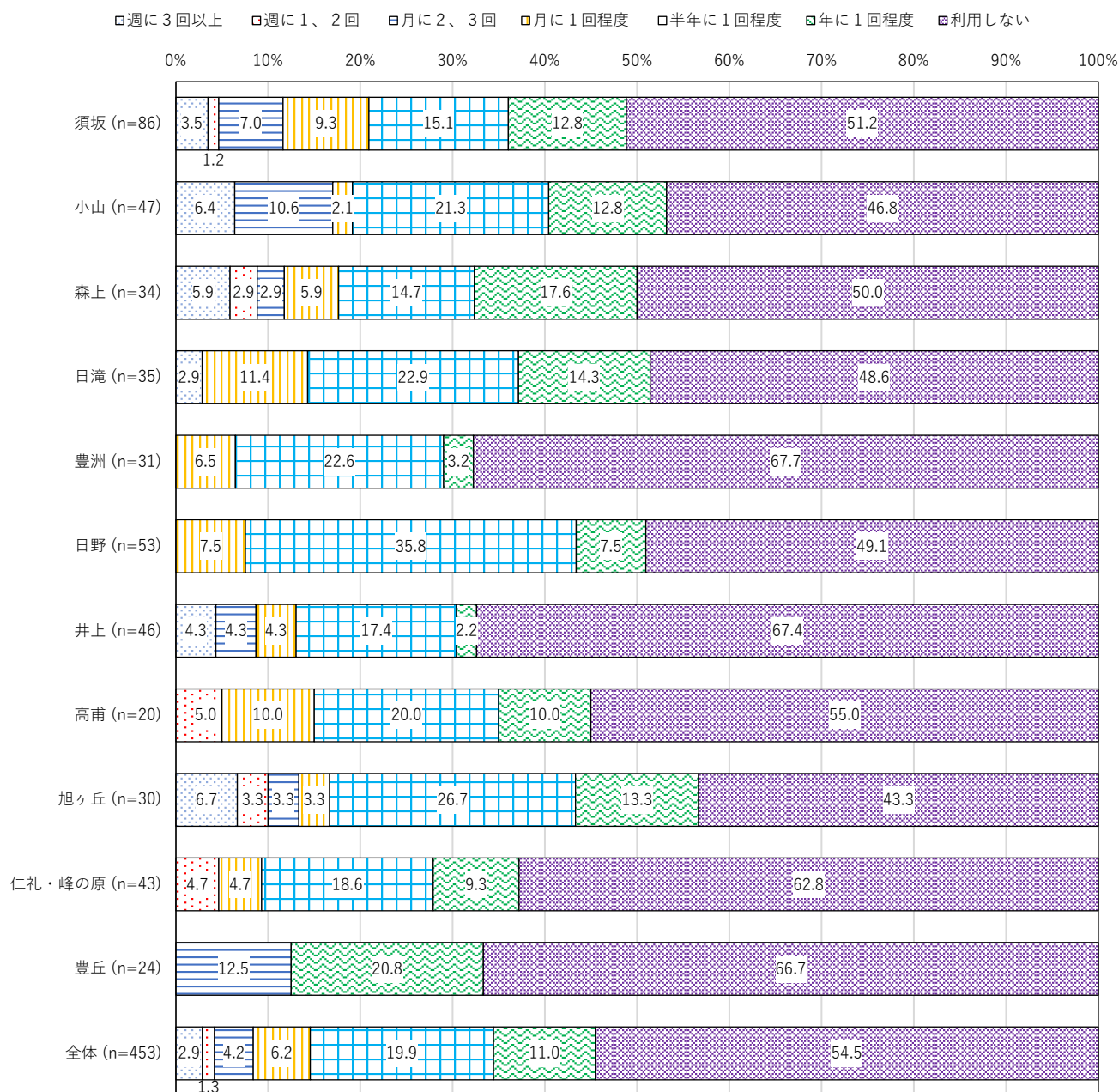
(n=453)

図表 105 回答者の年齢×公共交通の利用状況



③ 回答者の居住地区別に公共交通の利用状況を見ると、「利用しない」と回答した人の割合は、豊洲（67.7%）が最も多く、次いで井上（67.4%）、豊丘（66.7%）の順となっています。

図表 106 回答者の居住地区×公共交通の利用状況



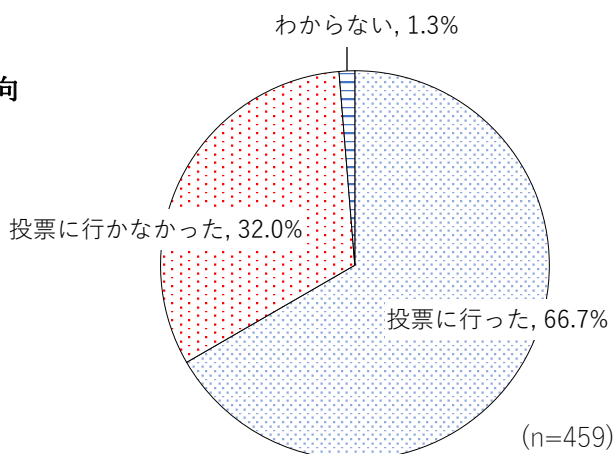
(8) 選挙に対する意識

- 令和5年2月5日に行われた須坂市議会議員一般選挙での投票動向を見ると、「投票に行った」が最も多く7割近くを占めていることから、選挙への関心の高さが伺えます。
- 回答者の年代別に投票動向を見ると、「投票に行った」と回答した人の割合は、60代以上は7割を占めている一方、10～30代は5割程度にとどまっていることから、若年層の投票率向上が求められています。

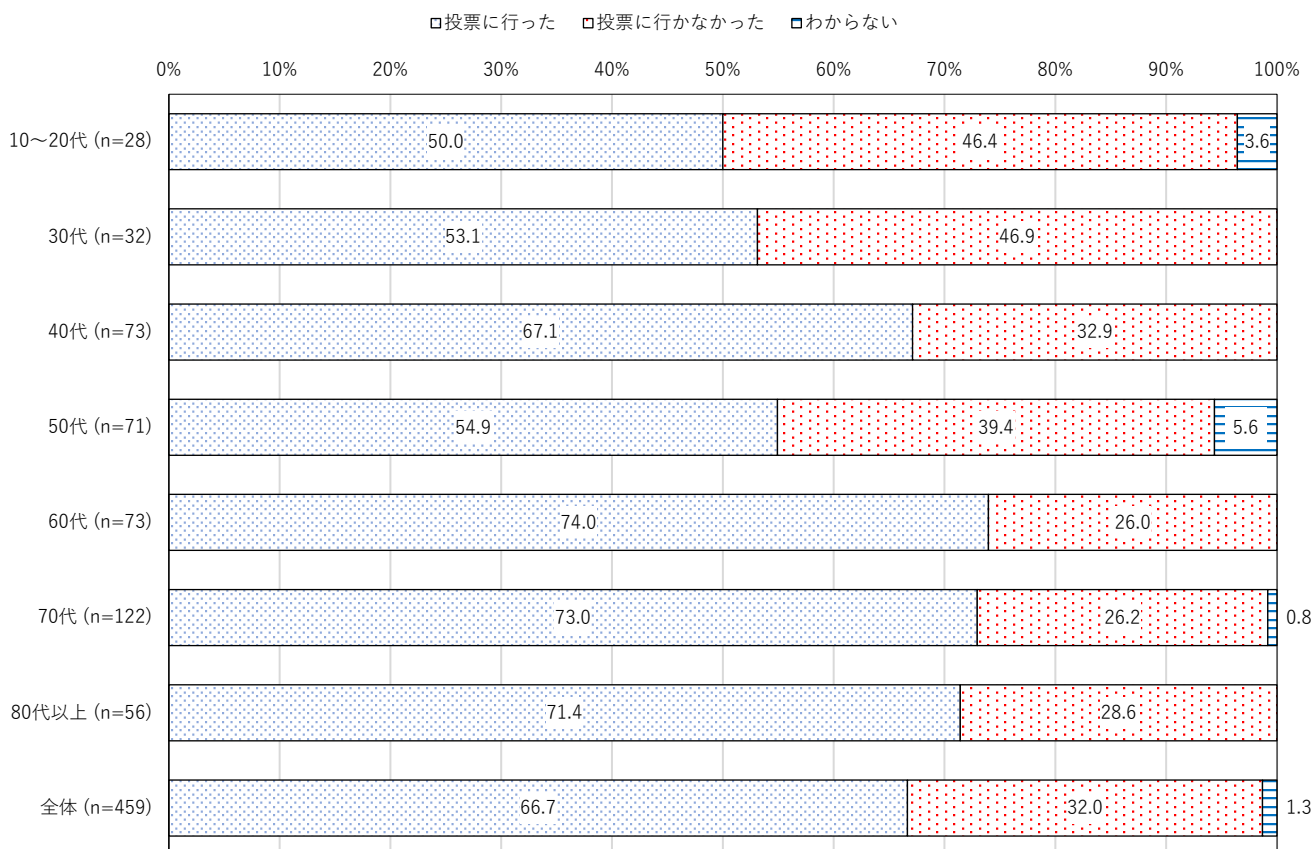
① 須坂市議会議員一般選挙での投票動向

図表 107 須坂市議会議員一般選挙での投票動向

	度数	割合
投票に行った	306	66.7
投票に行かなかった	147	32.0
わからない	6	1.3
合計	459	100.0

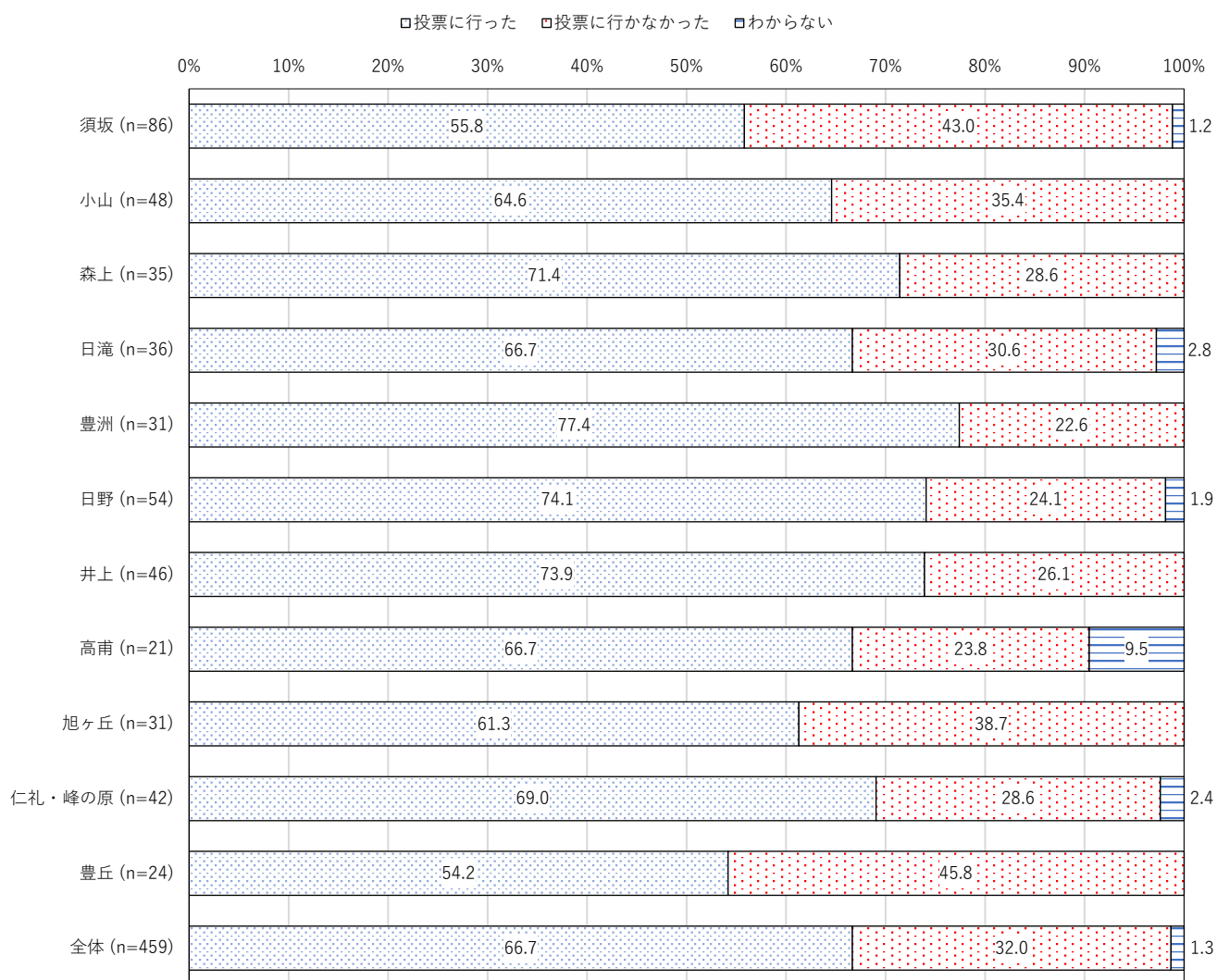


図表 108 回答者の年齢×投票動向



- 回答者の居住地区別に投票動向を見ると、「投票に行った」と回答した人の割合は、全ての居住地区で半数以上を占める結果となっています。

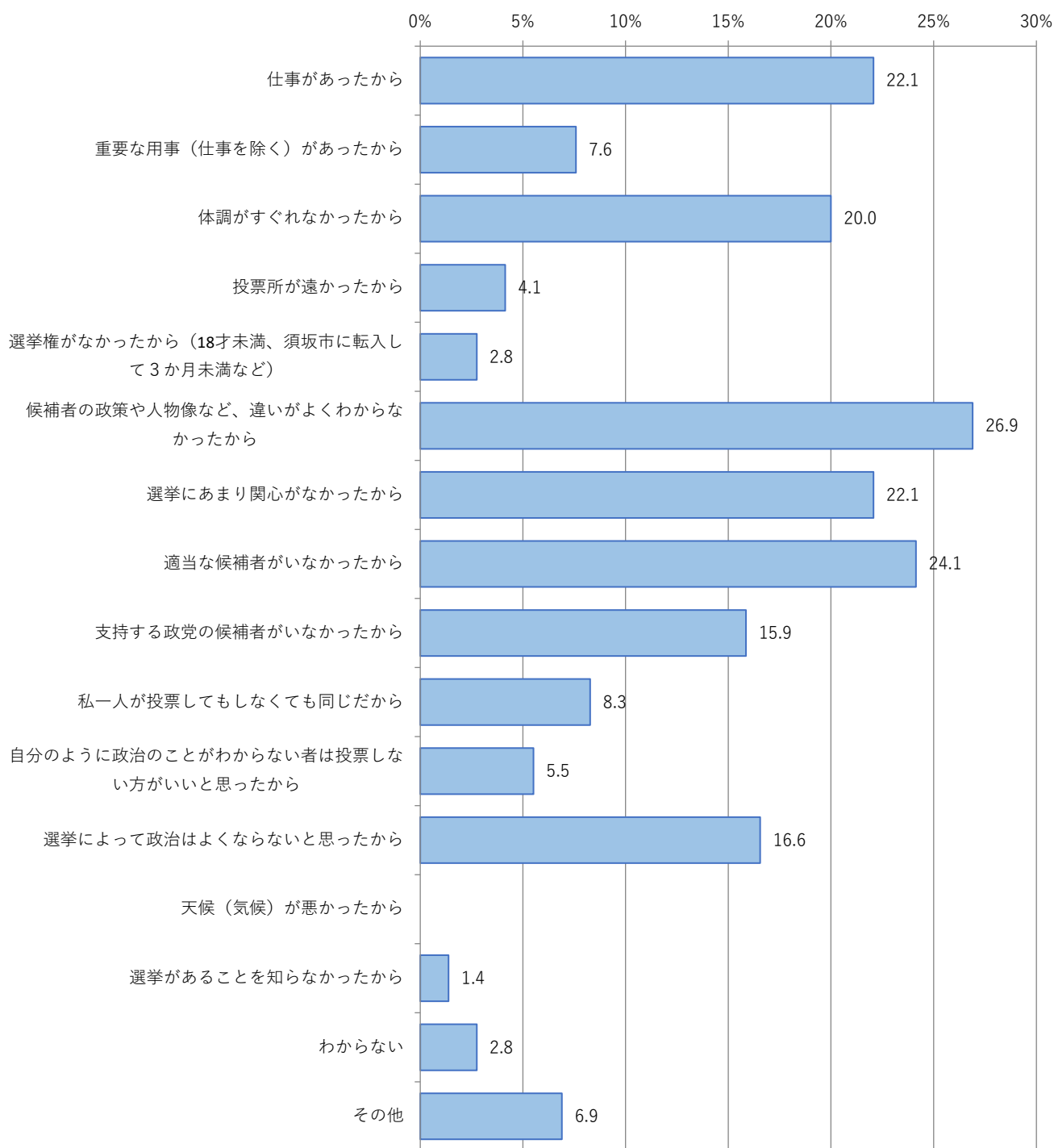
図表 109 回答者の居住地区×投票動向



- 「投票に行かなかった」と回答した 145 名にその理由をお聞きしました。投票に行かなかった理由を見ると、「候補者の政策や人物像など、違いがよくわからなかったから」(26.9%)、「適当な候補者がいなかったから」(24.1%)、「仕事があったから」(22.1%)、「選挙にあまり関心がなかったから」(22.1%)、「体調がすぐれなかったから」(20.0%)などの理由があげられました。

② 投票に行かなかった理由

図表 110 投票に行かなかった理由



(n=145)

2023 年度 須坂市市民総合意識調査 ご協力をお願い

市民の皆様には、日頃から市政運営についてご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、本市では「第六次須坂市総合計画前期基本計画」が策定され2年が経過することから、施策に対する満足度や重要度などについて市民の皆さまにご意見をお伺いし、今後の市政運営に役立てるため、アンケート調査を実施します。

調査にあたり同封の冊子にて、須坂市を取り巻く環境変化や未来予測をまとめています。これらの情報も参考にいただきながら、市民の皆さまにも市の望ましい未来を考えていただくとともに、少子高齢化等による今後の厳しい財政状況のなか、どのような施策を優先的に進めるべきかについて、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

アンケートは、市内にお住まいの18歳以上（2023年4月1日時点）の方の中から1,000人を無作為に抽出させていただき、ご協力をお願いいたしました。お忙しいところ誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

2023年6月

須坂市長

三木正夫

<ご記入にあたってのお願い>

- 本アンケートは無記名でお答えいただき、結果は統計的に処理いたしますので、個人が特定されたり、個人に関する情報が公表されることはありません。率直なご意見をお書きください。
- **必ず「宛名のご本人」様がお答えください。**なお、無作為抽出のため、ご病気等によりご回答いただけない方にも届いてしまう場合がございますので、その際はご容赦くださいますようお願いいたします。
- ご記入が終わりましたら、同封いたしました返信用封筒（切手不要）に入れ、**2023年7月3日(月)まで**にお近くのポストへ投函していただきますようお願い申し上げます。
- **アンケートはインターネットからも回答できます。**以下のURLにアクセスするか、二次元バーコードを読み込んでお答えください。**※インターネットで回答した場合は、この調査票を返送しないでください。**

回答画面 URL <https://onl.la/8VbA1zv>



《この調査のお問い合わせ先》

須坂市 総務部 政策推進課 政策秘書係

電話：026-248-9017（課専用） 電子メール：seisakusuishin@city.suzaka.nagano.jp

I あなたやご家族のことについて

問 1－1 あなたの性別をお答えください。(1つに○)

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. その他 |
|-------|-------|--------|

問 1－2 あなたの年齢をお答えください。(1つに○)

- | | | | |
|--------|--------|--------|----------|
| 1. 10代 | 2. 20代 | 3. 30代 | 4. 40代 |
| 5. 50代 | 6. 60代 | 7. 70代 | 8. 80代以上 |

問 1－3 お住いの地区（小学校通学区別）をお答えください(1つに○)

- | | | | |
|--------|------------|--------|-------|
| 1. 須坂 | 2. 小山 | 3. 森上 | 4. 日滝 |
| 5. 豊洲 | 6. 日野 | 7. 井上 | 8. 高甫 |
| 9. 旭ヶ丘 | 10. 仁礼・峰の原 | 11. 豊丘 | |

問 1－4 主に従事している職業等をお答えください。(1つに○)

- | | | |
|--------------------|--------------------|-------------|
| 1. 会社員 | 2. パート・アルバイト・契約社員等 | |
| 3. 自営業・経営者（農林業を除く） | 4. 農林業 | 5. 家事（内職含む） |
| 6. 公務員（教員含む） | 7. 団体職員 | 8. 学生 |
| 9. 無職 | | |
| 10. その他（ ） | | |

問 1－5 問 1－4 で「5. 家事（内職含む）」「8. 学生」「9. 無職」と回答した方以外
勤務地をお答えください。(1つに○)

- | | |
|------------------|--------|
| 1. 須坂市内 | 2. 長野市 |
| 3. その他県内市町村（市町村名 | ） |
| 4. 県外市町村（市町村名 | ） |

問 1－6 農地の所有状況（自己所有/家族所有）をお答えください。(1つに○)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 所有している | 2. 所有していない |
|-----------|------------|

問 1－7 須坂市での居住年数をお答えください。(1つに○)

※実際に生活した期間の合計年数をお答えください。

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 5年以下 | 2. 6～10年 | 3. 11～20年 | 4. 21～30年 |
| 5. 31～40年 | 6. 41～50年 | 7. 51年以上 | |

問 1－8 お住いの状況をお答えください。(1つに○)

- | | |
|-----------------|---------|
| 1. 持ち家（家族所有を含む） | 2. 公営住宅 |
| 3. 民営の賃貸住宅 | 4. 社宅・寮 |
| 5. その他（ ） | |

問 1－9 配偶者の有無についてお答えください。(1つに○)

- | | |
|-----------|----------------------|
| 1. 結婚している | 2. 結婚していない(死別・離婚を含む) |
|-----------|----------------------|

問 1－10 問 1－9で「1. 結婚している」と回答した方のみ

あなたと配偶者のお仕事(パート・アルバイト含む)の状況についてお答えください。(1つに○)

- | | |
|------------|------------------------|
| 1. 共働きである | 2. 共働きではない(夫婦どちらかのみ就労) |
| 3. 夫婦ともに無職 | |

問 1－11 同居しているご家族の構成についてお答えください。(1つに○)

- | | | |
|---------------|-----------|------------|
| 1. ひとり暮らし | 2. 夫婦だけ | 3. 親子(2世帯) |
| 4. 親と子と孫(3世帯) | 5. その他() | |

問 1－12 同居しているご家族の中に18歳未満の方はいらっしゃいますか。(1つに○)

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

問 1－13 問 1－12「1. いる」と回答した方のみ

同居している18歳未満のご家族の年齢をお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|---------|---------------------|--------|
| 1. 3歳未満 | 2. 3歳から小学校入学前 | 3. 小学生 |
| 4. 中学生 | 5. 高校生(高校生相当の年齢を含む) | |

問 1－14 同居しているご家族の中で、以下に当てはまる方(自身を含む)がいらっしゃる場合、あてはまる番号をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------|------------------|
| 1. 不登校となっている方 | 2. 75歳以上の方 |
| 3. 要介護認定を受けている方 | 4. 障がい者手帳を持っている方 |
| 5. 外出や家族以外との交流に困難を抱えている方 | |

問 1－15 ご家族(同居していない家族を含む。自身以外。)の中に、大学生以上の未婚の方はいらっしゃいますか。(1つに○)

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

問 1－16 問 1－15に「1. いる」と回答した方のみ

大学生以上で未婚のご家族のお住まいをお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------|---------|
| 1. 同居 | 2. 市内別居 |
| 3. 市外(県内)(市町村名) | |
| 4. 市外(県外)(市町村名) | |

Ⅱ 須坂市の施策に対する評価

問 2－1 現在の総合計画の中で掲げている以下の4つの重点プロジェクト（重要度が高く、特に集中して取り組む分野横断的なプロジェクト）について、この2年間、どのように変化していると思うかお答えください。（1つに〇）

重点プロジェクトの内容はカッコの中を参考にしてください。

		重点プロジェクトに対する評価				
		良くなっている	やや良くなっている	やや悪くなっている	悪くなっている	わからない
【記入例】 <u>1つに〇</u>		1	2	3	4	0
1	稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする (稼ぐ力の強い産業の創出と、魅力ある雇用機会の充実を図り、安定した暮らしができる環境を整備する)	1	2	3	4	0
2	須坂市への新しい人の流れをつくる (移住定住支援を定着・強化させるとともに、須坂長野東 IC 周辺の大規模開発等により、新たな交流人口の創出を図る)	1	2	3	4	0
3	結婚・出産・子育ての希望をかなえる (出産・子育てへの理解促進を図り、希望する数の子どもを産み育てられる環境を整備する)	1	2	3	4	0
4	ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる (防災体制の強化等を進めるとともに、健康づくりや防災・防犯などの地域活動に参加しやすく、互いに学び合える地域づくりを促進する)	1	2	3	4	0

問 2－2 以下の基本目標ごとの各基本施策の取組み状況について、あなたはどの程度満足していますか。また、今後取り組むことがどの程度重要だと考えていますか。カッコの中の考え方を参考に、市の取組をイメージしながらご回答ください。

基本目標①：多様性を認め合い、誰もが活躍できるまち

		満足度					重要度				
		満足	ば満足 どちらかといえ	どちらでもない	ば不満 どちらかといえ	不満	重要	ば重要 どちらかといえ	普通	ば重要でない どちらかといえ	重要でない
NO	【記入例】満足度、重要度に1つずつ○	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
基本施策 1 一人ひとりが大切にされ活躍できるまちづくり											
1	人権が尊重される社会の実現 (地域に存在する人権侵害が解消され、人権意識が高い地域社会が築かれている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2	男女共同参画社会の実現 (家庭、職場で性別にとらわれず、自分らしい生き方ができる社会が実現している)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
基本目標①全体の満足度・重要度		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

基本目標①の中で「4. どちらかといえば不満」「5. 不満」と回答した項目のある方のみ項目の番号と「不満」と回答した理由をお書きください。

項目番号	不満の理由・ご意見

基本目標③：子どもの個性と力がのびのび育つ教育のまち

		満足度					重要度				
		満足	ば満足 どちらかといえ	どちらでもない	ば不満 どちらかといえ	不満	重要	ば重要 どちらかといえ	普通	ば重要でない どちらかといえ	重要でない
基本施策 4 安心して子育てができるまちづくり											
10	切れ目のない子育て支援の充実 (相談窓口、親子が集える場所、預かり保育など 子育て支援サービスが充実している)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
基本施策 5 次代を担う人材を育むまちづくり											
11	特色ある魅力的な学校づくりの推進 (須坂の歴史や文化を生かした教育を展開し、 感性豊かで元気な子どもが育っている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
12	児童・青少年健全育成の推進 (家庭や地域の中で、体験や交流を通じ生きる 力が生まれている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
基本目標③全体の満足度・重要度		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

基本目標③の中で「4. どちらかといえば不満」「5. 不満」と回答した項目のある方のみ
項目番号と「不満」と回答した理由をお書きください。

項目番号	不満の理由・ご意見

基本目標④：一人ひとりが学び、高め合うまち

		満足度					重要度				
		満足	ば満足 どちらかといえ	どちらでもない	ば不満 どちらかといえ	不満	重要	ば重要 どちらかといえ	普通	ば重要でない どちらかといえ	重要でない
基本施策 6 主体的に学び合い、学びを生かすことができるまちづくり											
13	生涯学習の機会充実 (学習機会の拡大や学習成果の発表の場を提供するなど公民館が生涯学習の拠点となっている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
基本施策 7 文化・芸術・スポーツ活動に熱心なまちづくり											
14	生涯学習・文化芸術・歴史を大切にしたまちづくりの推進 (歴史・文化・芸術に親しめるまちづくりが図られている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
15	スポーツ活動の充実 (指導者の育成、スポーツ施設の充実などにより、市民のスポーツ活動が盛んである)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
基本目標④全体の満足度・重要度		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

基本目標④の中で「4. どちらかといえば不満」「5. 不満」と回答した項目のある方のみ
項目番号と「不満」と回答した理由をお書きください。

項目番号	不満の理由・ご意見

基本目標⑤：安全・安心で快適な生活と美しい自然環境がともにあるまち

		満足度					重要度				
		満足	どちらかといえ ば満足	どちらでもない	どちらかといえ ば不満	不満	重要	どちらかといえ ば重要	普通	どちらかといえ ば重要でない	重要でない
基本施策 8 安全・安心で心穏やかに暮らせるまちづくり											
16	防災体制の充実 (防災設備や備蓄品の充実など防災に対する備えがあり、防災体制が整っている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
17	消防・救急体制の充実 (消防防災施設の充実、医療機関との連携による救急体制が図られている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
18	交通安全対策の推進 (交通安全意識の啓発、子どもや高齢者が安心して歩ける道路・歩道が整っている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
19	消費生活の安全確保と意識向上 (振り込め詐欺などから市民を守るため、地域と連携して被害防止に努めている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
20	地域安全活動の推進 (防犯パトロール、防犯意識の啓発が進み、市民が犯罪や事故に対する不安を感じることなく安心して暮らせている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
基本施策 9 快適で便利な都市基盤のあるまちづくり											
21	土地の有効利用の推進 (空地・空き家が減り、耕作放棄地の解消など環境整備がされている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
22	上下水道の整備 (安全な水道水が安定供給されている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
23	橋や道路整備の推進 (道路網の整備や修繕、歩道の段差解消など整備がされている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
24	安心で快適な住環境の推進 (公共施設や住宅の耐震診断・耐震補強が図られ、快適な住環境が整備されている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
25	公共交通の確保 (市民バス、乗合タクシーなど便利で持続可能な公共交通の環境が整っている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

		満足度					重要度				
		満足	どちらかといえ ば満足	どちらでもない	どちらかといえ ば不満	不満	重要	どちらかといえ ば重要	普通	どちらかといえ ば重要でない	重要でない
基本施策 10 豊かな自然と調和する個性あるまちづくり											
26	自然環境の保全 (自然にふれあう機会が多く、効果的な自然環境の保全が進められている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
27	良好な景観の保全と育成の推進 (蔵の町並み、身近にある花壇など須坂らしい景観となっている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
28	循環型社会の推進と地球温暖化防止対策 (市民や事業者によりごみを減らす、再使用、修理して使う、リサイクル等が行われている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
基本目標⑤全体の満足度・重要度		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

[illegible]

基本目標⑦：市民とともに作る持続可能なまち

		満足度					重要度				
		満足	ば満足 どちらかといえ	どちらでもない	ば不満 どちらかといえ	不満	重要	ば重要 どちらかといえ	普通	ば重要でない どちらかといえ	重要でない
基本施策 13 未来志向型の行政経営を行うまちづくり											
36	広聴・広報の充実 （「広報すざか」や「須坂市ホームページ」などを通じて知りたい情報がいつでも入手でき、わかりやすく提供されている）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
37	ICT による利便性の向上と効率的なシステム運用 （情報通信技術を活用し快適な生活が送れている）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
38	長期的展望に立った財政運営 （長期的視点にたち、収支バランスの取れた財政運営が行われている）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
基本施策 14 活力にみちた共創のまちづくり											
39	移住定住の促進及び若者の結婚支援 （移住定住先として選ばれるような、相談体制・情報発信・受け入れ態勢整備及び、若い世代の結婚支援が行われている）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
40	協働・市民参画の推進 （市職員が意欲をもって市民のみなさんとともに課題解決に取り組んでいる）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
基本目標⑦全体の満足度・重要度		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

基本目標⑦の中で「4. どちらかといえば不満」「5. 不満」と回答した項目のある方のみ項目番号と「不満」と回答した理由をお書きください。

項目番号	不満の理由・ご意見

Ⅲ あなたご自身の活動の状況や今後の意向

問3-1 以下の各項目について、あなたの普段の活動状況や今後の意向をお答えください。

		現在の活動状況					今後の 取組み意向		
		そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	た い 取 組 み を 増 や し	現 状 の ま ま	た い 取 組 み を 減 ら し
番号	【記入例】活動状況、取組み意向に 1つずつ○	1	2	③	4	5	①	2	3
基本目標① 多様性を認め合い、誰もが活躍できるまち									
1	日常的に人権を尊重するようにしている	1	2	3	4	5	1	2	3
2	性別にとらわれず、仕事や家事・育児をしている	1	2	3	4	5	1	2	3
3	国際交流活動に取り組んでいる	1	2	3	4	5	1	2	3
基本目標② みんなで支えあい健やかに暮らせるまち									
4	健康維持・増進に取り組んでいる	1	2	3	4	5	1	2	3
5	高齢者や子どもの見守り活動に参加している	1	2	3	4	5	1	2	3
6	障がいのある方や困難を抱えている方に対して、必要があれば日常的に手助けをしている	1	2	3	4	5	1	2	3
基本目標③ 子どもの個性と力がのびのび育つ教育のまち									
7	子どもや子育て家庭をあたたく見守り、必要があればサポートしている	1	2	3	4	5	1	2	3
8	地域の子どもの健全育成活動に携わっている	1	2	3	4	5	1	2	3
基本目標④ 一人ひとりが学び、高め合うまち									
9	公民館や図書館などで自主的な学習に取り組んでいる	1	2	3	4	5	1	2	3
10	生涯学習・文化芸術に親しみ、地域みなさんと一緒に活動に取り組んでいる	1	2	3	4	5	1	2	3
11	地域の伝統行事に参加するなど、文化の継承に取り組んでいる	1	2	3	4	5	1	2	3
12	日頃スポーツをする・観る・関わっている	1	2	3	4	5	1	2	3

		現在の活動状況					今後の 取組み意向		
		そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	取 組 み を 増 や し たい	現 状 の ま ま	取 組 み を 減 ら し たい
基本目標⑤ 安全・安心で快適な生活と美しい自然環境がともにあるまち									
13	災害に対する備えを行っている	1	2	3	4	5	1	2	3
14	交通ルールや交通マナーを守っている	1	2	3	4	5	1	2	3
15	防犯活動に取り組んでいる	1	2	3	4	5	1	2	3
16	電車、バス、乗合タクシーを利用している	1	2	3	4	5	1	2	3
17	環境にやさしい生活を実践している	1	2	3	4	5	1	2	3
18	緑化や美化などの景観の保全活動に取り組んでいる	1	2	3	4	5	1	2	3
19	地球温暖化防止を意識して生活している	1	2	3	4	5	1	2	3
20	循環型社会の推進を目指しリサイクルを意識している	1	2	3	4	5	1	2	3
基本目標⑥ 活力と賑わいのある自立したまち									
21	特産品を市外の人にすすめている	1	2	3	4	5	1	2	3
22	日用品などできるだけ市内のお店で買い物するようにしている	1	2	3	4	5	1	2	3
23	須坂市を観光地として市外の人にすすめている	1	2	3	4	5	1	2	3
基本目標⑦ 市民とともにつくる持続可能なまち									
24	「広報須坂」を読んでいる	1	2	3	4	5	1	2	3
25	日常的にインターネットやスマートフォンなどの ICT を活用している	1	2	3	4	5	1	2	3
26	自治会活動に参加している	1	2	3	4	5	1	2	3
27	近所づきあいを大切にし、日常的に支え合っている	1	2	3	4	5	1	2	3
28	ボランティアや市民活動に取り組んでいる	1	2	3	4	5	1	2	3
29	市政に関心がある	1	2	3	4	5	1	2	3
30	市民として、さまざまな形で市政（須坂市のまちづくり）に参加している	1	2	3	4	5	1	2	3

IV 須坂市のまちづくりに対する総合評価

問4-1 須坂市は子育てしやすいまちだと思いますか。(1つに○)

- | | | |
|-------------------|-----------------|--------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかといえばそう思う | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえばそう思わない | 5. 思わない | |

問4-2 問4-1で「1. そう思う」「2. どちらかといえばそう思う」と回答した方のみ
須崎市は子育てしやすいまちだと思ふ理由をお書きください。

--

問 4－3 須坂市は高齢者や障がいのある方など困難を抱えた人が安心して暮らせるまちだと思いますか。(1 つに○)

1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない
4. どちらかといえばそう思わない 5. 思わない

問 4－4 問 4－3 で「4. どちらかといえばそう思わない」「5. 思わない」と回答した方のみ須坂市が高齢者や障がいのある方など困難を抱えた人が安心して暮らせるまちだと思わない理由をお書きください。

[illegible]

問 4－5 須坂市に愛着を感じますか。(1つに○)

1. 感じる 2. どちらかといえば感じる 3. どちらともいえない
4. どちらかといえば感じない 5. 感じない

問4-6 須坂市は住みやすいまちだと思いますか。(1つに○)

1. 住みやすい 2. どちらかといえば住みやすい 3. どちらともいえない
4. どちらかといえば住みにくい 5. 住みにくい

問４－７ 須坂市に今後も住みたいと思いますか。（１つに○）

- | | |
|---|---|
| 1. 今の場所で住み続けたい
3. 市外に引越したい
5. その他 (| 2. 須坂市の他の場所に住みたい
4. 近いうちに市外に移る予定がある
) |
|---|---|

問4－8 問4－7で「3. 市外に引越したい」「4. 近いうちに市外に移る予定がある」と回答した方のみ

須坂市外に引越したいと考えている理由としてあてはまるものを以下からお選びください。(すべてに○)

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| 1. 住宅や土地の価格・広さに満足出来ないから | 2. 通勤・通学に不便だから |
| 3. 日常の買い物が不便だから | 4. 自然災害への備えが不十分だから |
| 5. 騒音などの生活環境に満足出来ないから | 6. 医療・福祉環境に満足出来ないから |
| 7. 保育・子育て・教育環境に満足できないから | 8. 人間関係やつきあいがわずらわしいから |
| 9. 町会役員やPTAなど地域活動がめんどうだから | 10. 治安・防犯が心配だから |
| 11. ショッピングや娯楽を楽しめる場所が少ないから | 12. 働きたい仕事や企業等がないから |
| 13. 商売や事業を行いやすい環境でないから | 14. 仕事、学校、家族の都合でやむをえず |
| 15. その他 (|) |

V 須坂市の将来都市像

問5－1 2030年也想したいと思える須坂市の強みや魅力について自由にお書きください。

問5－2 2030年に向けて改善したいと思う須坂市の改善点について自由にお書きください。

問5-3 2030年に向けて、須坂市にどのようなまちになってほしいと思いますか。

以下からあてはまるものをお選びください。(3つまで○)

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------|
| 1. 産業が発展し、地元に雇用が豊富にあるまち | 2. ささやかでも安定した暮らしができるまち |
| 3. 豊かな自然や田園風景が守られているまち | 4. 利便性が高く、快適に生活できるまち |
| 5. 災害に強く、犯罪や事故がない安全なまち | 6. 医療や福祉が充実し、安心して暮らせるまち |
| 7. 健康づくりに取り組み、健康寿命が長いまち | 8. 地域で協力し合い、支え合いながら暮らせるまち |
| 9. 市民と行政の協働が根付いているまち | 10. 子どもを安心して産み育てられるまち |
| 11. 充実した教育が受けられ、人材が育つまち | 12. 多くの人が訪れ、賑わいのあるまち |
| 13. 地域に誇りや愛着を持てるまち | 14. 市民の自主的な学びや活動が盛んなまち |
| 15. 地域の個性や伝統文化を守り、大切に作るまち | |
| 16. 時代変化に対応し、先進的な取り組みを行うまち | |
| 17. 財源確保や行政改革の工夫がされ、安定した行政運営が行われるまち | |
| 18. その他 (|) |

VI これからのまちづくりの考え方

問6-1 近年、世界的にSDGs（国連の持続可能な開発目標）が注目され、日本でも国や地方自治体の政策で取り組む動きが広がっています。あなたはSDGsについてどの程度知っていますか。(1つに○)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 内容まで知っている | 2. 名前だけ知っている |
| 3. 知らない | |

【SDGs とは】

SDGs（エスディージーズ：持続可能な開発目標）とは、2015年の国連サミットにおいて採択された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための教育、エネルギー、経済成長と雇用など17の目標から構成され、市町村が持続的に発展するためにも役に立つ重要な視点が盛り込まれています。

問6-2 政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言していますが、カーボンニュートラルについてどの程度知っていますか。(1つに○)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 内容まで知っている | 2. 名前だけ知っている |
| 3. 知らない | |

問6-3 カーボンニュートラルに取り組む必要があると考えていますか。(1つに○)

- | |
|--------------------------------|
| 1. 必要性を感じ、すでに取り組んでいる |
| 2. 取り組む必要があると考えているが、まだ取り組んでいない |
| 3. 必要性を感じていない |

問6－4 社会的にどのような取り組みがカーボンニュートラルに貢献すると思いますか。

(3つまで○)

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| 1. 新エネルギーへの転換 | 2. 再生可能エネルギーの導入 |
| 3. 自動車等の電化 | 4. 建築物の断熱化 |
| 5. 省エネ行動 | 6. ライフスタイルの転換 |
| 7. 事業活動における脱炭素化 | 8. 脱炭素に取り組む企業への投資 |
| 9. 国や自治体の政策 | 10. 業務形態の見直し（テレワーク等の導入） |
| 11. その他（ | ） |

VII 公共施設・公共交通の利用について

問 7-1 あなたは過去 1 年間に、以下に示す公共施設をどのくらい利用しましたか。施設分類ごとに「利用頻度」から 1 つ選んで番号に○を付けてください。

「③ 年に数回程度」「④ 利用していない」を選んだ場合は、その理由を「利用が少ない理由」から選んで番号に○を付けてください。（複数可）

施設分類	利用頻度（1 つに○）				利用が少ない理由（○はいくつでも可） ※利用頻度③④の場合に回答				
	① 週に 1 回 以上	② 月に 1 回 以上	③ 年に 数回 程度	④ 利用 しない	十分 利用 する 機会 （必要 ） が 無い ・ 年 に 数 回 で は な い	施 設 が 利 用 で き る こ と を 知 ら な い	い 施 設 の 存 在 を 知 ら な い	コ ロ ナ 禍 に よ り 自 粛 し て い た	施 設 が 不 満 ・ 使 い づ ら い ・ 魅 力 が な い
1 集会・会議施設 【臥竜山公会堂、シルキーホール、勤労者研修センター、創造の家、観光交流センター2F、bota 等】	1	2	3	4	1	2	3	4	5
2 公民館 【地域公民館、旭ヶ丘ふれあいプラザ、仁礼コミュニティーセンター等】	1	2	3	4	1	2	3	4	5
3 文化施設（展示） 【市立博物館、笠鉾会館、版画美術館、人形博物館等】	1	2	3	4	1	2	3	4	5
4 文化施設（ホール） 【メセナホール】	1	2	3	4	1	2	3	4	5
5 文化施設（歴史的建造物） 【旧小田切家、旧越家、クラシック、まゆぐら、旧上高井郡役所等】	1	2	3	4	1	2	3	4	5
6 図書館 【市立須坂図書館】	1	2	3	4	1	2	3	4	5
7 温泉施設 【湯っ蔵んど】	1	2	3	4	1	2	3	4	5
8 スポーツ施設（屋外） 【県民・北部グラウンド、市営球場、庭球場、マレットゴルフ場等】	1	2	3	4	1	2	3	4	5
9 スポーツ施設（屋内） 【市民・北部体育館、柔道・剣道・卓球場、屋内ゲートボール場等】	1	2	3	4	1	2	3	4	5
10 学校施設（スポーツ・イベント利用等） 【小中学校、体育館・校庭の一般開放等】	1	2	3	4	1	2	3	4	5
11 産業系施設 【技術情報センター、やまじゅう等】	1	2	3	4	1	2	3	4	5

[illegible]

1. 週に3回以上	2. 週に1、2回	3. 月に2、3回
4. 月に1回程度	5. 半年に1回程度	6. 年に1回程度
7. 利用しない		

VIII 選挙に対する意識

1. 投票に行った	2. 投票に行かなかった	3. わからない
-----------	--------------	----------

－ 2 問 8－1 に「2. 投票に行かなかった」と回答した方のみ

投票に行かなかったのは、なぜですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--|--------------------------------|
| 1. 仕事があったから | 2. 重要な用事（仕事を除く）があったから |
| 3. 体調がすぐれなかったから | 4. 投票所が遠かったから |
| 5. 選挙権がなかったから（18 才未満、須坂市に転入して3 か月未満など） | 6. 候補者の政策や人物像など、違いがよくわからなかったから |
| 7. 選挙にあまり関心がなかったから | 8. 適当な候補者がいなかったから |
| 9. 支持する政党の候補者がいなかったから | 10. 私一人が投票してもしなくても同じだから |
| 11. 自分のように政治のことがわからない者は投票しない方がいいと思ったから | 12. 選挙によって政治はよくなると思ったから |
| 13. 天候（気候）が悪かったから | 14. 選挙があることを知らなかったから |
| 15. わからない | |
| 16. その他（ | ） |

以上でアンケートは終了となります。ご協力いただき、誠にありがとうございました。